日本史探究

令和5年度用
（2023年度用）
山川出版社
内容解説資料
この資料は令和5年度用高等学校教科書の内容解説資料として一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

詳説日本史

日探705

詳しい内容と豊富な史資料
信頼の教科書

高校日本史

日探706

豊富な材料で楽しく学べる
生徒が読んでわかる教科書

山川出版社

歴総707

『歴史総合』

探究につながる
詳しい記述

歴史総合

歴総708

『現代の歴史総合』

深める歴史
テーマ・資料・問いで考える

歴総709

『わたしたちの歴史』

見開き47テーマ
ビジュアルで楽しく学ぶ

歴史総合から探究へ

山川出版社の「歴史総合」は近現代の日本史・世界史を相互に関連付けながら、バランスよく記述しています。日本史・世界史それぞれの大きな流れや基本的事項を学習できるため、選択科目の日本史探究・世界史探究へとつながり、通史的な視点からより深い「探究」の学習を進めることができます。

日本史探究

日探705

『詳説日本史』

詳しい内容と豊富な
史資料
信頼の教科書

日探706

『高校日本史』

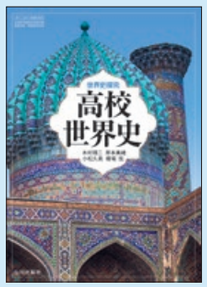
豊富な材料で
楽しく学べる
生徒が読んでわかる
教科書

世界史探究

世探704

『詳説世界史』

世界史の枠組みを
体系的に学べる
信頼の教科書



世探705

『高校世界史』

基本をおさえて、
資料で深める

世探706

『新世界史』

考える歴史の
時代に向けて
新しく生まれ変わった
『新世界史』

日本史探究とは

「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目です。

学習指導要領 大項目(A～D)のねらい

前近代の歴史を内容とする大項目AからCまでにおいては、多様な資料を効果的に活用して、歴史を**考察し表現し**、**「歴史総合」**で育んだ歴史の学び方を**活用し**つつ、我が国の歴史の展開や伝統と文化への**理解を深めます**。

近代・現代の歴史を内容とする大項目Dにおいては、**「歴史総合」**で獲得した概念やこの科目の前近代の学習とのつながり、前近代の学習で成長させた歴史を考察する力を**活用し**、歴史に関わる諸事象相互の関係性や、地域と日本、世界との関係性などを構造的に整理して**理解し**、さらに現代の日本の諸課題について多面的・多角的に**考察、構想します**。

学習指導要領 中項目((1)～(3)および(4))の構成

大項目の時代区分にはそれぞれ中項目が紐づきます。(1)では、時代の転換を歴史的環境から考察して**生徒が問いを表現し**、(2)では資料を活用して**仮説を立て**、(3)では主題を設定して、事象の意味や意義、関係性などを**考察し**、歴史に関わる諸事象の**解釈**や歴史の画期を**表現**する学習で構成されています。

(4)は「日本史探究」の**まとめ**として、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に**考察、構想し**、その結果を**表現**します。

指導要領による「日本史探究」の構成

A　原始・古代の日本と東アジア
(1)黎明期の日本列島と歴史的環境
(2)歴史資料と原始・古代の展望
(3)古代の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)

B　中世の日本と世界
(1)中世への転換と歴史的環境
(2)歴史資料と中世の展望
(3)中世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)

C　近世の日本と世界
(1)近世への転換と歴史的環境
(2)歴史資料と近世の展望
(3)近世の国家・社会の展開と画期(歴史の解釈、説明、論述)

D　近現代の地域・日本と世界
(1)近代への転換と歴史的環境
(2)歴史資料と近代の展望
(3)近現代の地域・日本と世界の画期と構造
(4)現代の日本の課題の探究

詳説日本史 日探705

詳説日本史のおもな特色 ➡p.8-25

1 各時代・各分野をバランスよく記述、充実した内容。

背景や因果関係が理解しやすい論理的な記述を心掛けました。

2 探究活動に取り組みやすい大きな図版、豊富な史資料。

判型を大きくし(A5→B5変型)、史資料を見やすくしました。

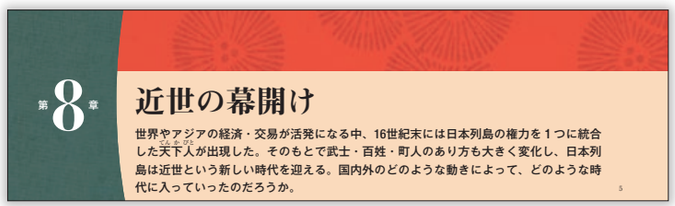
▲写真や図版を大きく掲載

▼暗記になりがちな美術作品や文学作品の一覧は削り、主要な作品は、本文や注、写真で掲載しました。

3 時代の特色をつかむ多様な問いかけ。

様々な角度から歴史を捉えられるように、随所に問いを設けました。

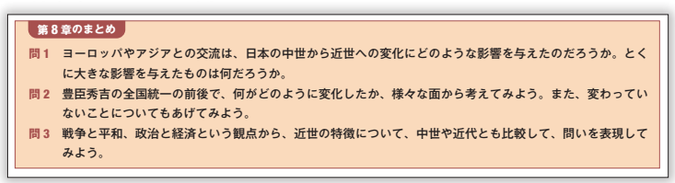
▼各章冒頭の学習上の視点となる問いかけ

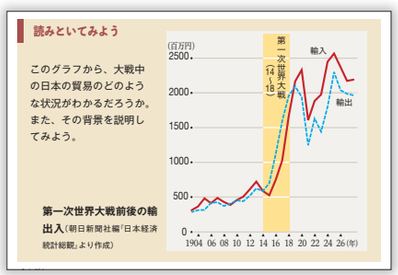


Q▶ 律令制度の導入を急速に進めることができたのは、なぜだろうか。

▲本文を読む際の着眼点となる問い

▼各章末のまとめの問い





▲史資料をもとに、解釈、説明、論述などの学習をうながす「読みといてみよう」

詳説日本史

教師用指導書 授業実践編／付属データ集 ➡p.28-33
教師用指導書 研究編 ➡p.31

〈教師用指導書 授業実践編〉

①視点・留意点
②学習の目標
③解説・史料・図版
④問いの解答例
⑤発問例・解答例
⑥板書例
⑦教科書紙面画像

〈教師用指導書 研究編〉

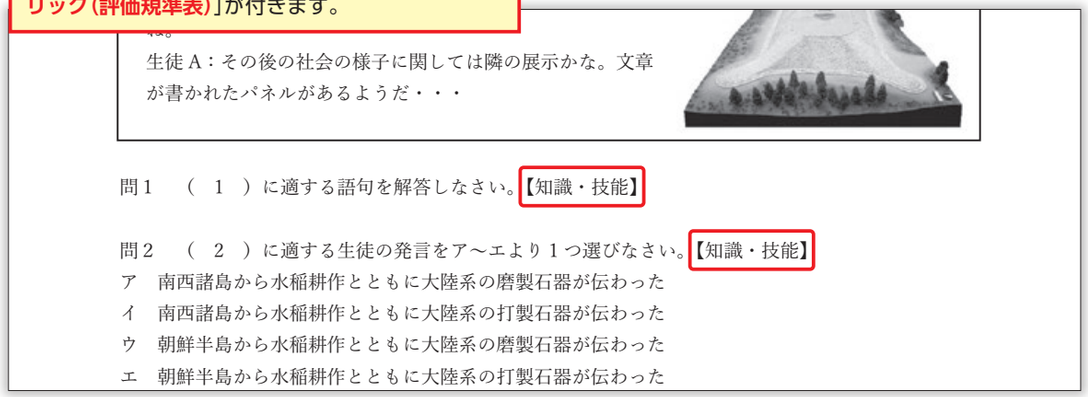
歴史事象、史料・図版などを詳しく解説

〈指導書付属データ集〉

●教科書データ
①教科書紙面(PDF)
②教科書本文・史料テキスト(Word)
③教科書掲載地図・図表(JPEG)
④指導書紙面(PDF)
⑤年間指導計画・評価規準例(Excel)

●教科書準拠教材
⑥授業用スライド(PowerPoint)
⑦授業用スライド対応プリント(Word)
⑧準拠テスト例(Word)
⑨詳説日本史授業用整理ノート(Word、PDF)
⑩白地図集(JPEG)

準拠テスト例は、小問ごとに**観点別評価を明記**しています。また、準拠テスト例にあわせた**「ルーブリック(評価規準表)」**が付きます。



節ごとにA4約5枚予定。

詳説日本史

準拠ノート ➡p.34-35

〈詳説日本史ノート〉

①教科書のまとめ(穴埋め形式)
　書込式、両脇に解答欄
②「史料チェック」
　重要な文字資料を確認
③「探究コーナー」
　読み取り問題や学習を深める問題

〈詳説日本史授業用整理ノート〉

①教科書のまとめ(穴埋め形式)
　書込式、空欄に直接記入
②教科書の問いを掲載
　「Q」「読みといてみよう」
　「章のまとめ」に対応した解答欄
③自由に使えるノート欄

高校日本史 日探706

高校日本史のおもな特色 ➡p.42-55

1 要点をおさえた、わかりやすい教科書。

生徒が読んで理解できるよう、わかりやすい文章で叙述しました。
注も少なくするなど、本文の読みやすさを第一に考えました。

2 興味・関心を高める工夫と、豊富な史資料。

- 判型を大きくし(A5→B5判)、史資料が見やすくなりました。
- 画像や動画、史料の現代語訳にリンクする2次元コードを69点掲載しました。

▼2次元コード69点

2 改新の詔

其の一に曰く、昔在の天皇等の立てたまへる子代の民❶、処々の屯倉❷、及び、別には臣・連・伴造・国造・村首の所有る部曲の民❸、処々の田荘❹を罷めよ。仍りて食封を大夫より以上に賜ふこと、各差あらむ❺。

其の二に曰く、初めて京師を修め、畿内・国司❻・郡司・関塞❼・斥候❽・防人・駅馬❾・伝馬❿を置き、及び鈴・契⓫を造り、山河を定めよ⓬。

其の三に曰く、初めて戸籍・計帳・班田収授の法を造れ。

其の四に曰く、旧の賦役⓭を罷めて、田の調⓮を行へ。……

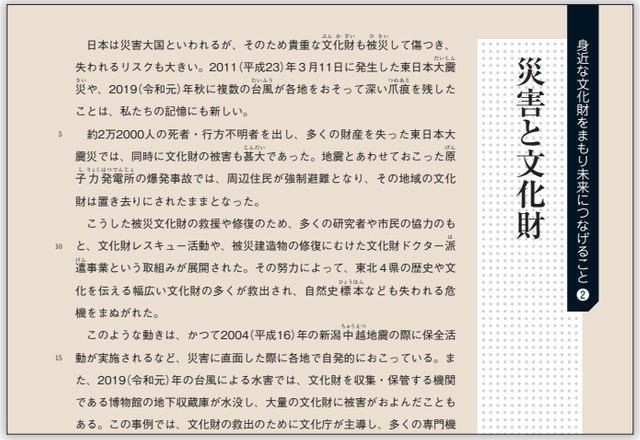
別に戸別の調を収れ。

（『日本書紀』）

❶大王家の直轄民。❷王権の直轄地。❸❹二五ページ参照。❺おのおのの地位に応じて給付する。❻畿内国の司と読む説もある。❼関所。❽北辺の監視員。❾公的な伝達・輸送に用いられる馬。❿駅馬と不契。⓫利用する際の証明とした。⓬地方の境界を定める。⓭これまでの租税。⓮一定基準で田地に賦課する税。

現代語訳

▼文化財や地域の多様性を学ぶ8点の「特集ページ」


身近な文化財をまもり未来につなげること❷

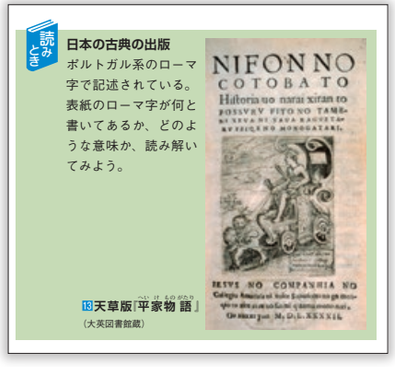
災害と文化財

日本は災害大国といわれるが、そのため貴重な文化財も被災して傷つき、失われるリスクも大きい。2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災や、2019(令和元)年秋に複数の台風が各地をおそって深い爪痕を残したことは、私たちの記憶にも新しい。

約2万2000人の死者・行方不明者を出し、多くの財産を失った東日本大震災では、同時に文化財の被害も甚大であった。地震とあわせておこった原子力発電所の爆発事故では、周辺住民が強制避難となり、その地域の文化財は置き去りにされたままとなった。

こうした被災文化財の救援や修復のため、多くの研究者や市民の協力のもと、文化財レスキュー活動や、被災建造物の修復にむけた文化財ドクター派遣事業という取組みが展開された。その努力によって、東北4県の歴史や文化を伝える幅広い文化財の多くが救出され、自然史標本なども失われる危機をまぬがれた。

このような動きは、かつて2004(平成16)年の新潟中越地震の際に保全活動が実施されるなど、災害に直面した際に各地で自発的におこっている。また、2019(令和元)年の台風による水害では、文化財を収集・保管する機関である博物館の地下収蔵庫が水没し、大量の文化財に被害がおよんだこともある。この事例では、文化財の救出のために文化庁が主導し、多くの専門機


読みとき

日本の古典の出版

ポルトガル系のローマ字で記述されている。表紙のローマ字が何と書いてあるか、どのような意味か、読み解いてみよう。

NIFONNO COTOBATO

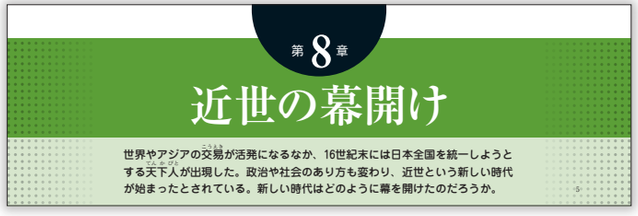
Historia no naraxiran to

JESVS NO COMPANHIA NO

⑬天草版「平家物語」

(大英図書館蔵)

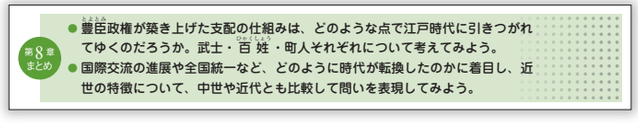
▲史資料をもとに解釈、説明、論述するための発展的な「読みとき」


第8章

近世の幕開け

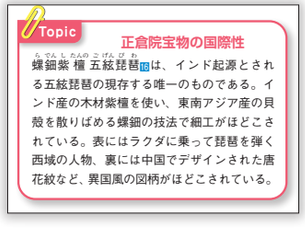
世界やアジアの交易が活発になるなか、16世紀末には日本全国を統一しようとする天下人が出現した。政治や社会のあり方も変わり、近世という新しい時代が始まったとされている。新しい時代はどのように幕を開けたのだろうか。

▲各時代の冒頭には時代の転換を探究するための問いかけ


第8章まとめ

- 豊臣政権が築き上げた支配の仕組みは、どのような点で江戸時代に引きつがれてゆくのだろうか。武士・百姓・町人それぞれについて考えてみよう。
- 国際交流の進展や全国統一など、どのように時代が転換したのかに着目し、近世の特徴について、中世や近代とも比較して問いを表現してみよう。

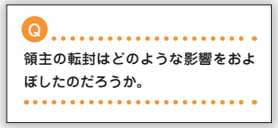
▲各章末のまとめの問い


Topic

正倉院宝物の国際性

螺鈿紫檀五絃琵琶⑮は、インド起源とされる五絃琵琶の現存する唯一のものである。インド産の木材紫檀を使い、東南アジア産の貝殻を散りばめる螺鈿の技法で細工がほどこされている。表にはラクダに乗って琵琶を弾く西域の人物、裏には中国でデザインされた唐花紋など、異国風の図柄がほどこされている。

◀興味・関心を高める75点の「Topic」


Q

領主の転封はどのような影響をおよぼしたのだろうか。

◀本文を読む際の着眼点となる問い

高校日本史

教師用指導書 授業実践編／付属データ集 ➡p.58-61
教師用指導書 研究編 ➡p.31

〈教師用指導書 授業実践編〉

①学習の目標
②解説
③資料・図版
④問いの解答例
⑤板書例
⑥教科書紙面画像
⑦ねらい
⑧問いの解答例

〈教師用指導書 研究編〉

歴史事象、史料・図版などを詳しく解説

〈指導書付属データ集〉

●教科書データ

①教科書紙面(PDF)
②教科書本文・史料テキスト(Word)
③教科書掲載地図・図表(JPEG)
④指導書紙面(PDF)
⑤年間指導計画・評価規準例(Excel)

●教科書準拠教材

⑥授業用スライド(PowerPoint)
⑦授業用スライド対応プリント(Word)
⑧準拠テスト例(Word)
⑨高校日本史ノート(Word、PDF)
⑩白地図集(JPEG)

準拠テスト例は、小問ごとに**観点別評価を明記**しています。
また、準拠テスト例にあわせた**「ルーブリック(評価規準表)」**が付きます。

問1. レポート内の［ X ］・［ Y ］に入る文章の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

【思考・判断・表現】

ア　読み取り内容だけでなく、銅鐸が存在したということは水稲耕作にともなう戦いの準備につながり、人々にとって安定した定住生活が実現していたことも推測できる。

イ　読み取り内容だけでなく、銅鐸が存在したということは収穫を祈願し、収穫に感謝する際の祭りの道具が当時存在したこともうかがえる。

ウ　日本列島の広範囲において水田跡や関連施設の遺跡が見つかっていることから、食料採集文化から食料生産文化への移行がうかがえる。

エ　紫雲出山遺跡や唐古・鍵遺跡のような水田跡の遺跡が見つかっているが、北海道や南西諸島では遺跡が見つかっておらず、水稲耕作が受容されていなかったといえる。

2　X－ア　Y－ウ　②　X－ア　Y－エ　③　X－イ　Y－ウ　④　X－イ　Y－エ

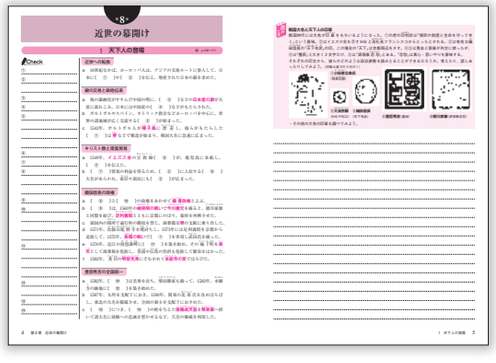
節ごとにA4約5枚予定。

高校日本史

準拠ノート ➡p.62-63

〈高校日本史ノート〉

①教科書のまとめ
（穴埋め形式で重要語句をチェック）
②教科書の「読みとき」掲載
③自由に使えるノート欄



詳説日本史

日本史探究(日探705)　B5変型判(230㎜×174㎜)　398頁

[編者]

佐藤　信　東京大学名誉教授
五味　文彦　東京大学名誉教授
高埜　利彦　学習院大学名誉教授
鈴木　淳　東京大学教授

[著作者]

老川　慶喜　立教大学名誉教授
大津　透　東京大学教授
早乙女雅博　東京大学名誉教授
坂上　康俊　九州大学名誉教授
桜井　英治　東京大学教授
設楽　博己　東京大学名誉教授
高橋　典幸　東京大学教授
沼尻　晃伸　立教大学教授
牧原　成征　東京大学准教授
三枝　暁子　東京大学准教授
三谷　芳幸　筑波大学准教授
村　和明　東京大学准教授
山口　輝臣　東京大学教授
湯川　文彦　お茶の水女子大学准教授
吉田　伸之　東京大学名誉教授
渡邉　宏明　海城中学高等学校教諭
會田　康範　学習院高等科教諭
太田尾智之　東京都立国立高等学校教諭
中家　健　東京都立小石川中等教育学校教諭
野﨑　雅秀　東京大学教育学部附属中等教育学校教諭
株式会社 山川出版社

message

高埜利彦
(たかのとしひこ)
学習院大学名誉教授

「日進月歩」とまでは申しませんが、歴史学や考古学などの研究者の日々の取組によって、日本の歴史像は描き直されてきました。132年の伝統のある学会誌『史学雑誌』の回顧と展望に見るように、膨大な数の研究論文が毎年発表されています。この不断の学問の営みの中から、新しい歴史像が学会の共有財産として認識され、やがて定着するようになると、それが教科書に反映されて、今回のような大きな改訂の機会に、書き直されることになります。

日本の歴史像は、多数の出版社によって書籍などのかたちで社会に伝えられていきます。歴史学は社会と結びつきやすい特色をもっていますが、それは中学・高校生の時に日本史を広く学んだ人たちが、その後も関心を持続していくからだと思います。

高校の教室で生徒たちに日本史の授業を担当する先生方の役割は、歴史学に裏付けられた共通の日本史像を、教科書を通して次の世代に認識してもらうところにあります。教科書の改訂は、現場の先生方に負担を掛けることになります。かつて、教育現場に週１日の研修日があり、教材研究などに余裕の時間をもてた頃とは異なり、現在の厳しい環境の中で教材研究に時間を割くことは容易ではないと思いますが、是非、新しくなった『詳説日本史』を活用していただければと考えます。

歴史学という基礎の学問から始まり、次世代の歴史認識を形成する高校の現場まで、一貫した流れの最後をしめくくる、高校の先生方に大いなる期待をしています。

鈴木淳
(すずきじゅん)
東京大学教授

新型コロナウイルス感染症の流行にともなう予期せぬ社会の変動によって、人々の暮らしが大きく左右されました。そしてそれへの対応は、国や自治体に頼るだけではなく、自らの責任で考えなくてはならないことが痛感されました。産業の国際競争力も一時の勢いを失い、実業界でも若手に対して、指示を待つだけではなく自ら考える力を強く期待する時代を迎えています。

そのような中で、新たに登場した「日本史探究」という科目では、歴史について、調べ、まとめ、考察し、さらによりよい社会の実現を視野に課題を探究することなどの主体的な活動を通じて、自分で根拠を確認した情報に基づいて自ら考える力を養うことが求められています。それは、考える力を養うとともに、先人たちが犠牲をはらいながら積み重ねてきた貴重な経験を現代の社会に生かす学習であり、それを通じて、改めて歴史を学ぶ意味の大きさを理解することも期待されます。

この教科書は『詳説日本史』の長年の蓄積を生かしながら、「日本史探究」の目標を達成しようとするものです。各時代の特質を理解するのにふさわしい厳選した史資料を取り上げた「歴史資料と○○の展望」、あるいは、本文横や章末の数多くの問いにより、様々なかたちで探究の入り口や手がかりを示すとともに、本文は問題意識をもっての学習に対応できる丁寧な叙述となっています。この教科書で、知識を身に付けるだけではなく、歴史に学んで考える力を身に付けてもらいたいと思います。

詳しい内容と豊富な史資料
信頼の教科書

1　各時代・各分野をバランスよく記述、充実した内容。

- **本文を重視**し、「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」の**各時代**、政治・外交・経済・文化などの**各分野**について、**網羅的**に**バランスよく**記述しました。
- 歴史的なできごとの**背景**や**因果関係**が理解しやすくなるように、**論理的な記述**を心掛けました。充実した内容で、思考力・判断力・表現力を働かせるための基礎知識を獲得できます。

2　探究活動に取り組みやすい大きな図版、豊富な史資料。

- 考察を深め、歴史を探究するための**史資料を数多く掲載**しました。また、教科書の判型を大きくし(**A5判→B5変型判**)、写真・図版を大きく・見やすく掲載しました。
- 歴史叙述の基礎となる**文字資料**のほか、当時の様子を推測するための**図版・写真**や、数値から時代背景を考察できる**統計資料**などを豊富に取り入れています。
- 「歴史資料と○○の展望」では、**多様な史資料**を取り上げ、生徒が**多角的に考察**できるよう、工夫しています。

3　時代の特色をつかむ多様な問いかけ。

- 各章の冒頭では導入文と合わせて、その章の学習上の**視点となる問いかけ**を提示し、各章の章末では**「まとめ」の問い**を設けてその章の学習を振り返り、考察できるようにしています。
- 本文を読む際の**着眼点**となるように、また様々な角度から歴史を捉えられるように、随所に**問い(Q)**を設けました。また、史資料に関連した**「読みといてみよう」**では、解釈・説明・論述をうながす問いかけをしています。

関連教材

授業準備／テスト／評価に

- 教師用指導書 授業実践編 ➡p.28-31
- デジタル 教師用指導書 授業実践編 付属データ集 ➡p.32-33
- 教師用指導書 研究編 ➡p.31

授業／予習・復習に

- 準拠ノート ➡p.34-35
- デジタル デジタル教科書 ➡p.66-69

「日本史B」版と「日本史探究」版の対照表

「日本史B」版

章・節	小見出し
1章　日本文化のあけぼの	
第1節 文化の始まり	日本列島と日本人 旧石器時代人の生活 縄文文化の成立 縄文人の生活と信仰
第2節 農耕社会の成立	弥生文化の成立 弥生人の生活 小国の分立 邪馬台国連合
第3節 古墳とヤマト政権	古墳の出現とヤマト政権 前期・中期の古墳 東アジア諸国との交渉 大陸文化の受容 古墳文化の変化 古墳時代の人びとの生活 古墳の終末 ヤマト政権と政治制度
2章　律令国家の形成	
第1節 飛鳥の朝廷	東アジアの動向とヤマト政権の発展 飛鳥の朝廷と文化
第2節 律令国家への道	大化改新 律令国家への道 白鳳文化 大宝律令と官僚制 民衆の負担
第3節 平城京の時代	遣唐使 奈良の都平城京 地方官衙と「辺境」 藤原氏の進出と政界の動揺 民衆と土地政策
第4節 天平文化	天平文化と大陸 国史編纂と『万葉集』 国家仏教の展開 天平の美術
第5節 平安王朝の形成	平安遷都と蝦夷との戦い 平安時代初期の政治改革 地方と貴族社会の変貌 唐風文化と平安仏教 密教芸術
3章　貴族政治と国風文化	
第1節 摂関政治	藤原氏北家の発展 摂関政治 国際関係の変化
第2節 国風文化	国文学の発達 浄土の信仰 国風美術 貴族の生活
第3節 地方政治の展開と武士	受領と負名 荘園の発達 地方の反乱と武士の成長 源氏の進出
4章　中世社会の成立	
第1節 院政と平氏の台頭	延久の荘園整理令と荘園公領制 院政の開始 院政期の社会 保元・平治の乱 平氏政権 院政期の文化
第2節 鎌倉幕府の成立	源平の争乱 鎌倉幕府 幕府と朝廷

「日本史探究」版

青字は章・節・小見出しのタイトル変更など。

章・節	小見出し	備考
A　原始・古代の日本と東アジア		
(1)黎明期の日本列島と歴史的環境		
1章　日本文化のあけぼの		
第1節 文化の始まり	日本列島と日本人 旧石器時代人の生活 縄文文化の成立 縄文人の生活と信仰	◀縄文時代や弥生時代の始まりの記述を、C14年代測定などをふまえて変更(パンフレットp.13参照)。
第2節 農耕社会の成立	弥生文化の成立 弥生人の生活 小国の分立 邪馬台国連合	
(2)歴史資料と原始・古代の展望		
①古代社会と海外との交流　②木簡から古代国家を探る		◀新課程での新ページ。
(3)古代の国家・社会の展望と画期（歴史の解釈、説明、論述）		
2章　古墳とヤマト政権		
第1節 古墳文化の展開	古墳の出現とヤマト政権 前期・中期の古墳 東アジア諸国との交渉 大陸文化の受容 後期の古墳 古墳時代の人々の生活 ヤマト政権と政治制度 古墳の終末	◀入れ替え。 ◀入れ替え。
第2節 飛鳥の朝廷	東アジアの動向とヤマト政権の発展 飛鳥の朝廷と文化	
3章　律令国家の形成		
第1節 律令国家への道	大化改新 天智天皇・天武天皇 律令の成立と「日本」 官僚制 民衆の負担	
第2節 平城京の時代	遣唐使 奈良の都平城京 地方の統治と蝦夷・隼人 藤原氏の進出と政界の動揺 民衆と土地政策	
第3節 律令国家の文化	白鳳文化 天平文化と大陸 国史編纂と『万葉集』 国家仏教の展開 天平の美術	◀白鳳文化を移動。
第4節 律令国家の変容	平安遷都と蝦夷との戦い 平安時代初期の政治改革 地方と貴族社会の変容 唐風文化と平安仏教 密教芸術	
4章　貴族政治の展開		
第1節 摂関政治	藤原氏北家の発展 摂政・関白のはじまり 延喜・天暦の治 摂関政治 国際関係の変化	◀「藤原氏北家の発展」は3つの小見出しに分割。
第2節 国風文化	国文学の発達 浄土の信仰 国風美術 貴族の生活	
第3節 地方政治の展開と武士	受領と負名 荘園の発達 地方の反乱と武士の成長	◀「源氏の進出」の小見出しと一体化。前九年合戦・後三年合戦は中世へ。
B　中世の日本と世界		
(1)中世への転換と歴史的環境		
5章　院政と武士の躍進		
第1節 院政の始まり	日本列島の大きな変化 延久の荘園整理令と荘園公領制 院政の開始	◀冒頭に小見出しを追加して、前の時代からの変化の大きな流れを記述。 ◀前九年合戦・後三年合戦は、この小見出しに追加。
第2節 院政と平氏政権	院政期の社会 保元・平治の乱 平氏政権 院政期の文化	◀平氏政権のうち日宋貿易や大和田泊の記述はここで扱う。
(2)歴史資料と中世の展望		
絵画から中世社会を探る		◀新課程での新ページ。
(3)中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）		
6章　武家政権の成立		
第1節 鎌倉幕府の成立	源平の争乱 鎌倉幕府 幕府と朝廷	◀徳子入内、安徳天皇即位の平氏政権の全盛期はここで扱う。

章・節	小見出し
第3節 武士の社会	北条氏の台頭 承久の乱 執権政治 武士の生活 武士の土地支配
第4節 蒙古襲来と幕府の衰退	蒙古襲来 蒙古襲来後の政治 琉球とアイヌの動き 社会の変動 幕府の衰退
第5節 鎌倉文化	鎌倉文化 鎌倉仏教 中世文学のおこり 芸術の新傾向
5章　武家社会の成長	
第1節 室町幕府の成立	鎌倉幕府の滅亡 建武の新政 南北朝の動乱 守護大名と国人一揆 室町幕府 東アジアとの交易 琉球と蝦夷ヶ島
第2節 幕府の衰退と庶民の台頭	惣村の形成 幕府の動揺と土一揆 応仁の乱と国一揆 農業の発達 商工業の発達
第3節 室町文化	室町文化 南北朝文化 北山文化 東山文化 庶民文芸の流行 文化の地方普及 新仏教の発展
第4節 戦国大名の登場	戦国大名 戦国大名の分国支配 都市の発展と町衆
6章　幕藩体制の確立	
第1節 織豊政権	ヨーロッパ人の東アジア進出 南蛮貿易とキリスト教 織田信長の統一事業 豊臣秀吉の全国統一 検地と刀狩 秀吉の対外政策と朝鮮侵略
第2節 桃山文化	桃山文化 桃山美術 町衆の生活 南蛮文化
第3節 幕藩体制の成立	江戸幕府の成立 幕藩体制 幕府と藩の機構 天皇と朝廷 禁教と寺社 江戸時代初期の外交 鎖国政策 長崎貿易 朝鮮と琉球・蝦夷地 寛永期の文化
第4節 幕藩社会の構造	身分と社会 村と百姓 町と町人 農業 林業・漁業 手工業・鉱山業 商業
7章　幕藩体制の展開	
第1節 幕政の安定	平和と秩序の確立 元禄時代 正徳の政治
第2節 経済の発展	農業生産の進展 諸産業の発達 交通の整備と発達 貨幣と金融 三都の発展 商業の展開
第3節 元禄文化	元禄文化 元禄期の文学 儒学の興隆 諸学問の発達 元禄美術

章・節	小見出し	備考
第2節 武士の社会	北条氏の台頭 承久の乱 執権政治 武士の生活 武士の土地支配	
第3節 モンゴル襲来と幕府の衰退	モンゴル襲来 モンゴル襲来後の政治 琉球とアイヌの動き 社会の変動 幕府の衰退	
第4節 鎌倉文化	鎌倉文化 鎌倉仏教 中世文学のおこり 美術の新傾向	
7章　武家社会の成長		
第1節 室町幕府の成立	鎌倉幕府の滅亡 建武の新政 南北朝の動乱 守護大名と国人一揆 室町幕府 東アジアとの交易 琉球と蝦夷ヶ島	
第2節 幕府の衰退と庶民の台頭	惣村の形成 幕府の動揺と土一揆 応仁の乱と国一揆 農業の発達 商工業の発達	
第3節 室町文化	文化の融合 動乱期の文化 室町文化の成立 室町文化の展開 庶民文芸の流行 文化の地方普及 新仏教の発展	◀小見出し名を変更(パンフレットp.13参照)。
第4節 戦国大名の登場	戦国大名 戦国大名の分国支配 都市の発展と町衆	
C　近世の日本と世界		
(1)近世への転換と歴史的環境		
8章　近世の幕開け		
第1節 織豊政権	近世への転換 銀の交易と鉄砲伝来 キリスト教と南蛮貿易 織田政権 豊臣秀吉の全国統一 豊臣政権の土地・身分政策 対外政策と侵略戦争	◀冒頭で、前の時代からの変化の大きな流れを記述(パンフレットp.13参照)。
第2節 桃山文化	桃山文化 美術と風俗 芸能の新展開 国際的な文化の交流	
(2)歴史資料と近世の展望		
生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化		◀新課程での新ページ。
(3)近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）		
9章　幕藩体制の成立と展開		
第1節 幕藩体制の成立	江戸幕府の成立 幕藩体制 幕府と藩の機構 天皇と朝廷 禁教と寺社 江戸時代初期の外交 鎖国政策 長崎貿易 朝鮮と琉球・蝦夷地 寛永期の文化	
第2節 幕藩社会の構造	身分と社会 村と百姓 町と町人 農業 林業・漁業 手工業・鉱山業 商業	
第3節 幕政の安定	平和と秩序の確立 元禄時代 正徳の政治	
第4節 経済の発展	農業生産の進展 諸産業の発達 交通の整備と発達 貨幣と金融 三都の発展 商業の展開	
第5節 元禄文化	元禄文化 元禄期の文学 儒学の興隆 諸学問の発達 元禄美術	

「日本史B」版と「日本史探究」版の対照表

章・節	小見出し
8章　幕藩体制の動揺	
第1節 幕政の改革	享保の改革 社会の変容 一揆と打ちこわし 田沼時代
第2節 宝暦・天明期の文化	宝暦・天明期の文化 洋学の始まり 国学の発達と尊王論 生活から生まれた思想 儒学教育と学校 文学と芸能 絵画
第3節 幕府の衰退と 近代への道	寛政の改革 鎖国の動揺 文化・文政時代 大塩の乱 天保の改革 経済の変化 朝廷と雄藩の浮上
第4節 化政文化	化政文化 学問・思想の動き 教育 文学 美術 民衆文化の成熟
9章　近代国家の成立	
第1節 開国と幕末の動乱	開国 開港とその影響 公武合体と尊攘運動 倒幕運動の展開 幕府の滅亡 幕末の科学技術と文化
第2節 明治維新と富国強兵	戊辰戦争と新政府の発足 廃藩置県 四民平等 地租改正 殖産興業 文明開化 明治初期の対外関係 新政府への反抗
第3節 立憲国家の成立と 日清戦争	自由民権運動 松方財政 民権運動の再編 憲法の制定 諸法典の編纂 初期議会 条約改正 朝鮮問題 日清戦争と三国干渉
第4節 日露戦争と国際関係	立憲政友会の成立 中国分割と日英同盟 日露戦争 日露戦争後の国際関係 桂園時代
第5節 近代産業の発展	産業革命 紡績・製糸・鉄道 重工業の形成 農業と農民 社会運動の発生
第6節　近代文化の発達	明治の文化 思想と信教 教育の普及 科学の発達 ジャーナリズムと近代文学 明治の芸術 生活様式の近代化
10章　二つの世界大戦とアジア	
第1節 第一次世界大戦と日本	大正政変 第一次世界大戦 日本の中国進出 大戦景気 政党内閣の成立
第2節 ワシントン体制	パリ講和会議とその影響 ワシントン会議と協調外交 社会運動の勃興 普選運動と護憲三派内閣の成立

章・節	小見出し	備考
10章　幕藩体制の動揺		
第1節 幕政の改革	享保の改革 社会の変容 一揆と打ちこわし 田沼時代	
第2節 宝暦・天明期の文化	宝暦・天明期の文化 洋学の始まり 国学の発達と尊王論 生活から生まれた思想 儒学教育と学校 文学と芸能 絵画	
第3節 幕府の衰退と 近代への道	寛政の改革 鎖国の動揺 文化・文政時代 大塩の乱 天保の改革 経済の変化 朝廷と雄藩の浮上	
第4節 化政文化	化政文化 学問・思想の動き 教育 文学 美術 民衆文化の成熟	
D　近現代の地域・日本と世界		
(1)近代への転換と歴史的環境		
11章　近世から近代へ		
第1節 開国と幕末の動乱	内憂外患への対応 ペリー来航と対外方針の模索 開港とその影響 公武合体と尊攘運動	◀冒頭で、前の時代からの変化の大きな流れを記述。
第2節 幕府の滅亡と新政府の発足	幕府の滅亡 戊辰戦争と新政府の発足 幕末社会の動揺と変革	
(2)歴史資料と近代の展望		
①五箇条の誓文と国是　②貿易の変遷から見る日本の近代・現代		◀新課程での新ページ。
(3)近現代の地域・日本と世界の画期と構造		
12章　近代国家の成立		
第1節 明治維新と富国強兵	廃藩置県 四民平等 地租改正 殖産興業 文明開化 明治初期の対外関係 政府への反抗	
第2節 立憲国家の成立	自由民権運動 自由民権運動の再編 憲法の制定 諸法典の編纂 初期議会	◀松方財政は14章の冒頭へ。 ◀松方財政の影響には触れるが、内容については、14章の冒頭へ。
13章　近代国家の展開		
第1節 日清・日露戦争と国際関係	条約改正 朝鮮問題 日清戦争と三国干渉 立憲政友会の成立 列強の中国進出と日英同盟 日露戦争 韓国併合 満洲への進出 桂園時代	◀「日露戦争後の国際関係」の小見出しを「韓国併合」「満洲への進出」の2つに分割。
第2節 第一次世界大戦と日本	大正政変 第一次世界大戦 日本の中国進出 政党内閣の成立	◀明治～大正の政治・外交の記述をひと続きに。
第3節　ワシントン体制	パリ講和会議とその影響 ワシントン会議と協調外交 社会運動の勃興 普選運動と護憲三派内閣の成立	※社会運動の勃興のうち労働運動(現行p.329)は14章へ。
14章　近代の産業と生活		
第1節　近代産業の発展	通貨と銀行 産業革命 紡績と製糸 鉄道と海運 重工業の形成 農業と農民 労働運動の進展	◀産業革命の前提の中で、松方財政について触れる。 ◀明治～大正の経済・社会・文化の記述をひと続きに。 ◀社会運動の勃興のうち労働運動(現行p.329)はここに。
第2節　近代文化の発達	明治の文化と宗教 教育の普及 科学の発達 近代文学 明治の芸術 生活様式の近代化	※ジャーナリズム(現行p.312)、啓蒙主義や政教社(現行p.308)は12章の「自由民権運動の再編」(p.249)へ移動。

章・節	小見出し
第3節 市民生活の変容と大衆文化	都市化の進展と市民生活 大衆文化の誕生 学問と芸術
第4節 恐慌の時代	戦後恐慌から金融恐慌へ 社会主義運動の高まりと積極外交への転換 金解禁と世界恐慌 協調外交の挫折
第5節 軍部の台頭	満洲事変 政党内閣の崩壊と国際連盟からの脱退 恐慌からの脱出 転向の時代 二・二六事件
第6節 第二次世界大戦	三国防共協定 日中戦争 戦時統制と生活 戦時下の文化 第二次世界大戦の勃発 新体制と三国同盟 太平洋戦争の始まり 戦局の展開 国民生活の崩壊 敗戦
11章　占領下の日本	
第1節 占領と改革	戦後世界秩序の形成 初期の占領政策 民主化政策 政党政治の復活 日本国憲法の制定 生活の混乱と大衆運動の高揚
第2節 冷戦の開始と講和	冷戦体制の形成と東アジア 占領政策の転換 朝鮮戦争と日本 講和と安保条約 占領期の文化
12章　高度成長の時代	
第1節 55年体制	冷戦構造の世界 独立回復後の国内再編 55年体制の成立 安保条約の改定 保守政権の安定
第2節 経済復興から高度成長へ	朝鮮特需と経済復興 高度経済成長 大衆消費社会の誕生 高度成長のひずみ
13章　激動する世界と日本	
第1節 経済大国への道	ドル危機と石油危機 高度経済成長の終焉 経済大国の実現 バブル経済と市民生活
第2節 冷戦の終結と日本社会の変容	冷戦から地域紛争へ 55年体制の崩壊 平成不況下の日本経済 現代の諸課題

章・節	小見出し	備考
第3節 市民生活の変容と大衆文化	大戦景気 都市化の進展と市民生活 大衆文化の誕生 学問と芸術	
15章　恐慌と第二次世界大戦		
第1節 恐慌の時代	戦後恐慌から金融恐慌へ 社会主義運動の高まりと積極外交への転換 金解禁と世界恐慌 協調外交の挫折	
第2節 軍部の台頭	満洲事変 政党内閣の崩壊と国際連盟からの脱退 恐慌からの脱出 転向の時代 二・二六事件	
第3節 第二次世界大戦	三国防共協定 日中戦争 戦時統制と生活 戦時下の文化 第二次世界大戦の勃発 新体制と三国同盟 太平洋戦争の始まり 戦局の展開 国民生活の崩壊 敗戦	
16章　占領下の日本		
第1節 占領と改革	戦後世界秩序の形成 初期の占領政策 民主化政策 政党政治の復活 日本国憲法の制定 生活の混乱と大衆運動の高揚	
第2節 冷戦の開始と講和	冷戦体制の形成と東アジア 占領政策の転換 朝鮮戦争と日本 講和と安保条約 占領期の文化	
17章　高度成長の時代		
第1節 55年体制	冷戦構造の世界 独立回復後の国内再編 55年体制の成立 安保条約の改定 保守政権の安定	
第2節 経済復興から高度成長へ	朝鮮特需と経済復興 高度経済成長 大衆消費社会の誕生 高度経済成長のひずみ	
18章　激動する世界と日本		
第1節 経済大国への道	ドル危機と石油危機 高度経済成長の終焉 経済大国の実現 バブル経済と市民生活	
第2節 冷戦の終結と日本社会の変容	冷戦から地域紛争へ 55年体制の崩壊 平成不況下の日本経済 現代の諸課題	
(4)現代の日本の課題の探究		
日本における自然災害の歴史		◀新課程での新ページ。

おもな変更箇所の例

●縄文時代や弥生時代の始まりの記述を、C14年代測定などをふまえて変更しました。

教科書p.9　4～8行目

こうした自然環境の変化に対応して、人々の生活も大きくかわり、日本列島に**縄文文化**が成立した。この文化は約1万6000年前から、水稲農耕をともなう弥生文化が始まる約2800～2500年前頃までの期間にわたるが(縄文時代)、とくに温暖化が顕著になる約1万1700年前以降に発展した。

教科書p.13　8～13行目

縄文文化が終末を迎えた紀元前8 世紀頃、朝鮮半島に近い九州北部で水田による米づくりが開始され、紀元前5～前4世紀頃に東日本にも広まった。北海道と南西諸島を除く日本列島で、**水稲耕作**を基礎とする農耕文化が形成されてから、古墳がつくられるようになる3世紀半ばまでを**弥生時代**と呼び、その文化を**弥生文化**と呼んでいる。

●室町文化の記述を変更しました。

教科書p.125　注6

❻室町時代の文化は、3代将軍足利義満の頃の文化を「北山文化」、8代将軍義政の頃の文化を「東山文化」と呼んで区別することが多い。しかし、両文化に挟まれた4代将軍義持・6代将軍義教の頃にもすぐれた著作物や美術作品が数多く出ていることから、実際には両文化は強い連続性をもっていたといえる。そこで、ここでは室町時代の文化を一貫したものとしてとらえ、「室町文化」と呼んでいる。

●近世の冒頭は、銀の交易から書き始めました。

教科書p.138　7～14行目・20～27行目

近世への転換　戦国大名が列島各地に割拠していた16世紀半ば、日本では銀が大増産され、また海上航路でアジア交易に参入してきたヨーロッパ人によって鉄砲やキリスト教が伝えられた。国際的な交易の活性化や外来の技術・思想にどのように対応するかが、為政者たちに問われる時代となった。以後、有力な大名による領国の統合が急速に進み、……

銀の交易と鉄砲伝来　1530年代以降、**石見銀山**などで、朝鮮から伝わった灰吹法という新しい精錬技術が導入され、銀が大幅に増産された。中国の明は16世紀になると税の銀納化を進めていたので、**日本産の銀**が大量に中国に流入した。その対価として**中国産の生糸**などが日本にもたらされ、日中間の貿易が活発になった。しかし、明は民間の貿易を認めない**海禁政策**を続けていたため、その取締りに対抗して武装した中国人を中心とする密貿易商人(後期倭寇)が活躍した。

●明治～大正時代の政治・外交の分野と経済・社会・文化の分野を、それぞれ続けて記述しました。

●各時代の最初の章は、前の時代からの転換を意識した記述にしました。

目次と配当時間例

目次

各時代(部)が学習指導要領の大項目A～Dに当たります。
各部は学習指導要領の中項目(1)～(3)で構成されています。

A 第Ⅰ部 原始・古代

配当時間例（月／時数）

(1)
第1章 日本文化のあけぼの
1 文化の始まり 6
2 農耕社会の成立 13

(2)
● 歴史資料と原始・古代の展望
①古代社会と海外との交流 20
②木簡から古代国家を探る 22

(3)
第2章 古墳とヤマト政権
1 古墳文化の展開 24
2 飛鳥の朝廷 33

第3章 律令国家の形成
1 律令国家への道 37
2 平城京の時代 41
3 律令国家の文化 49
4 律令国家の変容 55

第4章 貴族政治の展開
1 摂関政治 62
2 国風文化 65
3 地方政治の展開と武士 69

4月 4 2 4 6 4

B 第Ⅱ部 中世

第5章 院政と武士の躍進
1 院政の始まり 76
2 院政と平氏政権 79

● 歴史資料と中世の展望
絵画から中世社会を探る 86

第6章 武家政権の成立
1 鎌倉幕府の成立 90
2 武士の社会 94
3 モンゴル襲来と幕府の衰退 99
4 鎌倉文化 104

第7章 武家社会の成長
1 室町幕府の成立 110
2 幕府の衰退と庶民の台頭 119
3 室町文化 125
4 戦国大名の登場 132

6月 3 2 6
7月 8

干支、時刻と方位、度量衡のページを設けました。

【凡例】

1. 年代は西暦を主とし、日本の年号は（　）の中に入れた。明治5年までは日本暦と西暦とは1カ月前後の違いがあるが、年月はすべて日本暦をもとにし、西暦に換算しなかった。たとえば天正14年12月1日は、西暦では1587年1月9日であるが、1586(天正14)年12月とした。改元のあった年は、その年の初めから新しい年号とした。たとえば慶応4年は9月8日に改元して明治元年となったが、この年のことはすべて1868(明治元)年とした。
2. 史料引用はできるだけ必要な部分にとどめたが、その際も前略・後略は特別には記さなかった。また、読みやすく書き改めたところもある。法令などの史料には、適宜、第何条にあたるかを示す数字をつけた。
3. 国名は、次のように表記する場合がある。〔日本：日　中国：中　韓国：韓　アメリカ：米　ロシア：露　イギリス：英　フランス：仏　ドイツ：独　オーストリア：墺　イタリア：伊　オランダ：蘭　ソヴィエト社会主義共和国連邦：ソ〕

詳しくみてみよう!（2次元コード）

画像　一遍上人絵伝(巻7)　87／洛中洛外図屏風　89／伯耆国東郷荘の下地中分図　98／南蛮屏風　149

文字資料　武家諸法度(元和令)　155／武家諸法度(寛永令)　157／武家諸法度(天和令)　177／大日本帝国憲法　252／二十一カ条の要求　269／日本国憲法　330／サンフランシスコ平和条約　337／日米相互協力及び安全保障条約　342

動画　貝塚　10／荘園図　72／鎌倉街道と切通　91／鉄砲伝来　139／富岡製糸場　240／米騒動　271／関東大震災　276／八幡製鉄所　284／戦時下の生活　314／安保闘争　342／石油危機　354

（動画はすべてNHK for Schoolのコンテンツです。）

＊ 本書掲載の2次元コードからインターネットを使用した学習ができます。2次元コードの使用にあたって使用料はかかりませんが、通信料はかかります。インターネットを使用する際には、先生の許可を得たうえで使用してください。また、使用にあたっては個人情報の扱いに十分注意してください。

２次元コードから、より深い理解に役立つ動画や、細部を確認するための拡大画像、紙面掲載部分以外の文字資料などを見られるようにしています。

C 第Ⅲ部 近世

第8章 近世の幕開け
1 織豊政権 138
2 桃山文化 146

● 歴史資料と近世の展望
生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化 150

第9章 幕藩体制の成立と展開
1 幕藩体制の成立 154
2 幕藩社会の構造 167
3 幕政の安定 176
4 経済の発展 179
5 元禄文化 187

第10章 幕藩体制の動揺
1 幕政の改革 192
2 宝暦・天明期の文化 198
3 幕府の衰退と近代への道 203
4 化政文化 213

年表 371
索引 379

古代の行政区画 表見返し
干支、時刻と方位、度量衡 表見返し裏
政党・政派の変遷 裏見返し

9月 3 2
10月 11
11月 8

各時代・各分野をバランスよく構成しています。

D 第Ⅳ部 近代・現代

第11章 近世から近代へ
1 開国と幕末の動乱 220
2 幕府の滅亡と新政府の発足 227

● 歴史資料と近代・現代の展望
①五箇条の誓文と国是 232
②貿易の変遷からみる日本の近代・現代 234

第12章 近代国家の成立
1 明治維新と富国強兵 236
2 立憲国家の成立 247

第13章 近代国家の展開
1 日清・日露戦争と国際関係 256
2 第一次世界大戦と日本 266
3 ワシントン体制 272

第14章 近代の産業と生活
1 近代産業の発展 279
2 近代文化の発達 288
3 市民生活の変容と大衆文化 294

第15章 恐慌と第二次世界大戦
1 恐慌の時代 300
2 軍部の台頭 305
3 第二次世界大戦 311

第16章 占領下の日本
1 占領と改革 325
2 冷戦の開始と講和 333

第17章 高度成長の時代
1 55年体制 339
2 経済復興から高度経済成長へ 344

第18章 激動する世界と日本
1 経済大国への道 353
2 冷戦の終結と日本社会の変容 359

(4)
● 現代日本の課題の探究
様々な災害と日本 365

12月 3 2
1月 6 6 7
2月 4
3月 4 3 2

学習指導要領の中項目(4)は大項目Dの最後に入ります。

詳説日本史

○○の転換と歴史的環境

学習指導要領 中項目(1)

＊大項目Aの中項目(1)は「黎明期の日本列島と歴史的環境」

日本史探究では、「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」の各時代の最初(1・5・8・11章)に**時代の転換**を取り上げ、中学校の学習や、前の時代との比較などを通して考察し、**「時代を通観する問い」**を表現することが求められています。

時代を概観する部扉

「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」の各時代(各部)の冒頭では、**世界史の展開**と関連づけて、時代の大きな流れを概観し、年表にもまとめました。

第Ⅱ部 中世

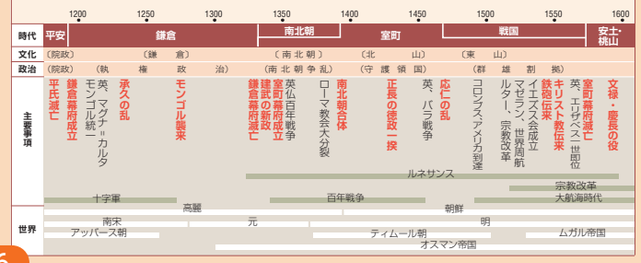
12世紀から13世紀にかけて、ヨーロッパで封建社会が転機を迎えた。11世紀末から始まった十字軍の活動は、ローマ教皇の権威を高めたものの、封建社会を支えていた騎士階級の没落をうながした。その一方、十字軍の輸送によりイタリア諸都市をはじめ各地の都市で商工業者の活動が盛んになった。

こうした都市の活況を背景に、ルネサンスや宗教改革という精神面での封建社会からの解放が進められ、さらに新天地を求める大航海時代の幕開けとなり、ヨーロッパ文化圏の枠を一挙に取り払う結果になった。このような動きと呼応して、国王権の伸張がはかられ、14世紀から15世紀にかけてイギリス・フランスという近代国家の母体が形成され、イベリア半島でもスペイン・ポルトガルが成立した。

中国では、宋の建国当初から北方民族がしだいに優勢となった。その力は遠く西方におよび、ヨーロッパからアジアにまたがる大帝国を建設した。13世紀にはモンゴル人が中国全土の支配を完成して国号を元としたが、元の支配は長くは続かず、約1世紀後には明により漢民族の支配が回復し、以後、江南の開発と商工業の発達がうながされた。

同じ頃、イスラーム帝国は王朝の分裂と交替を繰り返すうちにモンゴルの侵入を受けて崩壊した。一方で、イスラームとその文化は14～15世紀に中央アジアを支配下においたティムール朝と、16世紀にインドに建国されたムガル帝国を通して広まり、これらの地でイスラーム化が進んだ。

世界の情勢がこのように推移する中で、日本では11世紀後半から武士が成長し、院の権力(国王権)が伸長した。12世紀後半になると、武士による政権が生まれた。武士は各地で荘園・公領の支配権を貴族層から奪い、しだいに武家社会を確立させていった。



第5章

院政と武士の躍進

大陸で宋、朝鮮半島に高麗が建てられた頃、日本では地方で武士が成長し、荘園が各地に生まれ、中央で摂関政治が停滞して院政が始まった。院政はどのように成立したのだろうか。またその後、武士が台頭してくるきっかけは何だろうか。

1 院政の始まり

日本列島の大きな変化

11世紀の後半、朝廷では政治の転換期を迎えた。天皇家や摂関家・大寺社は、諸国からの税収が不安定になる中、荘園の拡大をはかった。しかし、荘園の増加により、支配する公領(国衙領)を圧迫された国司は、荘園の不入の権利を取り消すなどの荘園整理をおこなったため、対立が深まった。

地方では豪族や開発領主として力をのばしてきた武士の成長が著しく、貴族や大寺社と結びついて私領の拡大をはかった。なかでも東日本での反乱を機に、源氏の武士が奥州に勢力を広げた。九州では、大陸との交通が盛んになり、日宋貿易の窓口である博多の周辺には、大寺社や上級貴族が進出していった。

延久の荘園整理令と荘園公領制

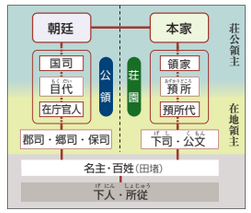
関白の藤原頼通に皇位継承を抑えられてきた後三条天皇(在1068～72)は、即位すると、ときの摂政・関白を外戚としないこともあって、新たな政治を進めた。天皇は摂関政治の弊害をみて成長してきたため、大江匡房(1041～1111)らの学識にすぐれた人材を登用し、荘園の増加により公領が圧迫されているとして、1069(延久元)年に延久の荘園整理令を出した❶。

天皇は整理の審査を地方の国司にゆだねず、中央に記録所(記録荘園券契所)を設け、荘園の所有者から提出された証拠書類(券契)と国司の報告とをあわせて審査し、新しく立てられた荘園や書類不備の荘園など、基準にあわない荘園を停止した❷。摂関家の荘園も例外ではなく、この整理令はかなりの成果を上げた。

記録荘園券契所の設置

コノ後三条位ノ御時、……延久ノ記録所トテハジメテヲカレタリケルハ、諸国七道ノ所領ノ宣旨・官符❶モナクテ公田ヲヌカスル❷事、一天四海ノ巨害ナリトキコシメシツメテ❸アリケルハ、ナハチ宇治殿ノ時、一ノ所ノ御願❹ノ事ニ、……

荘園整理によって、貴族や寺社が支配する荘園と、公領との区別が明確になり、貴族や寺社は認められた荘園の整備を進め、国司は公領を郡・郷・保などの新たな単位に再編成し、支配下にある豪族や開発領主を、郡司・郷司・保司(はし)に任命して徴税を請け負わせた。



荘園公領制の仕組み

❷石清水八幡宮領では、34カ

また、国司は田所・税所

て派遣した目代の指揮のもと

これに応じて在庁官人や郡

地のように管理し、荘園領主

もとで国・郡・里(郷)など上

と公領(郡・郷・保)が並立す

整備された荘園や公領では

(田堵)などの有力な農民に耕

の立場から、しだいに権利を

名主は、名を下人などの隷属

せながら、年貢・公事・夫役

院政の開始

11世紀半は

争う中で、

の武士を率いて安倍氏と戦い

安倍氏を滅ぼした(前九年合戦

その後、陸奥・出羽両国で

がおこり、陸奥守であった源

けて内紛を制圧した(後三年合

こうした武士の力に目をつ

を登用し、父の後三条天皇

(応徳3)年に幼少の堀河天

(院)❹として院庁を開き、

厳島神社『平家納経』 平清盛は安芸の厳島神社を平家一門の氏神とした。清盛は一門の繁栄のために法華経などの写経を奉納した。(広島県)

『信貴山縁起絵巻』 12世紀の絵巻。命蓮という僧が鉢を飛ばして長者(地方豪族)の倉を信貴山まで運んだという話などを描く。動的な線描で庶民の生活や風俗を描く。(飛倉の巻、部分、朝護孫子寺蔵、奈良県)

島神社には、豪華な『平家納経』が伝わっており、平氏の栄華と貴族性を物語っている。

絵と詞書を織りまぜて時間の進行を表現する絵巻物は、この時代には大和絵の手法が用いられて発展した。『源氏物語絵巻』は貴族の需要に応じて描かれ、『伴大納言絵巻』は応天門の変に取材し、朝廷の年中行事を描いた『年中行事絵巻』とともに、院政の舞台となった京都の姿を描いている。また『信貴山縁起絵巻』は聖の生き方や風景・人物をたくみに描き、『鳥獣戯画』は、動物を擬人化していきいきと描いている。こうした絵巻物や『扇面古写経』の下絵からは、この時代の地方社会や庶民の生活をうかがうことができる。

第5章のまとめ

問1 院政の登場は、貴族社会にどのような影響を与えただろうか。また、その理由は何だろうか。

問2 摂関政治と院政には、どのような類似点と相違点があると考えられるだろうか。

問3 貴族政治の変容や武士の政治への関与などの観点から、中世の特徴について、古代とも比較して、問いを表現してみよう。

「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」各時代の最初の章では、**時代の転換**を意識した記述を入れています。

章末には、まとめの問いを設けています。各時代の最初の章のまとめの問いでは、**「時代を通観する問い」**の表現をうながします。

歴史資料と〇〇の展望

学習指導要領 中項目(2)

「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、諸資料を活用し、各時代の最初の章(1・5・8・11章)で表現した「時代を通観する問い」をふまえ、時代の特色について考察し、このあとの学習に向けて時代を展望し、**仮説を表現**します。

歴史資料と原始・古代の展望②

木簡から古代国家を探る

古代には、文書主義を特徴とする律令制のもとで、紙の文書とともに、木の札に墨書した木簡が、情報伝達の手段として多く用いられた。平城宮跡や平城京の長屋王邸宅跡をはじめ、地方でも大宰府(→p.39)・多賀城(→p.45)ほかの役所の遺跡などから、多数の木簡が出土している。木簡から古代の歴史をみてみよう。

木簡には、文書のほか、地方から京に運ばれる貢進物に付けられた荷札や、漢字の練習書きに用いた習書などがある。紙の文書は捺印されて正式の伝達手段となる一方、文書木簡も、毎日の食料などの請求・支給など、木簡の方が便利な場合に使われた。人・物・情報の移動をそのままのかたちで伝える木簡からは、当時の中央・地方の関係や役所の動きがわかり、あわせて下級官人たちの日常業務や地方の実情を知人たちへの給食がおこなわれた。

また、平城京の長屋王邸(→p.43)から出土した長屋王家木簡には、貢進された食料の荷札木簡(①)や、京近くの所領から食料を進上した文書木簡(②、粕漬けの瓜などがみえる)などがある。

▶ 木簡と紙の文書は、どのように使い分けられたのだろうか。紙・木の素材の特徴から、考えてみよう。また、荷札木簡と文書木簡の違いについて、形態にも注目して、考えてみよう。

三河からのサメ(④)、上総・隠岐からのアワビ(⑤⑥)などの食料が、贄(天皇用の食料)や調として公民の負担(運脚、→p.41)などで貢進され、宮内で消費されたのである。

▶ 貢進物として多様な食料を都に集めなくてはならなかったのは、なぜだろうか。律令財政の仕組みを考えてみよう。

▶ 地方からの貢進物の荷札木簡を書いたのは、どのような人々だろうか。また、漢字文化は古代の地方にどのように広まったのだろうか。

④参河国播豆郡析嶋海部供奉八月料御贄佐米楚割六斤
【平城宮木簡】二九七㎜×二五㎜×五㎜

⑤上総国安房郡白浜郷戸主日下マ床万呂戸白髪部嶋輸鰒調陸斤 参拾條
天平十七年十月
【平城宮木簡】三六四㎜×二四㎜×四㎜

⑥隠伎国海部郡佐吉郷日下マ止々利養老七年
【平城宮木簡】一五六㎜×三二㎜×七㎜

①～④は奈良文化財研究所蔵

木簡をくくりつけた荷物(想像図、三重県理蔵文化財センター)

律令国家の中央政府と地方の役所とのあいだでは、何のためにどのような内容の文書や木簡のやりとりがおこなわれたのだろうか。仮説を立ててみよう。また、文書や木簡が果たした機能や、地方における漢字文化の広がりはどのようなものであったのかに着目して、仮説を立ててみよう。

木簡の保存

木簡は、水分を多く含んだ古代の遺構から出土する、きわめて脆弱な遺物である。水漬けのまま大切に扱いながら調査・研究されるとともに、保存処理がほどこされる。空気中でも安定した状態となった木簡の中には、重要文化財に指定された木簡もあり、さらに国宝となった平城宮木簡もある。

歴史資料と中世の展望

絵画から中世社会を探る

中世には絵画が多く制作されたので、それらをみてゆくと人々の動きやものの見方がうかがえる。ときに声や喧騒が伝わってくる。それぞれの絵画が何を目的にして描かれたのかを考えながら、目をこらし、人々の行動や背景として描かれた風景に注目してみよう。

ここでは、中世に一貫して政治や文化の中心であった京都を描いた作品を並べたので、比較して時代の推移を考えてみよう。

『年中行事絵巻』(朝親行幸の図、住吉家模本、田中家蔵)

保元の乱(1156年)後、乱で荒れた都の再生をはかった後白河上皇(→p.81)の命によって制作された、都とその周辺でおこなわれた年中行事を描く絵巻である。場面は二条天皇が年頭のあいさつのため、父の後白河上皇のいる法住寺御所に向かう行幸の様子が描かれている。

▶ 行列のゆく都の大路、それをみつめる町中の人々の視線、住んでいる家の様子にも注目しよう。そのうえで、上皇がどうしてこの場面を描かせたのかを考えたい。『年中行事絵巻』には、ほかにどのような場面が描かれたのであろうか。

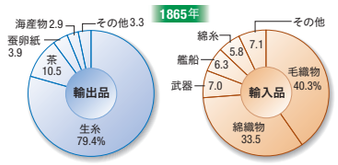
詳しくみてみよう!
一遍上人絵伝(巻7)

時代を展望するため、歴史資料として、遺物や文字資料、絵画、統計などを取り上げました。また、資料を読み取り、それに基づいて考察し、**仮説を表現**するきっかけとなるポイントを示しています。

歴史資料と近代・現代の展望②

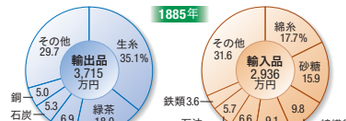
貿易の変遷からみる日本の近代・現代

1859年の開港により本格的に貿易が始まった。国際価格と、国内産業の状態を反映する国内価格との差によって輸出入品が決まり、輸出産業は成長した。輸入超過は金銀の流出をもたらして国を貧しくし、外国からの借り入れでこれをおぎなうことは、国の独立を危うくすると考えられた。そこで、輸出産業の振興と、輸入品の国産化をはかる経済政策がとられた。輸出入については、関税を課すためにその数量が記録され、経済の状況を示す統計として利用されてきた。これにより、それぞれの時期の産業の状況と経済政策の課題を考えてみよう。

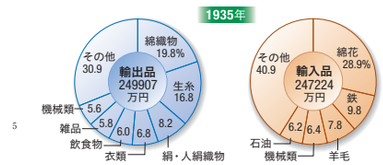


(石井孝『幕末貿易史の研究』より作成)

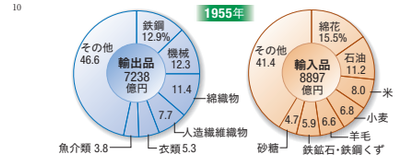
幕末1865(慶応元)年の輸出は生糸が中心で、茶がこれに続く。輸入では織物が大半を占める。欧米の産業革命の影響がはっきりとみられる。



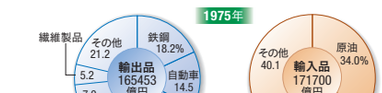
1885(明治18)年になると、輸入の首位が綿糸になる。これは、国内のどのような変化を反映しているのだろうか。また機械とともに、砂糖や石油の輸入が増えているのは何を意味



(大蔵省編『日本外国貿易年表』より作成)



(経済企画庁「年次経済報告」より作成)



1935(昭和10)年にかけて増加しているが、多いことも

的な強みは、機械類の輸

また鉄や石

おもな輸入

輸出先がア

せ、これら

済・社会に

1955(昭和

入と綿織物

もみられる

の上位にあ

その背景や

詳説日本史

○○の国家・社会の展開と画期

学習指導要領 中項目(3)

＊大項目Dの中項目(3)は「近現代の地域・日本と世界の画期と構造」

歴史資料と○○の展望のあとの学習では、「時代を通観する問い」や仮説をふまえ、資料を活用して、各時代の展開について考察し、**諸事象の解釈や画期を表現**します。また、その際に、**解釈・説明・論述**を繰り返しおこない、**思考力・判断力・表現力**を育成することが求められています。

2次元コード

より深い理解に役立つ動画や、細部を確認するための拡大画像、紙面掲載部分以外の文字資料などを見られるようにしています。

各章に導入文を設け、これから学ぶ内容の概略とともに、その章の学習上の視点となる問いかけを示しました。

第6章

武家政権の成立

12世紀末の内乱の中から、最初の本格的な武家政権である鎌倉幕府が誕生した。鎌倉幕府は承久の乱やモンゴル襲来を経て全国政権に成長するとともに、幕府に集った武士たちも守護や地頭として全国に展開していった。武士の勢力拡大は、鎌倉時代の政治や社会にどのような影響をもたらしたのだろうか。

1 鎌倉幕府の成立

源平の争乱

平氏一門の繁栄は、後白河法皇や院近臣との対立を招き、1177(治承元)年には藤原成親(1138～77)や僧の俊寛(生没年不詳)らが、京都郊外の鹿ケ谷で平氏打倒をはかり、失敗する事件が起こった(**鹿ケ谷の陰謀**)。そこで平清盛は1179(治承3)年、武力を背景に後白河法皇を鳥羽殿に幽閉し、関白以下多数の貴族を処罰し、官職を奪う強圧的手段で国家機構のほとんどを手中におさめた。さらに翌年には高倉天皇の中宮である娘徳子(建礼門院)の生んだ子を安徳天皇として即位させ、外戚の地位も手に入れた。→p.82

ここに清盛の権力集中は頂点に達するかにみえたが、かえって中央の貴族・大寺院や地方の武士団のあいだで平氏の専制政治に対する不満が高まった。

この情勢をみた後白河法皇の皇子以仁王(1151～80)と、畿内に基盤をもつ源氏の源頼政(1104～80)は、平氏打倒の兵をあげ、挙兵を呼びかける以仁王の命令(令旨)が諸国の武士に伝えられた。

これに応じて、園城寺(三井寺)や興福寺などの僧兵が立ち上がり、つづいて伊豆に流されていた**源頼朝**(1147～99)や信濃の木曽谷にいた源義仲(1154～84)をはじめ、各地の武士団が挙兵して、ついに内乱は全国的に広がり、5年にわたって争乱が続いた(**治承・寿永の乱**)。

平氏は当初、都を**福原**(神戸市)に移した。福原は近くに良港大輪田泊→p.83があり、瀬戸内海支配のための平氏の拠点であったが、この遷都には大寺院や貴族たちが反対したため、平氏は約半年間で都を京都に戻し、畿内を中心とする支配を固めてこれらの動きに対応した。しかし、清盛の突然の死や、畿内・西国を中心とする飢饉などで平氏の基盤は弱体化し、1183(寿永2)年に北陸で源義仲に敗北すると、平氏は安徳天皇を奉じて西国に都落ちした。その後、都に入った義仲と対立した後白河法皇の要請を受け、源頼朝は弟の源範頼・義経(1159～89)らの軍を上洛させて義仲を滅ぼし、さらに平氏と戦い、摂津の一の谷、讃岐の屋島の戦いを経て、ついに1185(文治元)年に長門の壇の浦で平氏を滅亡させた。

この一連の争乱で大きな活躍をしたのは、地方の武士団であった。彼らは国司や荘園領主に対抗して所領の支配権を強化・拡大しようとつとめ、そのための新たな政治体制を求めていた。

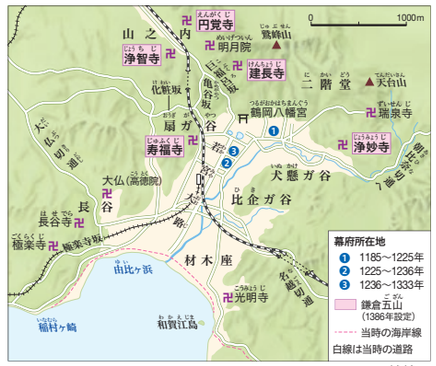
鎌倉幕府

反平氏の諸勢力のうち、東国の武士団の大半が武家の棟梁源氏の嫡流である頼朝のもとに結集したため、頼朝はもっとも有力な勢力に成長した。頼朝は挙兵すると、相模の**鎌倉**を根拠地として広く武士たちと主従関係を結び御家人として組織し、東国の荘園・公領を支配して彼らの所領支配を保障していった。→p.82注❶、92 1183(寿永2)年には、平氏の都落ちのあと、京都の後白河法皇と交渉して、東海・東山両道の東国❶の支配権の承認を得た(寿永二年十月宣旨)。

1185(文治元)年、平氏の滅亡後、頼朝は義経と対立するようになった。義経が法皇から頼朝追討令を与えられて挙兵するも失敗すると、頼朝は軍勢を京都に送って法皇にせまり、義経追討を名目として諸国に**守護**❷を、荘園や公領には**地頭**を任命する権利や1段当たり5升の兵粮米を徴収する権利、さらに諸国の国衙の実権を握る在庁官人→p.71を支配する権利を獲得した。こうして東国を中心にした頼朝の支配権は西国にもおよびはじめ、武家政権としての**鎌倉幕府**が確立した。

源平の争乱(月は陰暦による、＊印は幕府設立関係)

1177.	5	鹿ヶ谷の陰謀
1179.	11	平清盛、後白河法皇を幽閉
1180.	2	安徳天皇即位
	5	以仁王・源頼政ら挙兵、敗死
	6	福原遷都(11月には京都に戻す)
	8	源頼朝挙兵、石橋山で敗れる
	9	源義仲挙兵
	10	＊頼朝鎌倉入り。富士川の戦い
	11	＊頼朝、侍所を設置
	12	平重衡、南都を焼打ち
1181.	閏2	清盛の死(64歳)
	4～	養和の飢饉
1183.	5	倶利伽羅峠(砺波山)の戦い
	7	平氏の都落ち、義仲入京
	10	＊後白河法皇、頼朝の東国支配権を認める
1184.	1	源範頼・義経、義仲を討つ
	2	摂津一の谷の戦い
	10	＊頼朝、公文所・問注所を設置
1185.	2	讃岐屋島の戦い
	3	長門壇の浦の戦い、平氏滅亡
	11	＊頼朝、守護・地頭を設置
1189.	9	頼朝、奥州平定
1192.	7	＊頼朝、征夷大将軍となる



鎌倉周辺図 鎌倉は源頼義以来、源氏とのゆかりが深い地で、三方を小さな丘陵に囲まれ、南は海にのぞむ要害の地であった。

詳しくみてみよう! 鎌倉街道と切通

Q▸ 鎌倉幕府はどのような過程を経て成立したのだろうか。

❶幕府の支配権が強力におよぶ東国の範囲は、やがて遠江・信濃以東の15カ国とされた。

❷守護は当初、惣追捕使や国地頭などとも呼ばれたが、のちに守護に統一された。

Q▸ 下司などの荘官と地頭の、共通点と相違点は何だろうか。

本文の流れを重視し、背景や因果関係が理解しやすい記述を心掛けました。

本文を読む際の着眼点となるような**問い(Q)**を設け、考察をうながしています(解答例は、教師用指導書、整理ノートで扱っています)。

○○の国家・社会の展開と画期

読みといてみよう

史資料をもとに、**解釈**したり、**説明**したり、**論述**したりする学習をうながします(解答例は、教師用指導書、整理ノートで扱っています)。

読みといてみよう

武家諸法度の元和令(→p.155史料)・寛永令(→p.157史料)と天和令から、幕府の統治理念がどのように変化したのかを、考えてみよう。

武家諸法度(天和令) ❶

一、文武忠孝を励し、礼儀を正すべき事。

一、養子は同姓相応の者を撰び、若之無きにおいては、由緒を正し、存生の内に申上、致すべし。五拾以上十七以下の輩、未期に及び養子致すと雖も、吟味の上之を立つべし。縦、実子と雖も筋目違たる儀、之を立つべからざる事。

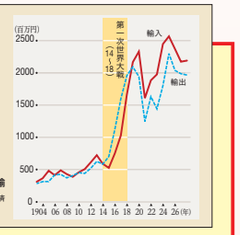
附、殉死の儀、弾制禁せしむる事。

(御触書寛保集成)

❶一六八三(天和三)年に制定された全一五条。❷生きているうち。❸臨終の時。❹主人の死に際して、家臣も自殺して死後も主人に奉仕すること。

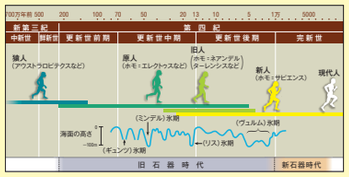
読みといてみよう

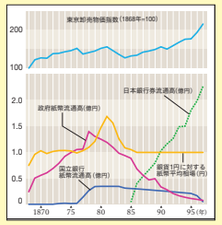
このグラフから、大戦中の日本の貿易のどのような状況がわかるだろうか。また、その背景を説明してみよう。



第一次世界大戦前後の輸出入(朝日新聞社編「日本経済統計総覧」より作成)

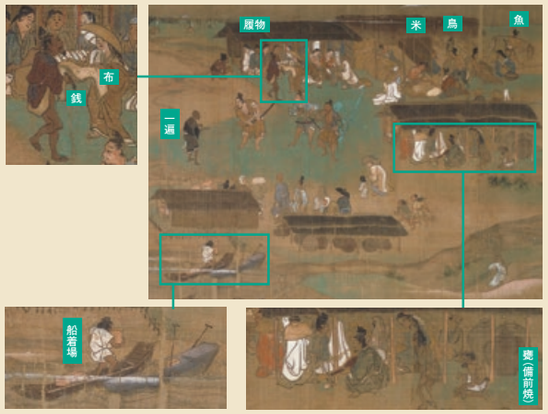
本文の理解や、**思考力・判断力・表現力**の育成に役立つ、写真、地図、統計資料、文字資料などを豊富に掲載しています。





読みといてみよう

なぜこのような市が開かれたのだろうか。扱われている商品や備前国福岡という立地に着目して説明してみよう。



備前国福岡の市
1278(弘安元)年、備前の福岡の市で布教する一遍(左端の僧)が、刀をもった男に襲われている図。市日には、道路を挟んで建てられた仮小屋に、所狭しと品物が並べられ、活発に商品の販売がおこなわれていたことがわかる。
(「一遍上人絵伝」、部分、清浄光寺蔵、神奈川県)

なった。

遠隔地を結ぶ商業取引も盛んで、陸上交通の要地には**宿**が設けられ、各地の**湊**(港)には、商品の委託販売や中継・運送をおこなう**問**(問丸)が活躍した。売買の手段としては、米などの現物にかわって貨幣が多く用いられるようになり、**荘園**の一部では年貢の**銭納**もおこなわれたが、それにはもっぱら中国から輸入された**宋銭**が利用された。さらに遠隔地間の取引には、金銭の輸送を手形で代用する**為替**が使われ、金融業者の**借上**も多く現れた。様々な人や物が集まる宿や湊は町として発展し、**有徳人**と呼ばれる富裕な人々が成長していった。

また、荘園領主や**地頭**の圧迫・非法に対する農民の動きが活発となり、団結して**訴訟**をおこしたり、集団で逃亡したりする例も多くなった。年貢を農民が定額で請け負うこともおこなわれた。

Q▸ 鎌倉時代には、なぜ貨幣が多く用いられるようになったのだろうか。また、貨幣の普及は社会にどのような変化をもたらしたのだろうか。

幕府の衰退

生産や流通経済のめざましい発達と社会の大きな変動の中で、幕府は多くの困難に直面していた。モンゴル**襲来**は御家人たちに多大な犠牲を払わせたが、幕府は十分な**恩賞**を与えることができず、御家人たちの信頼を失う結果になった。また、分割相続の繰り返しによって所領が細分化されたうえ、売買や質入れによって所領を失う御家人も少なくなかった。こうした動きにともなって、女性の地位が低下の傾向をみせはじめ、女性に与えられる財産が少なくなり、また本人1代限りでその死後は**惣領**に返す約束つきの相続(一期分)が多くなった。

幕府は、1297(永仁5)年に**永仁の徳政令**を発布して、御家人の所領の質入れや売買を禁止し、それまでに質入れ・売却した御家人領を無償で取り戻させ、御家人が関係する金銭の訴訟を受けつけないこととした。しかし、翌年には徳政令は撤回され、御家人が所領を手放す動きをとめることはできなかった。

中小の御家人の多くが没落していく一方で、経済情勢が転換する機会をうまくつかんで勢力を拡大する武士も生まれた。とくに畿内やそ

Q▸ 鎌倉幕府は、なぜ永仁の徳政令を発布することになったのだろうか。

紀伊国阿氏河荘民の訴状 ❶

一、ヲン申上村百姓ラヲ、シテ言上(御材木ノコトヲ)❷、アルイワ(チトウ)ノキヤウシヤウ❸、アルイワ(カフ)❹トマウシ、カクコトクノ人フヲ、チトウノカタエ(せメツカワレ候ヘハ、ヲマヒマ)❺候ワス候、ソノ(コリ)❻、ワツカニモレノコリテ候人フヲ、サイモクノヤマイタシ❼エ、イアテテ候エハ、テウマウノアト❽ノムキマケト候テ、ヲイモトシ❾候イヌ。ヲレラ❿カコトムキマカヌモノナラハ、メコトモヲ(ライコメ)、ミ、ヲキリ、ハナヲソキ、カミヲキリテ、アマニナシテ、ナワホタシヲウチテ⓫、サエナマント候ウテ、せメセンカウ⓬せラレ候アイタ、ヲンサイモクイヨ〜ヲソナワリ⓭候イヌ。

(高野山文書、原文のまま)

❶一二七五(建治元)年十月二十八日のもの。❷荘園領主へおさめる材木が遅れていること。❸京都に上る費用。❹五所で使役される人夫役。❺余暇。❻地頭にかり出された残りの人数。❼荘園領主へおさめる材木を山から引き出すこと。❽逃亡した百姓の耕地。❾山から百姓を追い返す。❿お前たち。⓫縄やひもで縛って。⓬せっかんする。⓭遅れる。

借上 13世紀前半、京都から鎌倉へ訴訟にくだってきた女性が金に困り、借上から金を借りているところ。縁側には長くつないだ銭がおかれている。
(『山王絵巻』『験記絵巻』、部分、和泉市久保惣記念美術館蔵、大阪府)

永仁の徳政令

一、質券売買地❶の事。

右、所領を以て或いは質券に入れ流し、或いは売買せしむるの条、御家人等侘傍❷の基なり。停止に従ふべし。以前沽却❸の分に至りては、本主領掌❹せしむべし。向後❺に於いては、停止に従ふべし。但し、或いは御下文・下知状❻を成し給ひ、或いは知行二十箇年を過ぐると雖も、売主知行せしむべし。

(東寺百合文書、原漢文)

❶質入れや、売買した土地。❷困窮する。❸売渡・売却を認めた公文書。❹売却。❺領有して支配すること。❻幕府が土地の譲渡・売却を認めた公文書。❼一般庶民。具体的には借上。❽取得時効(二〇年)。

暗記になりがちな美術作品や文学作品の一覧は削り、主要な作品は、本文や注、写真で掲載しました。

『読書』(左)と**『湖畔』**(右)
黒田清輝は17歳でフランスに渡り、2年後に専攻を法律から絵画に改めて10年近く留学し、帰国後は東京美術学校に新設された西洋画科で指導に当たった。画面左下の署名は、フランスでの入選作である『読書』では和文、帰国後に日本らしい情景を描いた『湖畔』では欧文であり、日本を代表して欧米人と競って学び、その成果を日本で生かそうとした留学者の意気込みを感じさせる。(左:縦98.2cm、横78.7cm、右:縦69.0cm、横84.7cm、ともに東京国立博物館蔵)

『海の幸』 黒田清輝らの指導を受けた青木繁が、1904(明治37)年に白馬会展に出品した作品。房州(千葉県)布良の海でのモチーフで、大魚をかつぐ漁師の群が、リズミカルな構図、力強いデッサンと褐色の色調で描かれている。
(縦70.2cm、横182.0cm、石橋財団アーティゾン美術館蔵、東京都)

『老猿』 1893(明治26)年、シカゴ万国博覧会に出品して入賞した作品。
(高村光雲作、高さ90.9cm、東京国立博物館蔵)

『女』 作者の死後1910(明治43)年、第4回文展に出品され3等を受賞した作品。
(荻原守衛作、高さ98.5cm、東京国立近代美術館蔵)

力で小学校教育に西洋の歌謡を模倣した**唱歌**が採用された。1887(明治20)年に**東京音楽学校**が設立されて専門的な音楽教育が始まり、**滝廉太郎**(1879～1903)の作曲家が現れた。また、伝統的な能楽は明治中期から復活した。

学問や音楽と同じく、美術の発達も政府に依存する面が強かった。政府は、初め**工部美術学校**を開いて、外国人教師に西洋美術を教授させたが数年で閉鎖し、フェノロサや**岡倉天心**(1862～1913)の影響のもとに、伝統美

○○の国家・社会の展開と画期

教科書の判型を大きくし(A5判→B5変型判)、写真・図版を大きく・見やすく掲載しました。

章末に、時系列や推移、諸事象の比較、意味や意義、特色、因果関係や画期などについて、**まとめの問い**を設けました。

現代の日本の課題の探究

学習指導要領 中項目(4)

日本史探究の科目のまとめとして、**主題を設定**して、現代の日本の**課題を探究**します。

日本史探究のまとめでおこなう現代の日本の課題の探究の例として、日本における災害の歴史を扱い、災害という**課題**から、歴史を考える視点を例示しました。

詳説日本史

トータルサポート

2023年春までに刊行予定の『詳説日本史』関連教材です。
授業準備からテスト・評価まで、豊富な教材で日本史探究を
トータルサポートいたします。

紙教材
指導書付属データ集
デジタル教材
採用特典

約10,000点の地歴コンテンツを配信
Webの社会科準備室
山川＆二宮ICT
ライブラリ

授業準備・授業　／　テスト・評価

指導者

授業準備に
教師用指導書 授業実践編 ➡p.28

指導者用指導書 授業実践編 付属データ集 ➡p.32

- 地図・図表 JPEG
- 授業用スライド PPT
- 白地図集 JPEG
- 詳説日本史 授業用整理ノート Word、PDF
- 教科書本文・注・史料テキスト Word
- 準拠テスト例 Word
  - 準拠テスト対応 ルーブリック（評価規準表）
- 年間指導計画 評価規準例 Excel

授業準備に
教師用指導書 研究編 ➡p.31

採用特典
詳説日本史 授業用 整理ノート Word、PDF

採用特典
詳説日本史 ノート Word、PDF

地図アプリやQ&Aも
指導者用 デジタル教科書 ➡p.90

採用特典
詳説日本史 10分間テスト Word

採用特典
復習と演習 日本史テスト Word

予習・授業　／　テスト対策・復習

学習者

授業をノートで整理
詳説日本史 授業用 整理ノート ➡p.35

指導書付属データ集
授業用 スライド対応 ワークシート Word

授業をノートで整理
詳説日本史 ノート ➡p.34

文具機能も充実
学習者用 デジタル教科書 ➡p.92

10分間で知識の確認
詳説日本史 10分間テスト ※23年春刊行予定

詳説日本史の基礎固め
復習と演習 日本史テスト ※23年春刊行予定

定番のサポート教材

用語解説の決定版
日本史用語集（現行課程版） ※新課程版は23年12月刊行予定

スマホでも簡単検索
日本史用語集 アプリ付き（現行課程版）

充実した史資料と問い
詳説日本史図録 第10版 ※23年春刊行予定

知識の確認
一問一答日本史（第３版） ※新課程版は24年春刊行予定

採用特典
一問一答日本史（第３版）電子版

試験によくでる
新よくでる 一問一答日本史 ※新課程版は24年秋刊行予定

スマホでも一問一答
新よくでる 一問一答日本史 アプリ版

教科書を文脈で覚える
書きこみ教科書 詳説日本史 ※23年春刊行予定

詳説日本史

教師用指導書　授業実践編

日探705準拠

B5判・400頁(予定)・2色刷・付属データ集DVD-ROM付

『詳説日本史』を使った授業実践にご活用いただける材料を盛り込みました。

❶**視点・留意点**　各章の導入文をふまえ、指導上の**視点・留意点**を示しました。
❷**学習の目標**　**小見出しごと**に、学習の柱となる目標を示しました。
❸**解説・史料・図版**　重要事項や、教科書に掲載の史料・図版について、**授業に役立つ解説**しています。
❹**問いの解答例**　教科書中の**「読みといてみよう」「Q」「章のまとめ」**の問いの解答例を示しています。
❺**発問例・解答例**　**教科書中の発問以外に**、授業展開の中で活用できる発問例とその解答例をプラスしました。
❻**板書例**　教科書の記述をまとめた板書例を示しました。**授業用ノートのまとめに準じて**います。
❼**教科書画像**　教科書の縮小画像に番号を付し、教科書と解説や問いの解答例との対応を示しました。

※紙面は制作中のものです。

詳説日本史

関連教材

歴史資料と近代・現代の展望①

五箇条の誓文と国是

ねらい

資料となる文書にはそれぞれ作成者の意図があるが、合意の結果として作られた場合には、その意図にある程度の幅がある。文書を示された人々の解釈にはさらに大きい幅が生じる。そして、その文書が時代を越えて参照されるなら、その解釈は時代に応じて変わる。

ここでは、本の「国是」として提示され、近現代を通じて参照され続けた五箇条の誓文を題材に、資料を巡る意図や解釈のすれを学び、さらに、その背景となった社会のあり方の変容を通観する。

解説　五箇条の誓文❶

誓文の原型は、新政府の参与となった福井藩出身の由利公正が「諸侯会盟」、すなわち天皇と藩主たちが申し合わせる国政の基本方針として起草した「議事之体大意」で、

一　庶民志を遂げ人心をして倦まざらしむるを欲す
一　士民心を一にし盛に経綸を行ふを要す
一　知識を世界に求め広く皇基を振起すべし
一　貢士期限を以て賢才に譲るべし
一　万機公論に決し私に論ずる勿れ」

の五箇条であった。土佐藩出身の参与福岡孝弟が由利と相談して、五番目を「列侯会議を興し万機公論に決すへし」と改めて冒頭に移すなど、諸藩主の議論を国政に反映する方針が明確な「会盟」とした。しかし、太政官での議論で、天皇親政にふさわしく天皇が誓う形とされ、遅れて参与となった長州藩出身の木戸孝允が最終的な形を整えた。（福岡孝弟「五箇条御誓文ト政体書ノ由来二就イテ」「明治憲政経済史論」1919年、国立国会図書館デジタルコレクション）

解説　宸翰❷

宸翰は天皇が書いた書状を意味する。宛先は明示されないが本文中に「汝億兆」とあるので、国民全体ということになる。教科書に載せていない前略部分には誓文の３番目に対応する「天下億兆一人も其処を得さる時は皆朕が罪」という言葉もあって誓文の示す国のありかたに対応しているが、「会議」「公論」等にはふれない。主に木戸孝允によって執筆されたと考えられている（三宅紹宣「幕末維新の政治過程」吉川弘文館、2021年）。全文は国立国会図書館デジタルコレクション「法令全書」で御誓文と同じ「慶応３年」（翌年分と合綴されているため）の81画像目にあり、同館の「日本法令索引」でも到達できる。

▶御誓文の内容はどのようなものだろうか。

五箇条を、わかりやすく解釈すると次のようになる。

1．国の方針を会議で決める
2．産業振興、開拓などに国民を挙げて取り組む
3．国民が自分の希望を遂げるために働ける社会を作る
4．従来の良くない慣習を捨て、正しい制度を作る
5．諸外国の知識を学び、日本の力をつける

1．は福岡案ほど明確ではないが、具体的には政権を委任された徳川家の意味にもなるが、狭い意味の朝廷の独裁ではなく、諸藩主などの意見が反映される政治体制であることを示すとも了解できる文面である。「列侯」と明示されなかった故に、誓文は繰返し参照される力をもったともいえる。

2～5．は旧来の制度を壊し、先進国に学びながら、国力の強い国家を作るにふさわしい社会体制を作ることを示している。1．もその一環とみることができる。

2．の「経綸」は横井小楠が後の「殖産興業」に近い意味で用いた経済活動の振興をはかる政策を示す言葉だが、当時一般に普及していたわけではなかった。原案を起草した由利公正は横井の弟子であったから横井と同じ意味で使い、福岡は由利が好んだ言葉なのでそのまま残したと回想するが、当時の「太政官日誌」で「経論」と誤植されたほどなじみが薄かった。政府部内でもこれを国家の統治一般のことと理解した者が多く、後に民権派がこの条文を政治参加の根拠とするときにも、そのように解釈された。同時代でも作成者の意図と受け止められ方が違う例である。

▶天皇の誓いのあとには、総裁、公卿、諸侯がこれに賛成して決死の覚悟で努力するという誓いが記され、それぞれが署名した。そこからどのようなことがわかるだろうか。

新政府を支えることを約束する盟約書としての意味を持っていることがわかる。当初新政府に抵抗した藩の藩主も、降伏後に署名した。また、旧幕府の旗本も署名した。新政府が幕府に代わって、国内を収めるには諸侯（藩主、旧大名）の支持を必要とした。一方で、「会盟」の形式がとられず、「列侯会議」の語が削除されたことから明らかなように、有力大名の合意によって政権が成り立つのではなく、彼らも公卿や小領主と共に天皇に同意する立場とされた。

▶なぜ、民権派が五箇条の誓文を盛んに引用したのだろうか。

民権派の求めた西洋の議会制（立憲制）の理念と通じる解釈が可能だったからである。有力な国民国家を形成して国際社会の有力な一員となることが目標なのは政府も民権派も同じで、そのために統治に国民の意見を反映する制度が必要なことは誓文作成者も含め、多くの人々が念頭に置いていた。また民権派は政府の現在のあり方には反対したが、天皇による統治に反対していたわけではなく、そのことを示すために誓文を引用することは好都合だった。

▶国会開設請願書での五箇条の解釈を確認してみよう。

国会開設請願書は板垣退助監修「自由党史」あるいは「国会ヲ開設スル允可ヲ上願スル書」（共に国立国会図書館デジタルコレクション）で確認できる。第一に天賦人権論を根拠に、第二に国民の一致と愛国を促がす手段として国会開設の必要を説いた後に、御誓文の五箇条すべてを国会開設に結び付けて論じる。例えば最後の条に関しては「今世に在って国会を開くことは便ち世界の智を学ぶ所以にして之を開かさるこは世界の智識を棄擲して顧みさる者と為すへく而して皇基を振起するも亦国会を開て人民の愛国心を発せしめ及び全国の一致するに非されは能はさる可けれは也」とある。なお、御宸翰も引用され、国会開設に結び付けられ、もちろん漸次立憲政体樹立の詔も引用される。

解説　山県有朋の演説❸

第一回帝国議会の衆議院は民党が多数を占め、政府の予算案を大幅に削減する動きをみせた。これに対して首相山県有朋が衆議院で予算案の正当性を主張した演説である。「官報」第2287号附録「明治24年２月16日衆議院議事速記録第45号」に掲載され、国立国会図書館の「帝国議会会議録検索システム」で参照できる。当時まで数十の明治天皇の勅語に示されているのが国是だとして、その実現に努めて来た政府の活動とその延長上の予算案を正当化する。

▶ここでいう「国是」は、五箇条と何が共通して何が異なっているのだろうか。

旧来の陋習を破って制度を新たにするなど、誓文の４、５を引き継ぎつつ、国際社会に国民国家として参加する姿勢が強調されているが、１～３に示された国内の統合に向けての方策には触れられなくなった。

▶なぜ、山県はそのような「国是」を述べたのだろうか。

憲法制定による国民の権利の保障や議会の開設で、誓文で示した国内体制の枠組みはで き上がった。その上で、従来の国是である誓文の１で正当性を主張できる議会に対して、今までの政府の施策の正しさを強調して主張を受け入れさせるため。

解説　『初等科国史　下』❹

国民学校と呼ばれた当時の小学校６年生が用いた教科書で、戦時下で最も皇国史観の影響が強くなった時期に教えられた日本史を示す。紙幅の都合から教科書には載せていないが、国立国会図書館デジタルコレクションや国立教育政策研究所近代教科書デジタルアーカイブでみられる。誓文は小学校の国定国史教科書で従来から取り上げられていたが、1921年版では引用部にあたる誓文制定の目的は「維新の政を盛にし万民を安んぜんが為」と説明されていた。

▶なぜ、このような紹介のしかたがなされたのだろうか。

誓文は明治天皇が示した国是であるから教科書に載せざるを得なかったが、国家主義的な戦争遂行体制の中で、１の合議制、３の個人の幸福追求、４の世界の普遍的価値意識や５の外国知識の導入は肯定的に教えられるべきものではなくなっていた。一方で、天皇の下で国力を増強し、海外に進出することが明治初年以来の国家の目標であったと説明することが望ましかったため。

▶「皇威を世界にかがやかす」とはどのような意味だろうか。宸翰での使われ方と、この時代の受け止められ方を考えてみよう。

宸翰では、古代に「国威海外に輝きしなり」としているので、朝鮮半島への出兵を踏まえている可能性もあるが、今後の「万里の波涛を拓開し、国威を四方に宣布し」は、主語が天皇であることを考えれば、天皇が海外を訪れる、あるいは日本人が海外で活躍し軍艦を含む日本の船が世界中を航海することを指しているようにも読める。いずれにせよ、1868（明治元）年には、未尾にあるように「神州（日本）を保全」することが当面の目標であった。1943（昭和18）年には、アジア・太平洋地域に広く日本軍が展開している現状を背景に、海外への軍事的進出が維新の目標であったと語られたのであろう。

解説　人間宣言❺

占領下でマッカーサー率いる連合国軍総司令部と幣原喜重郎内閣の合意によって出された日本の民主化および、その中での天皇の地位についての基本を示す詔書。昭和天皇は誓文を詔書に組み込んだのは自らの意志によるものであったと回想しているが（1977年８月23日記者会見）、幣原も前年10月の組閣直後に誓文の精神に則った民主主義政治の確立を政策目標として発表していた。

▶なぜこの詔書で五カ条の誓文が掲げられたのであろうか。

小学校教育により国民に知れ渡っている誓文の精神として民主化や国際協調を説くことにより、それらが占領軍に強制されるのではなく、維新期から日本の目指してきた道であると示すため。また、神に誓ったのではなく「御誓文を下し給へり」とすることで、天皇が国民のことを考え、国民と信頼関係を保って来たと示すため。

▶なぜ、五榜の掲示が合わせて取り上げられるのであろうか。

明治政府が、開明的な面と同時に、民衆に対して従来の支配体制を引き継ぐ面を持っていたことを示し、戦後の民主化の必要性を理解させるため。誓文、宸翰、五榜の掲示は諸藩に対して同時に示されており、歴史的には３つを合わせて意味を考えるのが適切である。

◆変わったこと、変わらないこと◆

国民の権利を認め、国際社会で諸外国と交流しつつ、一体となって国力の増強を図る国民国家の形成が維新の目標であり、誓文はそれをよく示していた。それ故、誓文は、国民国家の形が整う憲法制定・国会開設までは、民権派が政府の専制を攻撃する根拠ともなった。国民国家の形が整うと、誓文以外の「国是」の定義が試みられ、日本民族の優越性を主張することで対外侵略が正当化され、また国家目標を達成するためには個人の権利が制限されて当然と考えられた時代には、誓文に無理な解釈がなされたり、解釈が放棄されたりした。しかし、天皇が掲げた国是である以上、忘れ去られることはなく、敗戦後には平和国家として日本を立て直すために表舞台に立った。近代の歴史は国民国家の形成・成長という観点から捉えることができるが、それだけでは捉えきれないことも、誓文の扱われ方から理解できる。

【参考文献】大塚桂「五箇条の御誓文・再考」（「駒沢大学法学部研究紀要」64、2006年、駒澤大学学術機関リポジトリで公開）

歴史資料と近代・現代の展望②

貿易の変遷からみる日本の近代・現代

ねらい

開港後には貿易が国内経済に大きな影響を及ぼし、政府は国を富ませるために輸出超過か、少なくとも輸出入の均衡を求めて必要な措置をとった。日本の経済構造は、産業革命、世界大戦、高度経済成長、その後の脱工業化と変容を繰り返したが、輸出入品の構成から、それを概観することが出来る。時期を隔てて対比する、原料・燃料と工業製品の区別や対応関係を考える、といったグラフの読み取り方を学びつつ、産業の変化の画期を考えたい。

解説　1865（慶応元）年

開港から５年ほど経って、貿易による国内産業の変化が生じている。大量の生糸輸出は、それを目的とした養蚕や製糸が活発化になったことを示す。蚕卵紙は蚕が卵を産みつけた紙で、明治初年まで蚕の流行病に苦しんでいたフランスやイタリアで養蚕に用いられた。

▶「欧米の産業革命の影響がはっきりみられる」の意味①

輸入は欧米産の織物が多い。国内で用いられていた織物と全く同質のものが安く供給されたわけではない。細い機械制紡績糸で織られた綿布の目新しさ、毛織物の強靭さや風合などが好まれたが、それらが安価に供給されて日本で多くの需要を獲得したのは、産業革命によって機械を活用して大量生産されていたからである。生糸の輸出も、産業革命による消費と織物生産の拡大が背景である。

解説　1885（明治18）年

この翌年あたりから、機械制綿紡績業と鉄道業を中心に日本の産業革命が始まる。この時点では官営事業や外国人技師を雇った経営を除いては、在来の技術で貿易に対応した生産がなされていた。一部での近代技術の活用は、石炭や銅の輸出に反映している。

▶輸入の首位が綿糸である理由②

国内で、輸入綿糸を用いた織物が織られたためである。和服に用いられた小幅織物は先進国では生産されておらず、輸入糸を用いて、日本人の好みにあった色、柄で手作業で織られた。ヨーロッパから導入された飛び抒（バッタン）が一部で利用されて生産性を高めたが、動力は用いられず、農家の副業が中心であった。なお綿糸輸入先はイギリスが過半であるが、1870年代からインドで機械制紡績が発達したため英領インドも約４割を占める。

▶砂糖や石油の輸入増の理由③

砂糖は国産品より安価であり、価格低下で国内消費が増加した。菓子類に使われたほか、日常の料理の味付けにも影響したと考えられる。石油はほとんどが灯油で、ランプとの組み合わせで、従来の行灯などより明るい照明として広まった。共に、貿易の拡大でかなり広い範囲の人々の暮らしが変化したことを意味している。

解説　1899（明治32）年

紡績業と鉄道業を中心とする産業革命が進行し、1900年には機械制紡績の過剰生産を一因とする恐慌が発生する。その直前の状況で、工業原料の綿花のほか、機械類や鉄類の輸入が多いのは紡績機械や機関車、そして鉄道のレールまで輸入されたためで、重工業の発展の遅れを物語る。なお、陸海軍の軍艦・兵器等は1885年のグラフでは機械類などに含まれるが、以後戦前を通じて貿易統計には含まれない。

▶綿糸が輸出品に転じ、綿花が輸入品の首位になったことの意味④

綿糸の輸出は1890年に輸入を上回った。綿糸紡績業が、原料の綿花を輸入にたよる機械制工業として確立し、日本が原料を輸入して機械制工業生産を行ない製品を輸出する工業国の面を持ち始めたことがわかる。

解説　1913（大正２）年

第一次大戦の前の年をとり、大戦前の到達点を示した。284頁の貿易相手のグラフも同年のものであり、合わせて参照すると、前回まで上位だった砂糖が、台湾での生産でそれまでつつあること、また米も輸入とともに植民地からの移入がなされていることがわかる。なおこの年の、軍による軍艦・兵器類の輸入額は2948万円である。

▶米が輸入品になった事情⑤

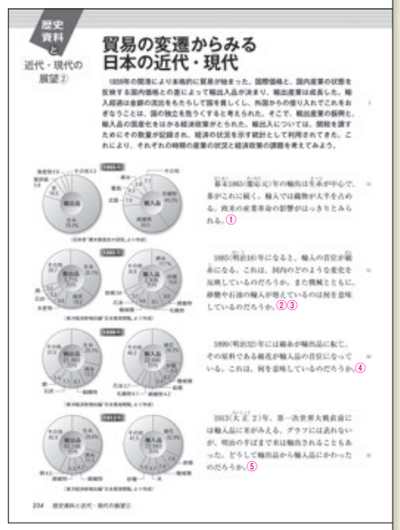
米の生産の伸びより、消費の伸びの方が大きかったため。その背景として、工業化、都市化がある。農村部では主食を雑穀、芋などで補っていたが、都市部や工場寄宿舎、軍隊などでは、脚気防止のため麦を混ぜることもあるものの、基本的に米が食された。東南アジア、南アジアから安価な米（インディカ米）が入ったことも一因。

解説　1935（昭和10）年

第一次世界大戦中の工業化の進展と、戦後に国際競争が激化する中で、輸出入品がやや明治後半に近い構成に戻る点を示すためにさらに２組のグラフを加えるのが最善だが、紙幅の関係で果たせなかった。

1935年には諸工業の発展で貿易品が多様化しているため一部「日本外国貿易年表」の類別を用いた。「衣類」は「衣類及同附属品」でメリヤス製シャツ、ワイシャツ、きもの、帽子、靴下、靴、ボタン、櫛など、「飲食物」は「飲食物及煙草」から「煙草」を除いた値で精糖、緑茶、魚介類、昆布、蜜柑など、「雑品」は、木材、木製品、花莖、真田、ゴム製品、セルロイド、ブラシ、豆電球、トランク、玩具、肥料などである。なお輸入の羊毛は95%がオーストラリア産で、同国との貿易の拡大にも注目したい。

教科書には掲載できなかった1918年・1926年を同様の分類で示す。1918年は機械・船舶の輸出がみられる一方、鉄類の輸入が拡大している。輸出の「穀物類」は「穀物穀粉澱粉及種子」でこの年の約半分はえんどう豆とインゲン豆であり、澱粉とともに大戦で農業生産力が低下した欧米に輸出された。大戦期の特異な需要は農業にもお



詳説日本史

関連教材

※紙面は制作中のものです。

＊**歴史資料と各時代の展望**のページは、充実した解説を付し、生徒が資料を活用した考察・表現をしやすい授業が展開できるよう工夫しました。

❶**ねらい**　取り上げた資料を扱う「ねらい」を示しました。
❷**解説**　取り上げた資料を、詳しく解説しています。
❸**問いの解答例**　教科書中の問いかけに対する考え方や解答例を示しています。
❹**まとめ**　資料を用いておこなった考察のまとめを示しています。
❺**教科書画像**　教科書の縮小画像に番号を付し、教科書と解説や問いの解答例との対応を示しました。

日本史探究教科書共通

教師用指導書 研究編

B5判・450頁（予定）・1色刷

山川出版社の日本史探究教科書で共通してご使用いただけます。教科書の構成に沿って、教科書に記述されている歴史事象やその背景、史料・図版の見方などについて、詳しく解説します。

※紙面は制作中のものです。

教師用指導書 授業実践編　付属データ集 日探705準拠

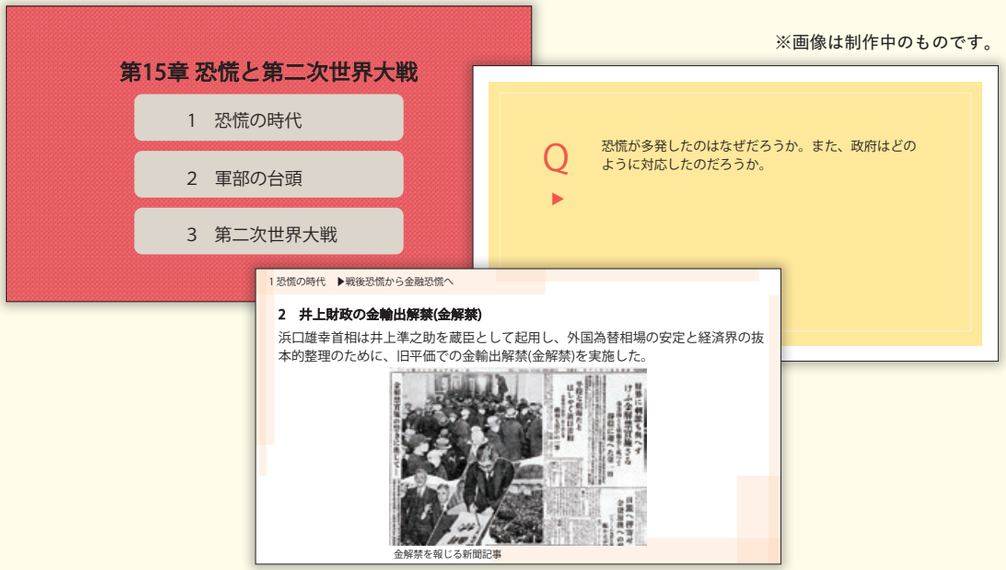
『教師用指導書 授業実践編』にはデータ集DVD-ROMが付属します。
授業準備やテスト問題の作成に、ぜひご活用ください。

付属データ集DVD-ROM　収録予定コンテンツ一覧

教科書データ	①教科書紙面	PDF	教科書全ページの紙面データ
	②教科書本文・史料テキスト	Word	本文・注・史料のテキストデータ
	③教科書掲載地図・図表	JPEG	カラー・モノクロ2種の画像データ
	④指導書紙面	PDF	指導書全ページの紙面データ
	⑤年間指導計画・評価規準例	Excel	カリキュラムにあわせて加工が可能
教科書準拠教材	⑥授業用スライド	PowerPoint	教科書の節ごとに構成 問いの解答例も収録
	⑦授業用スライド対応プリント	Word	スライドに対応したワークシート
	⑧準拠テスト例	Word	小問ごとに観点別評価を明記 テストに対応したルーブリック(評価規準表)付き
	⑨準拠ノート	Word、PDF	『詳説日本史授業用整理ノート』の紙面データ
	⑩白地図集	JPEG	プリント用、黒板用2種の画像データ

⑥授業用スライド(PowerPoint)

- 教科書の節ごとに構成されています。１スライド１メッセージを意識し、要点を理解しやすく工夫しています。
- 授業スタイルにあわせてアレンジが可能です。
- スライドに対応したワークシート(Word)もご用意しています。

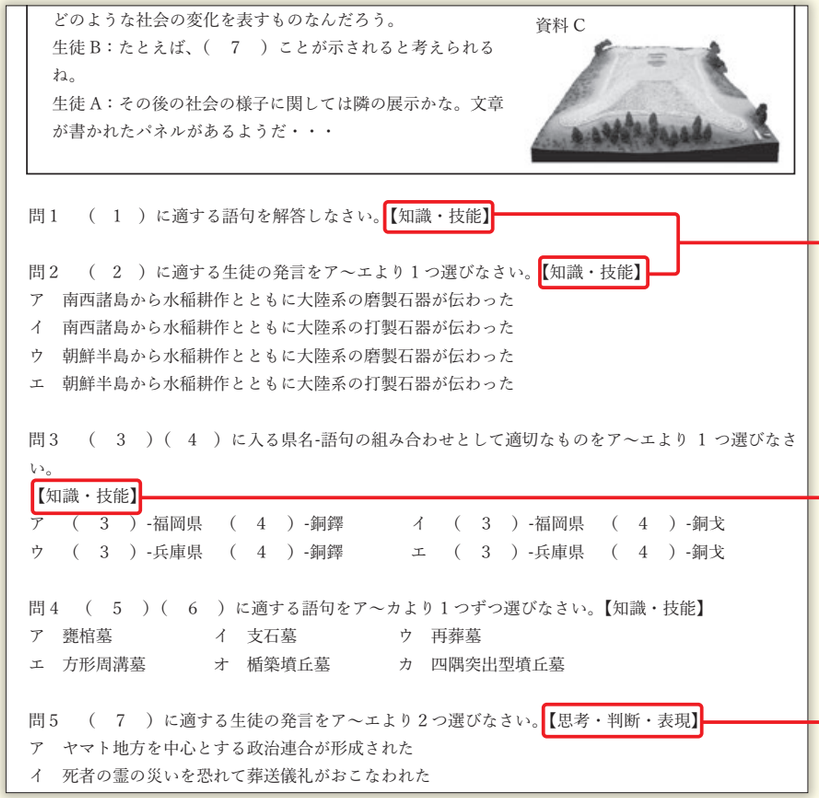


※画像は制作中のものです。

⑧準拠テスト例(Word)

〈１節ごとにA4約５枚収録予定〉

- 教科書の節ごとに構成されています。
- 小問ごとに観点別評価を明記しています。
- さまざまなパターンの出題形式を用意しています。



どのような社会の変化を表すものなんだろう。
生徒Ｂ：たとえば、（　7　）ことが示されると考えられるね。
生徒Ａ：その後の社会の様子に関しては隣の展示かな。文章が書かれたパネルがあるようだ・・・

資料Ｃ

問１　（　1　）に適する語句を解答しなさい。【知識・技能】

問２　（　2　）に適する生徒の発言をア～エより１つ選びなさい。【知識・技能】
ア　南西諸島から水稲耕作とともに大陸系の磨製石器が伝わった
イ　南西諸島から水稲耕作とともに大陸系の打製石器が伝わった
ウ　朝鮮半島から水稲耕作とともに大陸系の磨製石器が伝わった
エ　朝鮮半島から水稲耕作とともに大陸系の打製石器が伝わった

問３　（　3　）（　4　）に入る県名-語句の組み合わせとして適切なものをア～エより１つ選びなさい。
【知識・技能】
ア　（　3　）-福岡県　（　4　）-銅鐸　　イ　（　3　）-福岡県　（　4　）-銅戈
ウ　（　3　）-兵庫県　（　4　）-銅鐸　　エ　（　3　）-兵庫県　（　4　）-銅戈

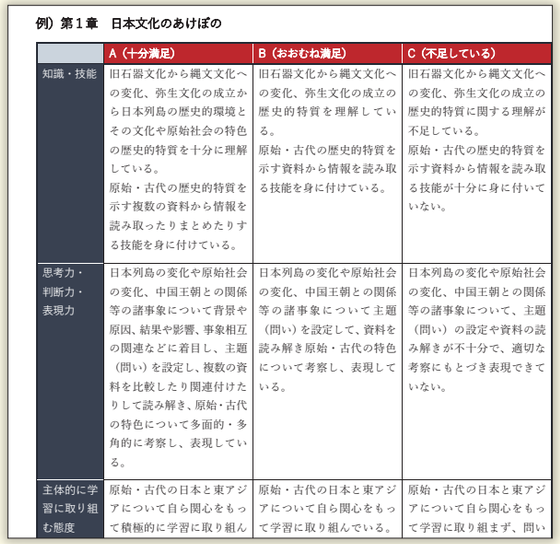
問４　（　5　）（　6　）に適する語句をア～カより１つずつ選びなさい。【知識・技能】
ア　甕棺墓　　イ　支石墓　　ウ　再葬墓
エ　方形周溝墓　　オ　楯築墳丘墓　　カ　四隅突出型墳丘墓

問５　（　7　）に適する生徒の発言をア～エより２つ選びなさい。【思考・判断・表現】
ア　ヤマト地方を中心とする政治連合が形成された
イ　死者の霊の災いを恐れて葬送儀礼がおこなわれた

問題ごとに【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】のいずれに相当するのかを示しています。

※画像は制作中のものです。

- 準拠テスト例に対応した「ルーブリック(評価規準表)」を収録しました。
  A・B・Cの具体的な規準を例示しています。



例）第１章　日本文化のあけぼの

	A（十分満足）	B（おおむね満足）	C（不足している）
知識・技能	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立から日本列島の歴史的環境とその文化や原始社会の特色の歴史的特質を十分に理解している。 原始・古代の歴史的特質を示す複数の資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立の歴史的特質を理解している。 原始・古代の歴史的特質を示す資料から情報を読み取る技能を身に付けている。	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立の歴史的特質に関する理解が不足している。 原始・古代の歴史的特質を示す資料から情報を読み取る技能が十分に身に付いていない。
思考力・判断力・表現力	日本列島の変化や原始社会の変化、中国王朝との関係等の諸事象について背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題（問い）を設定し、複数の資料を比較したり関連付けたりして読み解き、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、表現している。	日本列島の変化や原始社会の変化、中国王朝との関係等の諸事象について主題（問い）を設定して、資料を読み解き原始・古代の特色について考察し、表現している。	日本列島の変化や原始社会の変化、中国王朝との関係等の諸事象について、主題（問い）の設定や資料の読み解きが不十分で、適切な考察にもとづき表現できていない。
主体的に学習に取り組む態度	原始・古代の日本と東アジアについて自ら関心をもって積極的に学習に取り組ん	原始・古代の日本と東アジアについて自ら関心をもって学習に取り組んでいる。	原始・古代の日本と東アジアについて自ら関心をもって学習に取り組まず、問い

詳説日本史

詳説日本史ノート

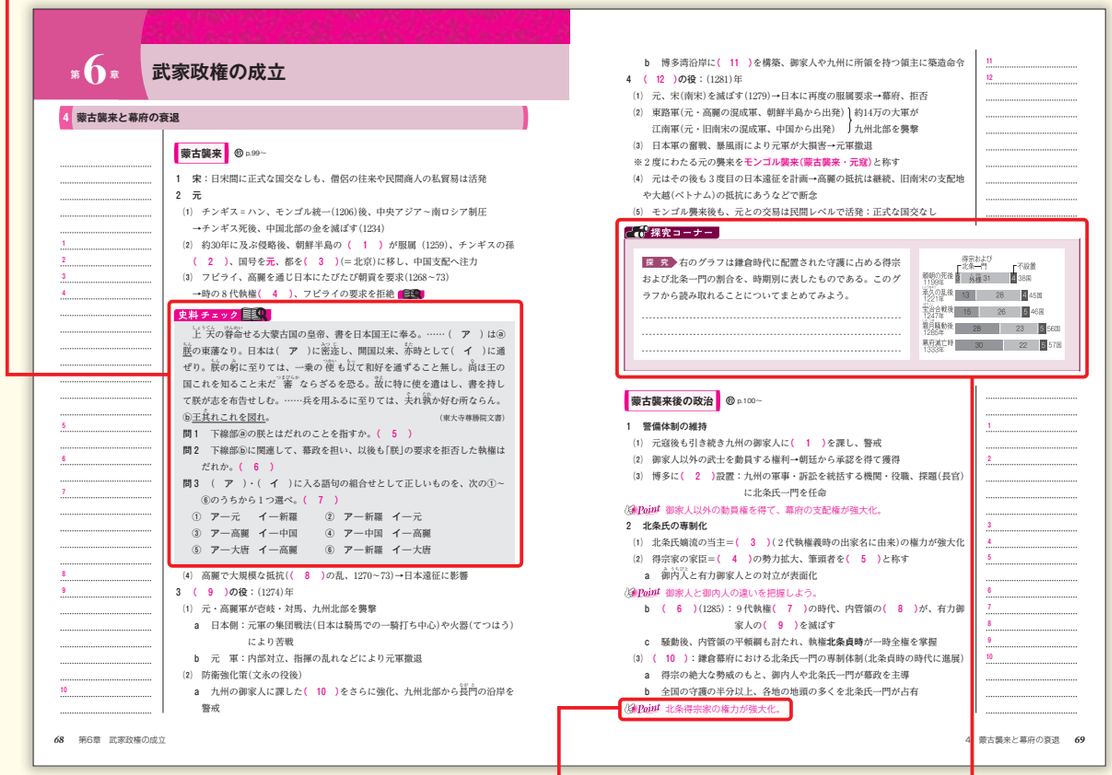
日探705準拠

B5判・260頁（予定）・2色刷

- 自学自習用の書込式ノートです。大学受験なども想定して、様々な要素を取り入れました。
- 穴埋め形式で知識を確認するほか、「史料チェック」や「探究コーナー」などを設け、学力の定着を図ります。

「史料チェック」では、重要な文字資料を確認できます。

見開き両脇を解答欄としています。



第6章 武家政権の成立

4 蒙古襲来と幕府の衰退

蒙古襲来 ◎p.90〜

1 宋：日宋間に正式な国交なしも、僧侶の往来や民間商人の私貿易は活発

2 元

(1) チンギス＝ハン、モンゴル統一(1206)後、中央アジア〜南ロシア制圧
→チンギス死後、中国北部の金を滅ぼす(1234)

(2) 約30年に及ぶ侵略後、朝鮮半島の（ 1 ）が服属（1259）、チンギスの孫（ 2 ）、国号を元、都を（ 3 ）(＝北京)に移し、中国支配へ注力

(3) フビライ、高麗を通じ日本にたびたび朝貢を要求(1268〜73)
→時の8代執権（ 4 ）、フビライの要求を拒絶 自主

史料チェック 重要

上（天）の命令を受ける大蒙古国の皇帝、書を日本国王に奉る。……（ ア ）は ⓐ 朕の東藩なり。日本は（ ア ）に密迩し、開国以来、亦時として（ イ ）に通ぜり。朕の躬に至りては、一乗の使も以て和好を通ずること無し。尚は王の国これを知ること未だ審ならざるを恐る。故に特に使を遣はし、書を持して朕が志を布告せしむ。……兵を用ふるに至りては、夫れ孰か好む所ならん。ⓑ王其れこれを図れ。（東大寺尊勝院文書）

問1 下線部ⓐの朕とはだれのことを指すか。（ 5 ）

問2 下線部ⓑに関連して、幕政を担い、以後も「朕」の要求を拒否した執権はだれか。（ 6 ）

問3 （ ア ）・（ イ ）に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①〜⑥のうちから1つ選べ。（ 7 ）

① ア―元 イ―新羅 ② ア―新羅 イ―元
③ ア―高麗 イ―中国 ④ ア―中国 イ―高麗
⑤ ア―大宰 イ―高麗 ⑥ ア―新羅 イ―大宰

(4) 高麗で大規模な抵抗（（ 8 ）の乱、1270〜73）→日本遠征に影響

3 （ 9 ）の役：(1274)年

(1) 元・高麗軍が壱岐・対馬、九州北部を襲撃

a 日本側：元軍の集団戦法(日本は騎馬での一騎打ち中心)や火器(てつはう)により苦戦

b 元 軍：内部対立、指揮の乱れなどにより元軍撤退

(2) 防衛強化策(文永の役後)

a 九州の御家人に課した（ 10 ）をさらに強化、九州北部から長門の沿岸を警戒

b 博多湾沿岸に（ 11 ）を構築、御家人や九州に所領を持つ領主に築造命令

4 （ 12 ）の役：(1281)年

(1) 元、宋(南宋)を滅ぼす(1279)→日本に再度の服属要求→幕府、拒否

(2) 東路軍(元・高麗の混成軍、朝鮮半島から出発)
江南軍(元・旧南宋の混成軍、中国から出発) } 約14万の大軍が九州北部を襲撃

(3) 日本軍の奮戦、暴風雨により元軍が大損害→元軍撤退

※2度にわたる元の襲来をモンゴル襲来(蒙古襲来・元寇)と称す

(4) 元はその後も3度目の日本遠征を計画→高麗の抵抗は継続、旧南宋の支配地や大越(ベトナム)の抵抗にあうなどで断念

(5) モンゴル襲来後も、元との交易は民間レベルで活発：正式な国交なし

探究コーナー

探究 右のグラフは鎌倉時代に配置された守護に占める得宗および北条一門の割合を、時期別に表したものである。このグラフから読み取れることについてまとめてみよう。

蒙古襲来後の政治 ◎p.100〜

1 警備体制の維持

(1) 元寇後も引き続き九州の御家人に（ 1 ）を課し、警戒

(2) 御家人以外の武士を動員する権利→朝廷から承認を得て獲得

(3) 博多に（ 2 ）設置：九州の軍事・訴訟を統括する機関・役職、探題(長官)に北条氏一門を任命

Point 御家人以外の動員権を得て、幕府の支配権が強大化。

2 北条氏の専制化

(1) 北条氏嫡流の当主＝（ 3 ）(2代執権義時の出家名に由来)の権力が強大化

(2) 得宗家の家臣＝（ 4 ）の勢力拡大、筆頭者を（ 5 ）と称す

a 御内人と有力御家人との対立が表面化

Point 御家人と御内人の違いを把握しよう。

b （ 6 ）(1285)：9代執権（ 7 ）の時代、内管領の（ 8 ）が、有力御家人の（ 9 ）を滅ぼす

c 騒動後、内管領の平頼綱も討たれ、執権北条貞時が一時全権を掌握

(3) （ 10 ）：鎌倉幕府における北条氏一門の専制体制(北条貞時の時代に進展)

a 得宗の絶大な勢威のもと、御内人や北条氏一門が幕政を主導

b 全国の守護の半分以上、各地の地頭の多くを北条氏一門が占有

Point 北条得宗家の権力が強大化。

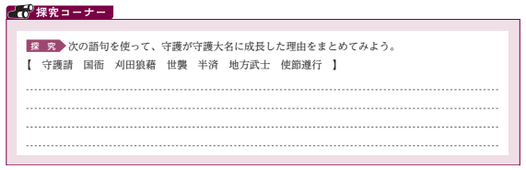
68 第6章 武家政権の成立

4 蒙古襲来と幕府の衰退 69

※紙面は制作中のものです。

適宜、学習上のポイントを解説しています。

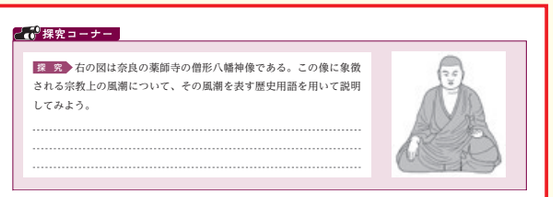
「探究コーナー」では、図版・グラフなどの読み取り問題や学習内容をより深められる問題を設けています。



探究コーナー

探究 次の語句を使って、守護が守護大名に成長した理由をまとめてみよう。

【 守護請 国衙 刈田狼藉 世襲 半済 地方武士 使節遵行 】



探究コーナー

探究 右の図は奈良の薬師寺の僧形八幡神像である。この像に象徴される宗教上の風潮について、その風潮を表す歴史用語を用いて説明してみよう。

詳説日本史

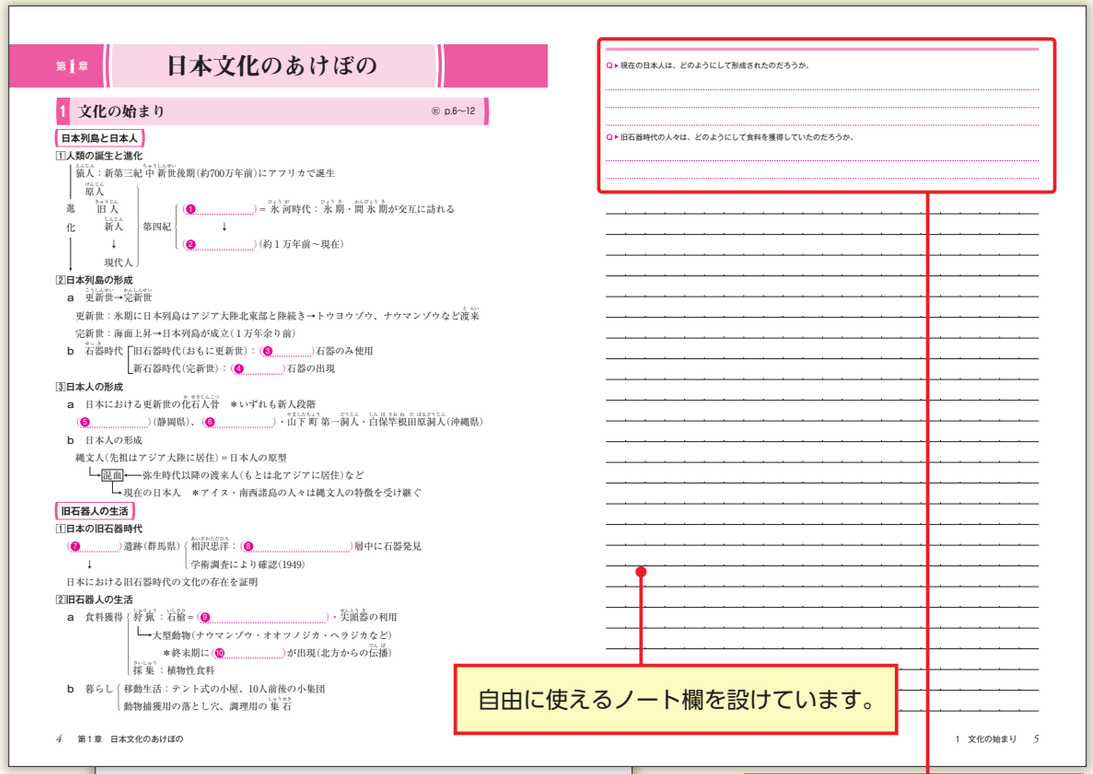
詳説日本史授業用整理ノート

日探705準拠

B5判・240頁（予定）・2色刷　※書店店頭での販売は致しません

- 授業用の書込式ノートです。様々な授業スタイルを想定して、シンプルな構成にしました。
- 左頁では、思考のベースとなる知識を確認します。→❶
- 右頁では、教科書に掲載されている問い(Q)や「読みといてみよう」、章のまとめの問いに取り組めます。→❷

❶教科書の内容をわかりやすくまとめています。穴埋め形式で、重要語句の確認ができます。



第1章 日本文化のあけぼの

1 文化の始まり ◎p.8〜12

日本列島と日本人

1 人類の誕生と進化

猿人：新第三紀中新世後期(約700万年前)にアフリカで誕生

進化
旧人
新人
↓
現代人

第四紀
❶（　　）＝氷河時代：氷期・間氷期が交互に訪れる
↓
❷（　　）(約1万年前〜現在)

2 日本列島の形成

a 更新世→完新世

更新世：氷期に日本列島はアジア大陸北東部と陸続き→トウヨウゾウ、ナウマンゾウなど渡来

完新世：海面上昇→日本列島が成立(1万年余り前)

b 石器時代
旧石器時代(おもに更新世)：❸（　　）石器のみ使用
新石器時代(完新世)：❹（　　）石器の出現

3 日本人の形成

a 日本における更新世の化石人骨 ＊いずれも新人段階

（❺　　）(静岡県)、（❻　　）・山下町第一洞人・白保竿根田原洞人(沖縄県)

b 日本人の形成

縄文人(先祖はアジア大陸に居住)＝日本人の原型

└既画└弥生時代以降の渡来人(もとは北アジアに居住)など
└現在の日本人 ＊アイヌ・南西諸島の人々は縄文人の特徴を受け継ぐ

旧石器人の生活

1 日本の旧石器時代

（❼　　）遺跡(群馬県)
↓
相沢忠洋：❽（　　）層中に石器発見
学術調査により確認(1949)

日本における旧石器時代の文化の存在を証明

2 旧石器人の生活

a 食料獲得
狩猟：石槍＝❾（　　）・矢鏃器の利用
└大型動物(ナウマンゾウ・オオツノジカ・ヘラジカなど)
＊終末期に❿（　　）が出現(北方からの伝播)
採集：植物性食料

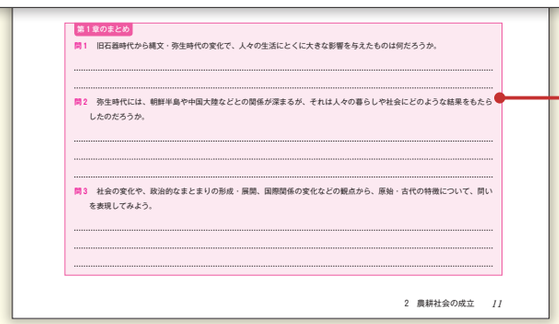
b 暮らし
移動生活：テント式の小屋、10人前後の小集団
動物捕獲用の落とし穴、調理用の集石

4 第1章 日本文化のあけぼの

Q▸現在の日本人は、どのようにして形成されたのだろうか。

Q▸旧石器時代の人々は、どのようにして食料を獲得していたのだろうか。

自由に使えるノート欄を設けています。



第1章のまとめ

問1 旧石器時代から縄文・弥生時代の変化で、人々の生活にとくに大きな影響を与えたものは何だろうか。

問2 弥生時代には、朝鮮半島や中国大陸などとの関係が深まるが、それは人々の暮らしや社会にどのような結果をもたらしたのだろうか。

問3 社会の変化や、政治的なまとまりの形成・展開、国際関係の変化などの観点から、原始・古代の特徴について、問いを表現してみよう。

2 農耕社会の成立 11

❷教科書に掲載されている問い(Q)や「読みといてみよう」、章のまとめに対応した解答欄を設けています。

※紙面は制作中のものです。

ノート・整理ノートともに、ご採用特典として、解答入りのWord、PDFデータをご提供いたします。

関連教材

年間指導計画・評価規準例 （※３単位、年間105時間）

※小社HPに全体のExcelファイルを用意しています。ダウンロードしてご利用ください。

学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

使用教科書・副教材

教科書：『詳説日本史』
副教材：『詳説日本史ノート』
『詳説日本史授業用整理ノート』
『詳説日本史図録』

節	章	節	配当時 月	配当時 授業時数	配当時 授業時	学習内容とねらい
第Ⅰ部 原始・古代	第1章 日本文化のあけぼの	1　文化の始まり	4月	4	1 2	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。
		2　農耕社会の成立			3 4	①大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ②集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ③原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。
	歴史資料と原始・古代の展望	①古代社会と海外との交流		2	5	①中国の歴史書の記事をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権（倭国）と中国・朝鮮半島の諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。 ②古代の対外交流がヤマト政権や律令国家の展開に向かってどのように変化していったか、仮説を表現して展望する。
		②木簡から古代国家を探る			6	①遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を特徴とする律令制のもとで人・物・情報がどのように移動していたのか、多面的・多角的に考察する。 ②古代の中央・地方をめぐる物流や地方における文字文化の広がりについて、仮説を表現して展望する。
	第2章 古墳とヤマト政権	1　古墳文化の展開		4	7 8	①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。
		2　飛鳥の朝廷	5月		9 10	①ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ②飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。
	第3章 律令国家の形成	1　律令国家への道		6	11 12	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。
		2　平城京の時代			13 14	①律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。
		3　律令国家の文化			15	①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。
		4　律令国家の変容			16	①平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ②東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。
	第4章 貴族政治の展開	1　摂関政治		4	17	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。
		2　国風文化			18	①大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。
		3　地方政治の展開と武士	6月		19 20	①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ②地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。
第Ⅱ部 中世	第5章 院政と武士の躍進	1　院政の始まり		3	21	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。
		2　院政と平氏政権			22 23	①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ②古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。
	歴史資料と中世の展望	絵画から中世社会を探る		2	24 25	①政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。
	第6章 武家政権の成立	1　鎌倉幕府の成立		6	26	①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。
		2　武士の社会			27 28	①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。

科目全体の評価の観点（指導要領の目標）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の規準 知識・技能【評価の方法】定期考査／提出課題／発問評価	思考・判断・表現【評価の方法】定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	主体的に学習に取り組む態度【評価の方法】提出課題／授業態度／発表・レポート提出
日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。	黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。	黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。
水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、『魏志』倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。	日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。
中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	中国の歴史書の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	日本列島における小国およびヤマト政権と中国・朝鮮半島などとの交流について考察することを通じて、古代の対外交流の実態を明らかにしようとしている。
木簡の記録をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	木簡の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	木簡を資料として活用し、律令国家における文字文化の広がりについて主体的に考察しようとしている。
国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。	中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。
推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。	仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。	天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。	隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。
平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。	文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。	平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。
隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。	盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。	隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。
東アジアとの関係の変化や社会の変化と文化との関係などに着目して、平安遷都前後の諸政策や平安初期の文化の変容を理解している。	蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根拠を示して表現している。	東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。
藤原氏が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。	奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。	唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。
大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。	国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。	平安時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。
地方の諸勢力の成長と影響などに着目して、律令制度の実態や地方における開発、治安の維持、荘園の発達などについて、その特色や変容を理解している。	文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。	国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。	武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。	中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。
平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。	武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。
『年中行事絵巻』『一遍上人絵伝』『洛中洛外図屏風』を比較して、様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。	複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。	中世の京都を描いた絵画資料から得られる情報をもとに、中世社会の特色について主体的に課題を見出そうとしている。
諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。	幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。	鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。
承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。	武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。	公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。

年間指導計画・評価規準例

※小社HPに全体のExcelファイルを用意しています。ダウンロードしてご利用ください。

節	章	節	配当時 月	配当時 授業時数	配当時 授業時	学習内容とねらい	評価の規準 知識・技能【評価の方法】定期考査／提出課題／発問評価	評価の規準 思考・判断・表現【評価の方法】定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	評価の規準 主体的に学習に取り組む態度【評価の方法】提出課題／授業態度／発表・レポート提出
第Ⅱ部 中世		3　モンゴル襲来と幕府の衰退	7月		29 30	①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。	宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。	鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。	宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。
		4　鎌倉文化			31	①庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ②伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。	公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。	宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角的に考察し、表現している。	鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。
	第7章 武家社会の成長	1　室町幕府の成立		8	32 33	①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。	鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。	南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。	武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。
		2　幕府の衰退と庶民の台頭			34 35	①庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。	自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。	室町時代に成立した村の自治的な運営が現代社会における自治とどのように異なるかなど、自身との関わりにおいて課題を主体的に追究しようとしている。
		3　室町文化	9月		36 37	①武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ②庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。	経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の形成や融合について理解している。	室町時代の文化の特徴と、当時の政治や経済の動向との関係を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。	室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。
		4　戦国大名の登場			38 39	①応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。	戦国大名による富国強兵策に着目して領国統治の特色を諸資料から考察し、堺や博多など都市の発展にみられる戦国時代の社会の多様性を表現している。	15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。
第Ⅲ部 近世	第8章 近世の幕開け	1　織豊政権		3	40 41	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。	村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。	織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。
		2　桃山文化			42	①新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ②中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	桃山文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を読み取り、理解している。	豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。	桃山文化の特色について、中世文化の特色との比較を通じて、その類似と差異を見出そうとしている。
	歴史資料と 近世の展望	生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化		2	43 44	①生類憐みの令として知られる一連の法令から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②資料から適切に読み取った情報をもとに、近世の特色についての仮説を表現して展望する。	法令の内容を適切に読み取り、生類憐みの令が出された当時の社会の雰囲気について、文芸作品との関わりも踏まえて理解している。	生類憐みの令が出された時期の諸政策や国際的な環境の変化をもとに、江戸時代の特徴を多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	戦国時代までの社会の在りかたと比較し、近世がどのような社会に変わったのかについて課題を主体的に追究しようとしている。
	第9章 幕藩体制の成立と展開	1　幕藩体制の成立	10月	11	45 46 47	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。	織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。
		2　幕藩社会の構造			48 49	①幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ②被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。	幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。	新たな支配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。	織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察し、そのつながりを見出そうとしている。
		3　幕政の安定			50 51	①17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ②諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。	諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳期に至る政治の推移について理解している。	戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。	幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。
		4　経済の発展			52 53	①幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ②全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。	産業の発達、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都に関わる諸資料から情報を読み取り、技術の向上と開発の進展について理解している。	陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。
		5　元禄文化			54 55	①経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 ②儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。	都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、17世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。	近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。	幕藩体制が安定していく中での経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。
	第10章 幕藩体制の動揺	1　幕政の改革	11月	8	56 57	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。	幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。	商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。	幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。
		2　宝暦・天明期の文化			58 59	①江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ②幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。	幕藩体制下の社会の変容に着目して、宝暦・天明期における新たな学問の確立、各地に設立された教育機関の展開を理解している。	幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期における文化の展開について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。
		3　幕府の衰退と近代への道			60 61	①欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ②近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。	列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。	国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。	飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。
		4　化政文化			62 63	①化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ②都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。	政治・経済と文化の関係などに着目して、19世紀初期の経済の動向や江戸を中心とする庶民文化の形成について理解している。	近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。	近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、学問・教育・出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出そうとしている。
第Ⅳ部 近代・現代	第11章 近世から近代へ	1　開国と幕末の動乱		3	64 65	①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。	欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。	日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。
		2　幕府の滅亡と新政府の発足			66	①幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 ②近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。	日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。	幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。
	歴史資料と 近代・現代の展望	①五箇条の誓文と国是	12月	2	67	①五箇条の誓文のあつかわれ方について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近代・現代の歴史について仮説を表現して展望する。	五箇条の誓文の内容を踏まえたうえで、自由民権運動や初期議会、戦時下の学校教育や占領下の日本における同資料のあつかわれ方を読み取っている。	五箇条の誓文のあつかわれ方から、近代・現代の歴史のどのような流れを読み取ることができるかを考察し、仮説を表現している。	時代を通観する問いを踏まえ、五箇条の誓文のあつかわれ方を通してみえる日本の近代・現代の歴史の展開について、展望しようとしている。
		②貿易の変遷からみる日本の近代・現代			68	①日本の近代・現代における輸出入品の推移から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近現代の日本の産業の在り方や課題について仮説を表現して展望する。	開国以降の日本の貿易において、輸出産業の振興と輸入品の国産化をはかる経済政策がとられた背景を諸資料から読み取っている。	近代・現代における各時期の貿易の変遷から、その課題が何であったかを考察し、日本の産業の変化について仮説を表現している。	時代を通観する問いを踏まえ、近現代における日本の産業が抱える課題について、主体的に追究しようとしている。

年間指導計画・評価規準例

※小社HPに全体のExcelファイルを用意しています。ダウンロードしてご利用ください。

節	章	節	配当時 月	配当時 授業時数	配当時 授業時	学習内容とねらい	評価の規準 知識・技能【評価の方法】定期考査／提出課題／発問評価	評価の規準 思考・判断・表現【評価の方法】定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	評価の規準 主体的に学習に取り組む態度【評価の方法】提出課題／授業態度／発表・レポート提出
	第12章 近代国家の成立	1　明治維新と富国強兵		5	69 70 71	①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。	明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。	諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。	明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。
		2　立憲国家の成立			72 73	①政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ②大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。	諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。	国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。	自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
	第13章 近代国家の展開	1　日清・日露戦争と国際関係		6	74 75	①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。	日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。	議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。	対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。
		2　第一次世界大戦と日本			76 77	①第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ②第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。	第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。	大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。	対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。
		3　ワシントン体制			78 79	①ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ②民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。	大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。	東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。
	第14章 近代の産業と生活	1　近代産業の発展		6	80 81	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。	産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。	地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。	産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自ら主体的に追究しようとしている。
		2　近代文化の発達			82 83	①伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ②義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。	国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。	学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。	明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。
		3　市民生活の変容と大衆文化			84 85	①労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ②大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。	学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。	都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。	マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。
	第15章 恐慌と第二次世界大戦	1　恐慌の時代		7	86 87	①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。	国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。	ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。	当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。
		2　軍部の台頭	2月		88 89 90	①日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ②恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。	政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。	当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。	満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
		3　第二次世界大戦			91 92	①日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ②第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。
	第16章 占領下の日本	1　占領と改革		4	93 94	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。	第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。	戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。
		2　冷戦の開始と講和			95 96	①東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 ②連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。	占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。	地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。	連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。
	第17章 高度成長の時代	1　55年体制	3月	4	97 98	①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。	保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。	日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。	55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。
		2　経済復興から高度経済成長へ			99 100	①朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ②消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。	冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。	日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。	高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。
	第18章 激動する世界と日本	1　経済大国への道		3	101	①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、２度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。	ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。	日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。
		2　冷戦の終結と日本社会の変容			102 103	①冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 ②科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。	国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。
	現代日本の課題の探究	日本における自然災害の歴史		2	104 105	①日本列島における自然災害の歴史に関して、各時代の人々が自然災害にどのように向き合ってきたのか、諸資料から情報を読み取って考察し、それを表現する方法を学ぶ。 ②事例を参考に、自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、表現する。	過去の自然災害とその対応に関する諸資料を読み解いて得られた情報をもとに、現代日本の課題の形成に関わる歴史を理解している。	歴史上の自然災害に人々がどのように対応してきたのか、既習知識と結びつけて多面的・多角的な考察し、表現している。	自ら主題を的確に設定し、資料を適切に解釈したうえで複数の解釈を比較・検討・選択し、充分な論理展開で叙述・表現している。

高校日本史

日本史探究（日探706）　B5判（257㎜×182㎜）　302頁

［編者］

佐藤　信　東京大学名誉教授
五味　文彦　東京大学名誉教授
高埜　利彦　学習院大学名誉教授
鈴木　淳　東京大学教授

［著作者］

老川　慶喜　立教大学名誉教授
大津　透　東京大学教授
早乙女雅博　東京大学名誉教授
坂上　康俊　九州大学名誉教授
桜井　英治　東京大学教授
設楽　博己　東京大学名誉教授
高橋　典幸　東京大学教授
沼尻　晃伸　立教大学教授
牧原　成征　東京大学准教授
三枝　暁子　東京大学准教授
三谷　芳幸　筑波大学准教授
村　和明　東京大学准教授
山口　輝臣　東京大学教授
湯川　文彦　お茶の水女子大学准教授
吉田　伸之　東京大学名誉教授
渡邉　宏明　海城中学高等学校教諭
會田　康範　学習院高等科教諭
大熊　俊之　埼玉県立不動岡高等学校教諭
多田万里子　埼玉県立熊谷西高等学校教諭
豊田　基裕　東京都立大江戸高等学校教諭
株式会社　山川出版社

message

五味文彦

（ごみふみひこ）
東京大学名誉教授

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、変異種が次々に現れる今、多くの人々はこれからの社会がどうなってゆくのか、不安をおぼえているでしょう。目を向けると、社会のいろいろな動きが見えてきています。地域社会の衰退や格差社会の進行、身近な家庭・学校、社会のあり方などです。これらに立ち向かうためには、過去の歴史から学ぶことが、たいへん重要です。

先人が苦難を乗り越え、築いてきた歴史を知ることは、これから生きてゆく上で大きな力になるはずです。社会のあらゆる分野で活動してきた先人の努力を、しっかり見つめ、考えて、生きてゆく力を育てましょう。

この教科書では、基本となる事実を示し、その事実の背景となる時代の動きを記すようにつとめました。わかりやすい文章で、正確に事実を伝える努力をしてきました。これまでの実績に基づきつつも、それを生かして、よりよい教科書をめざし編集しました。きっと皆さまの期待にこたえるでしょう。

佐藤信

（さとうまこと）
東京大学名誉教授

今日、災害・疫病や高齢化・過疎化などの厳しい現実が課題となるなかで、持続可能で平和かつ多様な社会をめざすことが求められています。見通しのきかない状況下で、世界・日本や私たちが住む地域社会のあり方を展望する際に、先人が築いてきた歴史・文化・伝統を見すえる「知」から学ぶことが多くあるといえます。

この教科書では、多様な歴史資料にもとづきながら、歴史の文脈をたどるとともに歴史的思考を深められるようにつとめました。

どうぞ、どの時代からでも歴史に対して疑問をもち、自ら歴史資料を確かめ、調べ、考えて、歴史をたずねてみてください。

この「日本史探究」で学んだことが、これから皆さんが生きていく上で、多様で豊かな経験にあふれた世界・日本や地域の歴史・文化をふり返り、あたらしい社会の創成をめざす際の一助となれば、うれしく思います。

豊富な材料で 楽しく学べる

生徒が読んでわかる教科書

1　要点をおさえた、わかりやすい教科書。

- 『詳説日本史』の章立てに準拠し、**内容と構成を簡潔に**工夫しました。
- 生徒が自ら読んで理解できるよう、歴史の基本的な流れを、**わかりやすい文章**で叙述しました。
  また、ふりがなを丁寧にふり、注も少なくし、本文の読みやすさを第一に考えました。

2　興味・関心を高める工夫と、豊富な史資料。

- **史料の現代語訳**や拡大画像などを参照できる69点の「2次元コード」。
- 史資料をもとに解釈・説明・論述するための発展的な「読みとき」。
- 生徒の**興味をひきだす**エピソードを紹介する75点の「Topic」。
- 文化財や列島の多様性など、様々な観点を提供する8点の「特集ページ」。
- 視覚的なイメージを持てる**約720点の図版**を掲載。
- 教科書の判型を大きく（**A5判→B5判**）し、図版を大きくレイアウト。

関連教材

授業準備／テスト／評価に

- 教師用指導書 授業実践編　➡p.58-59
- デジタル　教師用指導書 授業実践編 付属データ集　➡p.60-61
- 教師用指導書 研究編　➡p.31

授業／予習・復習に

- 準拠ノート　➡p.62-63
- デジタル　デジタル教科書　➡p.66-69

目次と配当時間例

『高校日本史』は『詳説日本史』の章立てに準拠しています。

各部の最初の章は、**時代の転換**を意識した構成にしました。➡p.46〜47

歴史資料と各時代の展望では、多様な史資料を活用し、生徒自身が**歴史を考察する力**を養えるようにしました。➡p.48〜49

独自の歴史をもつ地域や、文化財保護への関心を高める、**特集ページ**(8テーマ)を設けました。➡p.54

目次

配当時間例(月/時数)

第Ⅰ部 原始・古代

4月 3
- 第1章 日本文化のあけぼの
  - 1 日本文化の始まり …… 6
  - 2 農耕の開始 …… 11

4月 2
- 歴史資料と原始・古代の展望
  - ①古代社会と海外との交流 …… 16
  - ②木簡から古代国家をさぐる …… 18

4月 3
- 第2章 古墳とヤマト政権
  - 1 古墳文化の展開 …… 20
  - 2 飛鳥の朝廷 …… 25

5月 6
- 第3章 律令国家の形成
  - 1 律令国家への道 …… 29
  - 2 平城京の時代 …… 34
  - 3 律令国家の文化 …… 38
  - 4 律令国家の変容 …… 42

5月 4
- 第4章 貴族政治の展開
  - 1 摂関政治 …… 48
  - 2 国風文化 …… 52
  - 3 荘園の発達と武士団の成長 …… 55

第Ⅱ部 中世

6月 3
- 第5章 院政と武士の進出
  - 1 院政の始まり …… 60
  - 2 院政と平氏政権 …… 63

6月 2
- 歴史資料と中世の展望
  - 絵画から中世社会をさぐる …… 68

7月 6
- 第6章 武家政権の成立
  - 1 鎌倉幕府の成立と展開 …… 72
  - 2 モンゴル襲来と幕府の衰退 …… 78
  - 3 鎌倉文化 …… 82

7月 8
- 第7章 武家社会の成長
  - 1 室町幕府の成立 …… 86
  - 2 下剋上の社会 …… 93
  - 3 室町文化 …… 98
  - 4 戦国の動乱 …… 103

第Ⅲ部 近世

8月 3
- 第8章 近世の幕開け
  - 1 天下人の登場 …… 108
  - 2 豊臣政権と桃山文化 …… 112

8月 2
- 歴史資料と近世の展望
  - 朝鮮通信使 …… 117

9月 11
- 第9章 幕藩体制の成立と展開
  - 1 江戸幕府の成立 …… 122
  - 2 江戸初期の外交と文化 …… 128
  - 3 幕政の安定 …… 133
  - 4 経済の発展 …… 136
  - 5 元禄文化 …… 142

10月 8
- 第10章 幕藩体制の動揺
  - 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 …… 147
  - 2 江戸幕府の衰退 …… 153
  - 3 化政文化 …… 159

第Ⅳ部 近代・現代

11月 3
- 第11章 近世から近代へ
  - 1 開国とその影響 …… 164
  - 2 幕府の滅亡と新政府の発足 …… 169

11月 2
- 歴史資料と近代・現代の展望
  - ①議会と選挙権 …… 174
  - ②生糸の生産 …… 176

12月 5
- 第12章 近代国家の成立
  - 1 明治維新 …… 178
  - 2 立憲国家の成立 …… 186

12月 7
- 第13章 近代国家の展開と国際関係
  - 1 大陸政策の展開 …… 192
  - 2 第一次世界大戦と日本 …… 201
  - 3 ワシントン体制 …… 206

1月 6
- 第14章 近代の産業と生活
  - 1 近代産業の発展 …… 212
  - 2 近代の文化 …… 218
  - 3 市民生活の変容と大衆文化 …… 223

1月 7
- 第15章 恐慌と第二次世界大戦
  - 1 恐慌の時代 …… 228
  - 2 軍部の台頭 …… 232
  - 3 第二次世界大戦 …… 237

2月 10
- 第16章 現代の世界と日本
  - 1 占領下の改革と主権の回復 …… 248
  - 2 55年体制と高度経済成長 …… 259
  - 3 現代の情勢 …… 267

3月 2
- 現代日本の課題の探究
  - 地域社会や身のまわりから考えよう …… 274

周辺地域を学ぶ
- ❶古代の南九州―隼人― …… 47
- ❷古代の東北と奥州藤原氏 …… 58
- ❸琉球王国 …… 106
- ❹アイヌと和人 …… 146

身近な文化財をまもり未来につなげること
- ❶歴史資料としての文化財 …… 67
- ❷災害と文化財 …… 121
- ❸地域の文化財から歴史を探究しよう …… 162
- ❹学芸員体験で歴史を語る当事者になろう …… 191

日本史年表 …… 280
索引 …… 287

古代の行政区画 …… 表見返し
干支、時刻と方位、度量衡 …… 表見返し裏
政党・政派の変遷 …… 裏見返し

高校日本史

凡例

1. 年代は西暦を主とし、日本の年号は(　)の中に入れた。明治5年までは日本暦と西暦とは1カ月前後の違いがあるが、年月はすべて日本暦をもとにし、西暦に換算しなかった。たとえば天正14年12月1日は、西暦では1587年1月9日であるが、1586(天正14)年12月とした。改元のあった年は、その年の初めから新しい年号とした。たとえば慶応4年は9月8日に改元して明治元年となったが、この年のことはすべて1868(明治元)年とした。

2. 史料引用はできるだけ必要な部分にとどめ、その際も前略・後略は特別には記さなかった。また、読みやすく書き改めたところもある。漢文・和様漢文・和漢混淆文は、原則として読み下した。法令などの史料には、適宜、第何条にあたるかを示す数字をつけた。

3. 国名は、次のように表記する場合がある。〔日本：日　中国：中　韓国：韓　アメリカ：米　ロシア：露　イギリス：英　フランス：仏　ドイツ：独　オーストリア：墺　イタリア：伊　オランダ：蘭　ソヴィエト社会主義共和国連邦：ソ〕

くわしく みてみよう(2次元コード)

- 画像：一遍上人絵伝(巻7) …… 69／洛中洛外図屏風 …… 70／江戸図屏風 …… 122／富嶽三十六景 …… 160
- 動画：貝塚 …… 9／木簡 …… 36／鎌倉街道と切通 …… 73／安土城跡 …… 110／八幡製鉄所 …… 214／金本位制と管理通貨制度 …… 234
  (動画はすべて NHK for School のコンテンツです。)
- 現代語訳：掲載史料中の2次元コードから、現代語訳を表示することができます。

＊本書掲載の2次元コードからインターネットを使用した学習ができます。2次元コードの使用にあたって使用料はかかりませんが、通信料はかかります。インターネットを使用する際には、先生の許可を得たうえで使用してください。また、使用にあたっては個人情報の扱いに十分注意してください。

政治・外交と、経済・社会・文化で章を分け、**流れが分かりやすい構成**にしました。

「現代日本の課題の探究」では、**身近な具体例**を取り上げて、学習のまとめをおこないます。➡p.55

学習に便利な付録として、新たに「干支、時刻と方位、度量衡」を設けました。

高校日本史

要点をおさえた、わかりやすい教科書

歴史の流れを理解しやすくするため、**わかりやすい文章**を心がけ、
ふりがなも丁寧にふりました。
また、日本史探究で重視される、**時代の転換**を意識した記述をしています。

各章の導入には、**「章全体にわたる問い」**を設け、
時代の転換を探究するための方向性を示しました。

「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」それぞれ最初の章では、生徒が時代の転換を理解し、「時代を通観する問い」を立てるための指針となるよう、まとめの問いを工夫しました。

世界と関連した年表

部扉では、**世界史の動き**と関連付けながら、時代の大きな流れを捉えられる年表を掲載しました。

世界遺産：石見銀山遺跡とその文化的景観(島根県)
16世紀に石見銀山で銀が大増産されると、中国へ大量に流れこみ、東アジアは空前の交易ブームを迎えた。16世紀末にティセラがつくった「日本図」にも石見銀山がえがかれている(上)。下は日本銀「御取納丁銀」(長さ16cm)。(ともに島根県立古代出雲歴史博物館蔵)

第8章

近世の幕開け

世界やアジアの交易が活発になるなか、16世紀末には日本全国を統一しようとする天下人が出現した。政治や社会のあり方も変わり、近世という新しい時代が始まったとされている。新しい時代はどのように幕を開けたのだろうか。

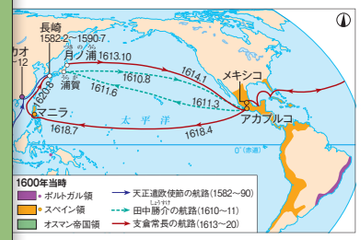
1 天下人の登場

近世への転換

16世紀なかば、ヨーロッパ人は海上航路を開いて拠点をつくり、アジアの交易ルートに参入して、日本に鉄砲やキリスト教を伝え、増産された日本の銀を求めた。国際的な交易が活発となり、外来の技術・思想にどう対応するかが、戦国大名(▶p.103)らに問われる時代となった。以後、有力な大名が領国の統合を急速に進め、16世紀末には豊臣秀吉(▶p.110)が全国を1つの政権のもとに統合した。秀吉は新しい支配の仕組みを築き上げると同時に、中国への侵攻を掲げて朝鮮侵略を強行し、明を中心とする東アジアの国際秩序を大きくゆるがすことになる。

銀の交易と鉄砲伝来

1530年代以降、**石見銀山**などで銀が大幅に増産された。中国の明は銀で税をおさめさせるようになっていたので、**日本産の銀**が大量に中国に流れこんだ。そのかわりに**中国産の生糸**などが日本にもたらされて、貿易が活発になった。ただし明は民間の貿易を認めていなかったので、取締りに対抗して武装した密貿易商人が活躍した❶。



1 16世紀の世界と日本人の往来 オスマン帝国領の広がりから、ヨーロッパ諸国は西へ目をむけた。天正遣欧使節(▶p.116)は喜望峰をまわり、支倉常長はメキシコから大西洋を横断して、ヨーロッパをめざした。

一方、ヨーロッパの南西の端にあるポルトガルは、15世紀になるとアフリカへの探検をすすめ、東南アジアの香辛料を求めて、15世紀末にはインドへの航路を開いた。スペインもアメリカ大陸から太平洋を横断してフィリピンへ進出した。ローマ教皇がひきいるカトリック教会も海外への布教をあと押しした。こうして、ヨーロッパを中心に世界の諸地域が広く交流する**大航海時代**が始まった❶。

ポルトガルはインドや東南アジアに拠点を築き、1540年代になると九州各地にたどりつくようになった。そして1543(天文11)年❷、中国商人の船に乗ったポルトガル人が九州南方の種子島に漂着し、**鉄砲**❷をもたらした。鉄砲は堺などで製造が始まり、戦国大名のあいだに急速に広まった。

❷種子島銃(長さ99.8cm。鹿児島県、種子島時邦蔵)

Topic 鉄砲の伝来と普及

鉄砲の伝来や生産、普及については不明な点が多い。当初、贈答品や外交の道具として使われた鉄砲だが、新兵器として認められるやいなや、戦国大名はその確保につとめた。刀鍛冶の高い技術が生かされ、伝来から半世紀のうちに全国に普及し、戦闘や築城の方法にも影響をおよぼした。ただし、当時の鉄砲は射程距離も短く、効果を過大に評価することは早計である。

❷前年の1542(天文10)年とする説もある。

キリスト教と南蛮貿易

1549(天文18)年、カトリック教会の改革派であるイエズス会の宣教師フラン[illegible]=ザビエル(1506~52)が、インドや東南アジアをへて、中国人商人の[illegible]島に来航し、**キリスト教**を伝えた❸。ザビエルのあとも宣[illegible]日して、多くの信者(キリシタン)を獲得した。とくに九州の[illegible]なかには貿易の利益を得るためにキリスト教に入信する者[illegible]タン大名)があらわれ、家臣や領民にもキリスト教が広まっ[illegible]

中国南部のマカオに進出していたポルトガル商人も中国[illegible]の貿易に乗り出し、やがて長崎へ来港し、中国産生糸と日本[illegible]どの売買を始めた。当時、彼らを南蛮人❸とよんだので、[illegible]を**南蛮貿易**という。

こうしてアジアの経済交流が活発になり、極東にある[illegible]

❸キリスト教の伝播 ザビエルは、鹿児島に来航したのち、上京したが、将軍との会見を果たすことはできず、山口に滞在後、日本を退去した。

ザビエル(神戸市立博物館蔵)

本文を補足する**「注」**は、必要な部分を簡潔に記しました。

❹南蛮屏風 南蛮人がカピタン(船長)を中心に南蛮寺にむかう場面。寺のなかには南蛮人と日本人の姿もみえる。(部分、南蛮文化館蔵)

読みとき 日本の古典の出版
ポルトガル系のローマ字で記述されている。表紙のローマ字が何と書いてあるか、どのような意味か、読み解いてみよう。

❺天草版「平家物語」(大英図書館蔵)

Topic 時代に翻弄された天正遣欧使節

4人の少年使節はローマ教皇に歓迎され、ヨーロッパの人びとに日本の存在を広く知らせた。活版印刷機などをたずさえて1590(天正18)年に帰国すると、禁教が強まっており、彼らを過酷な運命が待ち受けていた。伊東マンショは布教活動をするが拠点の小倉を追われ長崎で病死、千々石ミゲルは棄教し消息不明、原マルチノは国外追放、中浦ジュリアンは長崎で殉教した。

❻伊東マンショの肖像(イタリア、トリヴルツィオ財団蔵)

国際的な文化の交流

宣教師らによって天文・地理や医学、パン・カステラ・たばこなど❻、ヨーロッパの文物がもたらされた(南蛮文化)❺。

イエズス会のヴァリニャーノは、キリスト教の初等教育学校(セミナリオ)や高等教育学校(コレジオ)を何か所か設け、1582(天正10)年には、九州のキリシタン大名にゆかりのある少年たちをヨーロッパのローマ教皇のもとへ派遣した(**天正遣欧使節**)❻。また金属製の活字による活版印刷術も導入した。以後、キリスト教の書物が翻訳されたり、日本の古典や日本語辞書が出版されたりした(キリシタン版)❺。

❻ポルトガル語やスペイン語を由来とする外来語は、ほかにもカッパ・ボタン・メリヤス・テンプラ・カボチャ・カルタなどがある。

第8章まとめ
- 豊臣政権が築き上げた支配の仕組みは、どのような点で江戸時代に引きつがれてゆくのだろうか。武士・百姓・町人それぞれについて考えてみよう。
- 国際交流の進展や全国統一など、どのように時代が転換したのかに着目し、近世の特徴について、中世や近代とも比較して問いを表現してみよう。

116 第8章 近世の幕開け

各時代に関連の深い**世界遺産**の写真を取り上げ、解説を付しました。

各章の最後に、学習のまとめに最適な**「章のまとめの問い」**を配置しました。

高校日本史

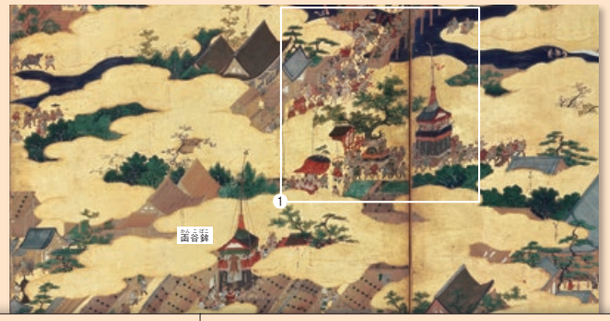
様々な史資料で、時代の特色を考察

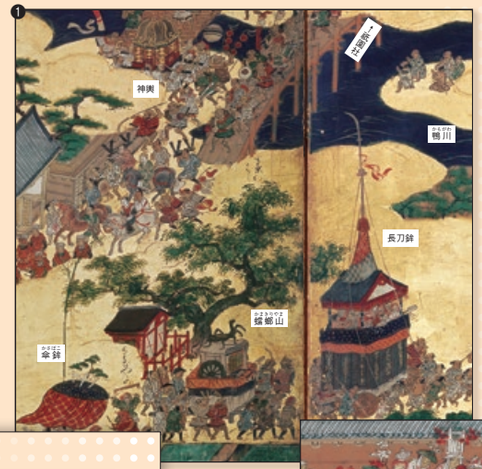
「歴史資料と原始・古代の展望」「歴史資料と中世の展望」「歴史資料と近世の展望」「歴史資料と近代・現代の展望」では、生徒が様々な**史資料**から情報を読み取り、**時代の特色**について考察することで、その後の学習に**見通しをもった授業**を展開できます。

『洛中洛外図屏風』3

16世紀の戦国時代になると、各地の戦国大名の求めに応じ、京都とその周辺をえがいた屏風絵が数多く制作された。3は、祇園祭の山鉾が、四条大路のつきあたりにある祇園社(八坂神社)へ巡行している場面である。

くわしくみてみよう　洛中洛外図屏風





Q 同じ京都をえがいた絵画なのに、前の絵1 2とは違って、3が屏風にえがかれているのはなぜだろうか。

絵画

3つの絵1～3にはいずれも都大路のにぎわいがえがかれている。つぎのような点に着目して、中世の特徴について仮説をたててみよう。

- 商工業の発達(見世棚、商人、祭りのようすなど)
- さまざまな集団(朝廷や武士、宗教や民衆の組織など)
- 建物や通りの施設(家、町並み、橋など)
- 絵画がえがかれた目的(製作者、題材など)

遺物

4 稲荷山古墳鉄剣の銘文「辛亥年…乎獲居臣…」(部分　国(文化庁保管)
埼玉県立さきたま史跡の博物館)

5 江田船山古墳鉄刀の銘文「典曹人名無利」(部分　東京国立博物館蔵)

6 江田船山古墳の副葬品
金銅製のくつと冠(東京国立博物館蔵)

7 岩戸山古墳の石人
(福岡県、八女市教育委員会蔵)

ヤマト政権・倭国や律令国家は、なぜそして何を求めて東アジアとの交流をすすめたのだろうか、仮説をたててみよう。また、中国や朝鮮半島との交流が、ヤマト政権や律令国家の展開に与えた影響にはどのようなものがあったのか、仮説をたててみよう。

Q 中国の歴史書とともに東アジアや列島の出土文字資料をみると、東アジアの歴史像が立体的にみえてくる。ヤマト政権にとって、中国・朝鮮半島諸国との交流は、列島内の地方豪族を勢力下におさめるうえで、どのように機能したのだろうか。

歴史資料と近代・現代の展望 1

議会と選挙権

近代の政治を考えるとき、基本になるのは議会である。ここでは、議会の成立、選挙権の拡大、民衆の抗議行動に関する資料を通して、議会のありかたの変化をたどり、その変化の理由について考察してみよう。

議会の成立

新政府がはじめて示した「国是」である五箇条の誓文は、「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」とした。これは幕末から、政権担当者だけではなく、すぐれた人びとが意見を出しあう「公議」によって政策を決定すべきと考えられるようになっていたことをふまえているが、会議をいかなる形で開くのかは明示されていなかった。

1873(明治6)年に、意見の対立から政府を去った江藤新平・板垣退助・後藤象二郎らが翌年に提出した民撰議院設立の建白書1には、「公議」をおこなうのは国民が選ぶ議員だ、という考え方がはっきりと示され、こののち国会の開設をおもな要求とする自由民権運動(▶p.186)がくり広げられる。

1889(明治22)年に出された大日本帝国憲法が、のちの時代からみれば政府の権限が大きすぎるにもかかわらず、民権派によっても歓迎されたのは、議会の開設を定めていたからである。

有権者の拡大

帝国議会の貴族院は皇族・華族や天皇が任命した議員で構成されたが、衆議院は、総選挙で選ばれる国民の代表者からなる「民撰議院」であった。総選挙の有権者は一定以上の税金をおさめる男性に限られたが、民撰議院設立の建白も租税をおさめるからこそ政府の活動を左右する権利があるという考え方を示していた。

その後、選挙権はしだいに拡大され、1925(大正14)年には満25歳以上の男性による普通選挙(▶p.211)が認められ、1945(昭和20)年には満20歳以上の男女に拡大された。以後、2015(平成27)年に18歳以上に拡大されるまで変更はなかった2。

Q どうして選挙権をもつ人の比率が拡大していったのだろうか。それぞれの時期ごとに説明してみよう。

文字史料

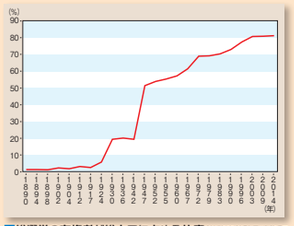
1 民撰議院設立の建白

臣等伏シテ方今政権ノ帰スル所ヲ察スルニ、上帝室ニ在ラズ、下人民ニ在ラズ、而シテ独リ有司ニ帰ス。……政令二端朝出暮改、政情実ニ成リ、賞罰愛憎ニ出ヅ、言路壅蔽ス困苦告ルナシ。……臣等愛国ノ情自ラ已ム能ハズ、乃チ之ヲ振救スル道ヲ請求スルニ、唯天下ノ公議ヲ張ルニ在ル而已。天下ノ公議ヲ張ルハ民撰議院ヲ立ルニ在ル而已。即チ有司ノ権限ヲ所アツテ而シテ上下其安全幸福ヲ受ル者アラン。謂フ遠ニ之ヲ隣ゼン。夫レ人民政府ニ対シテ租税ヲ払フノ義務アル者ハ、乃チ其政府ノ事ヲ与知可否スルノ権利ヲ有ス。

(『日新真事誌』)

❶現在　❷上奏の役人　❸言論発表の道がふさがれている。

現代語訳



2 総選挙の有権者が総人口に占める比率(総務庁統計局監修『日本長期統計総覧』より作成)

グラフ

写真

帝国議会から国会へ

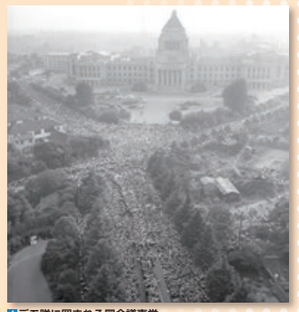
皇居の背後の高所から都心部を見下ろす絶好の位置にたつ国会議事堂は、1936(昭和11)年に帝国議会議事堂として竣工した。その位置は1920(大正9)年の着工時ではなく、帝国議会が開設される前から決められていた。ふさわしい建物がたてられるまでは、別の場所の木造の仮議院がもちいられていたのである。しかし、建物は同じでも、1946(昭和21)年の日本国憲法によって、法律や予算を「協賛」する帝国議会は国権の最高機関としての国会にかわり、貴族院も普通選挙によって議員が選ばれる参議院へと変化した。

Q なぜ、この時期に議事堂が建築されたのだろうか。

議会におしかけた民衆

議会に民衆がおしかけることは帝国議会時代からあった。1913(大正2)年2月には、陸軍大臣の辞表提出で退陣をよぎなくされた立憲政友会の西園寺公望にかわって桂太郎が3度目の首相となったが、衆議院に基盤がとぼしい桂に対し立憲政友会や立憲国民党は内閣不信任決議案を提出し、多くの人びとが議会におしかけた。当時は衆議院が内閣不信任案を可決しても首相が退陣する必要はなかったが、桂は議会を停会し、支持を拡大することが難しいと悟ると辞職した(大正政変、▶p.201)。この運動を第1次護憲運動という3。

1960(昭和35)年には日米相互協力及び安全保障条約(新安保条約)の批准に反対する人びとが、連日国会におしかけた(安保闘争、▶p.262)4。当時の首相岸信介は、両院で過半数を占めた自由民主党を背景としていたので、衆議院に警官隊を導入して野党議員の座り込みなどの反対をおさえ、批准を可決した。しかし、反対運動はおさまらず、国会議事堂周辺では死者も生じ、岸首相は批准の成立後に辞職した。



4 デモ隊に囲まれる国会議事堂

3 第1次護憲運動　帝国議会におしかけた人びと。木造の仮議院であった。

どうして、選挙による議会がありながら、人びとが議会におしかけたのだろうか。戦前と戦後を比較しながら、それぞれ理由を説明してみよう。また、どのような人びとが議会に何を期待したかに注目して、近代・現代の政治の流れについて自分なりの仮説を表現してみよう。

高校日本史

興味・関心を高めるための、豊富な史資料

2次元コードから、**現代語訳**・**動画**・**拡大画像**が参照できるようになりました。生徒の学習意欲を高めます。

現代語訳

文字史料に付した2次元コードから、現代語訳を参照することができます。史料に苦手意識を持つ生徒の理解を助け、自発的な学習を促します。

大仏造立の詔

（聖武天皇は）詔(みことのり)の中でつぎのように述べられた。「……天平15年10月15日をもって、人びとを救済しようという仏弟子としての願いをおこして、盧舎那仏(るしゃなぶつ)の金銅像1体をつくることにした。……天下の富をもつ者は私であり、天下の勢いをもつ者も私である。この富と勢いをもって仏の尊像をつくる。……」

（『続日本紀』）

1「長屋親王」の文字がみえる木簡
平城京左京の長屋王邸の遺跡から出土した、王家への貢納品につけられた荷札。（長さ21.4cm。奈良文化財研究所蔵）

くわしくみてみよう　木簡

Topic　木簡
木簡は細長い木札に墨で文字を記したもので、古代には、紙と使いわけて、文書や調庸の荷札など、さまざまな用途でもちいられた。その時に書かれた同時代史料であり、木簡の内容から新しい史実が確かめられることも多い。平城京跡の長屋王家木簡2からは、王家の生活や家政運営、家内で働く人びとの実態などが、明らかになった。

7国分寺建立の詔
詔して曰く、「……宜しく天下諸国をして各一部の敬みて七重塔一区を造り、并せて金光明最勝王経・妙法蓮華経各一部を写さしむべし。……僧寺には必ず十僧有らしめ、其の寺の名を金光明四天王護国之寺❶と為し、尼寺には一十尼ありて、其の寺の名を法華滅罪之寺❷と為し、両寺相共に宜しく教戒❸を受くべし。……」と。
（『続日本紀』）
❶国分寺。❷国分尼寺。❸教え。
現代語訳

8大仏造立の詔
詔して曰く、「……粤に天平十五年歳次癸未十月十五日を以て、菩薩の大願❶を発して盧舎那仏❷の金銅像一軀を造り奉る。……夫れ天下の富を有つ者は朕なり。天下の勢を有つ者も朕なり。この富勢を以てこの尊像を造る。……」と。
（『続日本紀』）
❶仏教を興隆し、衆生を救おうという願い。❷華厳経の本尊。仏(ほとけ)は大いなる者の意。あまねく照らす仏。
現代語訳

武家政権の成立

12世紀末の争乱のなか、源頼朝は武士の力を集めて、最初の本格的な武家政権である鎌倉幕府を打ちたてた。幕府は全国的な政権に成長していくが、武家政権の成立・成長によって、政治や社会における武士の地位や立場はどのように変化したのだろうか。

1 鎌倉幕府の成立と展開

源平の争乱

1180(治承4)年、後白河法皇の皇子以仁王と畿内に基盤をもつ源氏1の源頼政は平氏打倒の兵をあげ、挙兵をよびかける以仁王の命令が諸国の武士に伝えられた。この挙兵は失敗に終わったが、これをきっかけに、伊豆の**源頼朝**2、木曽の**源義仲**ら各地の武士団が蜂起し❶、5年におよぶ源平の争乱2が始まった。

平氏は、平清盛の死に続いて西国一帯に広がった大飢饉で打撃をうけ、1183(寿永2)年、義仲の軍に敗北して西国へ逃れた。後白河法皇とむすんだ源頼朝は、ここのち法皇から東海道・東山道の東国支配権を手に入れると、弟の**義経**らを都へむかわせて義仲を討った。ついで義経らは平氏と戦い、摂津の一の谷、讃岐の屋島の合戦をへて、1185(文治元)年、長門の**壇の浦**で平氏をほろぼした。

平氏の滅亡後、後白河法皇は義経に頼朝追討の命令をくだしたが失敗した。この機会をとらえて頼朝は法皇にせまって、逆に義経追討の命令を得た。さらに頼朝は、義経をかくまっていた奥州藤原氏をほろぼそうと、朝廷に追討の命令をくだすよう要求した。しかし、法皇がこれに応じなかったため、1189(文治5)年、頼朝は朝廷の命令を待たずに、みずから大軍をひきいて奥州藤原氏をほろぼした。ここに頼朝は全国を平定し、後白河法皇没後の1192(建久3)年に、**征夷大将軍**に任じられた。

❶このとき、平氏は都を大輪田泊に近い摂津の福原(現在の神戸市)に移したが、貴族や寺院がこの遷都に反対したため、半年で都を京都にもどす結果となった。

幕府の誕生

源頼朝は、東国に武家政権を打ちたてるため相模の**鎌倉**3・4に本拠地をかまえ、平氏と戦いながら、**侍所**・**公文所**(のち**政所**と改称)・**問注所**など、支配のしくみ5をととのえていった❷。1185(文治元)年に平氏が滅亡した後には、逃亡中の義経をさがし出すことを口実に、朝廷から諸国に**守護**・**地頭**を任命する権限を得た。この守護・地頭は、幕府が地方支配をすすめるうえで大きな役割を果たした。

守護は国ごとにおかれたが、その職務は京都大番役❸を御家人につとめさせること(大番催促)と謀叛人・殺害人の逮捕で、これを大

1清和源氏略系図(2) p.57
数字は将軍就任の順

2源氏・平氏の勢力関係図　1183(寿永2)年、源義仲は北陸から畿内へ進出し、源頼朝は東海道などをおさえ、平氏は南海・西海地方を中心に支配下においた。争乱の動きのなかで、3者がたがいに対立する形へとすすんでいった。

10三世一身法
太政官奏❶すらく、「頃者百姓、漸く多くして、田池窄狭❷なり。望み請ふらくは、天下に勧め課せて、田畦を開墾かしめん。其の新たに溝池を造り、開墾を営む者らは、多少を限らず、給ひて三世❸に伝へしめん。若し旧き溝池を逐はば❹、其の一身に給せん」と。
（『続日本紀』）
❶太政官が天皇に上申する書。❷せまい。❸本人・子・孫の三代とする説もある。❹既設の溝や池を利用して開墾した場合には。
現代語訳

11墾田永年私財法
詔して曰く、「聞くならく、墾田は養老七年の格❶に依りて、限満つる後、例に依り収授す。是に由りて農夫怠惰して、開ける地復た荒る、と。今より以後、任に❷私財と為し、三世一身を論ずること無く、咸悉くに永年取る莫れ。……」と。
（『続日本紀』）
❶三世一身法をさす。❷意のままに。
現代語訳

読みとき　武家の都、鎌倉
鎌倉と平安京(▶p.42 B3)とを比べ、共通点と違いを説明してみよう。

3鎌倉要図　鎌倉は源頼義以来、源氏とゆかりが深い地で、三方を山に囲まれ、通行は切通で制御された。南は海にのぞむ要害の地であった。和賀江島は港湾施設としてつくられた人工島。

4空からみた鎌倉　鶴岡八幡宮から海にのびる道(若宮大路)が中軸となっている。(鎌倉市)

くわしくみてみよう　鎌倉街道と切通

5伝源頼朝像　貴族の正装である束帯姿の人物像。源頼朝像と伝えられ、似絵(▶p.84)の代表作。(京都府・神護寺蔵)

3鎌倉幕府初期の機構

Q　鎌倉幕府の勢力はどのようにして全国に広がっていったのだろうか。

❷侍所の長官(別当)には東国御家人の和田義盛が任じられたが、公文所の長官は大江広元、問注所の長官は三善康信で、ともに貴族出身であった。

❸御家人の義務で、数か月間上京して天皇や院の御所の警備を担当した。

Topic
天智天皇の…立された。…はその子他…もあり、…り、称徳天…

する者も多くな…足し、それに対応…府は土地の制度…

政府は耕地を…のもとで百万町…墾723(養老7)年…新しく灌漑施設…人・子・孫)にわ…利用した開墾地に…限つきで土地の私…

さらに743(天平…よって開墾でき…るにいたった。…がおよぶように…広がる原因とも…貴族や寺院など…荘園とよぶ。初期…景とし、国司・郡司の地方統治のしくみを利用してつくられたもの…で、郡司の力が弱まると衰えていった。

娘の光明子を**聖武天皇**の皇后にたてることに成功した。これは皇族出身ではない皇后の最初の例となった。

ところが、藤原4兄弟はあいついで疫病で倒れ、その後は、皇族出身の**橘諸兄**が政権をにぎり、唐から帰国した**玄昉**や**吉備真備**が活躍した。これに反発した藤原広嗣は、九州で乱をおこしたが敗死した(藤原広嗣の乱)。

疫病の流行や政情不安のなかで、聖武天皇は恭仁・難波・紫香楽と都を移し、この間の741(天平13)年に**国分寺建立の詔**7、743(天平15)年には**大仏造立の詔**8を出し、仏教の力により国家がまもられ安定するよう願った。東大寺大仏はこうした背景のもとで造立され、752(天平勝宝4)年、孝謙天皇のときに、大仏開眼の儀式がおこなわれた。

孝謙天皇の時代には、**藤原仲麻呂**が光明皇太后と結んで勢力をのばし、淳仁天皇を即位させると、恵美押勝の名をたまわり、権力を独占した。しかし、孝謙太上天皇❶(のちの称徳天皇)が僧**道鏡**を寵愛して淳仁天皇と対立すると、仲麻呂はそれに対抗して挙兵したが敗死した(恵美押勝の乱)。道鏡は法王の称号をうけて権勢をふるったが、称徳天皇が亡くなると、藤原氏などの貴族は道鏡を追放し、あらたに天智天皇の孫の光仁天皇をたて、混乱した政治の再建につとめることになった❷。

新しい土地政策

自然災害や天候不順に影響されて飢饉もおこりやすく、律令にもとづく支配は、社会の動揺を招いた。農民のなかには、重い負担をのがれるために浮浪や逃亡

❶太上天皇は譲位した天皇の称。略して上皇ともいう。奈良時代には、譲位後の太上天皇も天皇在位時と同じような権力や権威をもった。

読みとき

史資料をもとに、解釈したり、説明したり、論述したりする力をつけられるよう、**発展的な問い**として「読みとき」を設けました。
（解答例は、教師用指導書・準拠ノートで扱っています）

動画・拡大画像

本文の内容に関連する**動画**や、細部を確認するための**拡大画像**などを参照できる2次元コードで、生徒の興味・関心を高めます。

Q問い

本文を読む際の着眼点となる「Q(問い)」を設けました。
学習の要点を捉えやすくするとともに、考察を促します。
（解答例は、教師用指導書で扱っています）

Topic

生徒の興味をひきだすため、本文では取り上げなかった人物や事件などのエピソードを紹介する**75点の「Topic」**を設けました。
（例　「正倉院宝物の国際性」「お茶の効用を認めた源実朝」「漂流民の国際交流」「ペリーのプレゼント」など）

視覚的なイメージを持てる豊富な図版

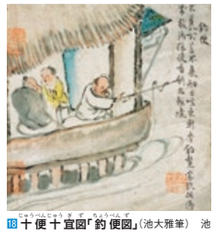
約720点の豊富な図版を掲載しました。
さらに、判型を大きくしたことで（A5→B5判）、図版も見やすくなりました。

14 **雨夜の宮詣**（鈴木春信筆）　風雨の夜、破れ傘をさし、小田原提灯をもって社へ急ぐ娘の姿をえがく。（東京国立博物館蔵）

15 **ボッピンを吹く女**（喜多川歌麿筆）　ガラス製の笛（ボッピン）を吹く、町屋の娘をえがく。『婦女人相十品』の1枚。（東京国立博物館蔵）

16 **三代目大谷鬼次の奴江戸兵衛**（東洲斎写楽筆）　歌舞伎『恋女房染分手綱』のひとこま。金をうばおうと揉みかかる奴（武家奉公人）の形相をえがく。（東京国立博物館蔵）

17 **西洋婦人図**（平賀源内筆）　日本の西洋画の先駆の作品。長崎に渡来した絵を、油絵具を工夫して模写したもの。（縦41.4cm、横30.5cm。神戸市立博物館蔵）



18 **十便十宜図「釣便図」**（池大雅筆）　池大雅・与謝蕪村の合作になる画集の1枚。（縦・横各17.7cm。川端康成記念会蔵）

られ、幕臣の大田南畝（蜀山人）らが活躍した。演劇では、18世紀後半から、人形浄瑠璃にかわって、江戸を中心に歌舞伎が人気を集めた。▶p.144

絵画では、18世紀なかばに**鈴木春信**14が**錦絵**とよばれる多色刷の版画を完成させ、浮世絵の黄金時代をむかえた。題材は美人・役者・相撲・花鳥などさまざまで、寛政期（1789～1801年）には美人画の**喜多川歌麿**15や、大首絵の手法をもちいて役者絵をえがいた**東洲斎写楽**16らが、すぐれた作品を生み出した。

伝統的な絵画では、**円山応挙**18が写実を重んじ、近代日本画の源流となった。また、明・清の南画から影響をうけた**文人画**7 18が、池大雅・与謝蕪村らによって大成され、知識人に好まれた。写生画や文人画には西洋画の技法が取りこまれ、司馬江漢が平賀源内17に学んで銅版画を始めた。▶p.150

7 専門の画家ではない文人・学者がえがいた絵をいう。

読みくらべ　新しい様式の写生画
伝統的な写生画・風景画とくらべて、どのようなところが異なるか説明してみよう。

19 **「雪松図屏風」**（円山応挙筆）（右隻、六曲一双、各縦155.5cm、横362.0cm。三井記念美術館蔵）

2 江戸幕府の衰退

寛政の改革

天明の打ちこわしの直後、11代将軍徳川家斉（1773～1841）の補佐として老中になったのは、白河藩主**松平定信**1（1758～1829）である❶。定信は田沼時代の政治を改め、吉宗の政治を理想として幕政改革にとりくんだ。これを**寛政の改革**とよぶ。▶p.149

定信の施策の第1は農村を復興させることで、江戸に出稼ぎなどで一時的に居住する者には帰農をすすめた（**旧里帰農令**）。さらに、百姓らに荒れた耕地を耕作できる田地にもどすための資金を貸した。また、飢饉にそなえて各地に社倉・義倉をつくらせて、米穀をたくわえさせた（**囲米**）。

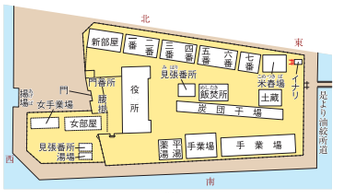
第2は都市対策で、まず物価の引下げに乗り出し、倹約令を出して支出をおさえた。旗本・御家人を救済するためには、6年以上前の借金を帳消しにするという**棄捐令**を出して、金融業者である札差に貸金を放棄させた。住居をもたない無宿人対策としては、石川島に**人足寄場**2を設けて、収容した者に技術を身につけさせ職業につかせようとした。また、江戸の町人たちに町費を節約させ、節約分の7割を積立てさせ（**七分積金**）、それを基金として運用し、飢饉や災害時の貧民を救済するために米穀をたくわえさせた。

一方、定信は思想をきびしくとりしまり、湯島聖堂の幕府学問所では朱子学以外の講義・研究を禁じて（**寛政異学の禁**）、朱子学を幕府の官学と定めた。また、**林子平**（1738～93）が『海国兵談』3などで海防の必要▶p.142

❶ 定信は、8代将軍徳川吉宗（▶p.147）の次男である田安宗武の子で、白河藩へ養子に出されていた。

1 **松平定信**　29歳ころの自画像。（三重県、鎮国守国神社蔵）

Q 寛政の改革は、どのような課題に対して、どのような政策がおこなわれたのだろうか。



2 **人足寄場**　役人のつめる役所や番所があるほかに、男女の無宿人の生活する場所（風呂など）が設けられていた。無宿人たちは炭団・粉炭（石炭）の製造や油絞りのほか、紙漉・鍛冶・大工・左官・髪結などの手業を身につけた。（『大日本近世史料　市中取締類集27』より作成）

3 海防論

当世の俗習❶にて、異国船の入津❷ハ長崎に限たる事にて、別の浦え船を寄ル事ハ決して成らざる事ト思ヒり。……当時❸長崎に厳重に石火矢❹の備有て、却て安房・相模の海港に其備なし。此事、甚た不審。細カに思へば江戸の日本飯より唐❺、阿蘭陀迄境なしの水路也。然ルを此に備へずして長崎のミ備ルは何そや。（『海国兵談』）

❶世間一般の習慣　❷入港　❸現在　❹大砲のこと　❺中国のこと
で、当時は清国。

現代語訳

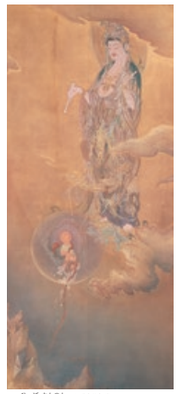
代化・大衆化の動きとなっていった。

美術では、文明開化の風潮のなかで、伝統的な日本画や木彫などが一時かえりみられなくなったが、ヨーロッパで日本画が高い評価をうけ、また、1880年代に国粋主義が勢いを得ると、伝統美術を復興する動きがおこった。とくにアメリカ人の**フェノロサ**や**岡倉天心**（1862～1913）の活動はめざましく、天心は**東京美術学校**（現在の東京芸術大学美術学部）の設立

Topic　夏目漱石の文明観

漱石は「現代日本の開化」という講演で、西洋の開化は内発的だが、明治日本の開化は外発的であらざるをえなかった、と指摘している。日本の開化を「皮相上滑りの開化」と批判するものの、列強から国を守るためには、よくないとわかっていてもこのまま上滑りに滑っていくしかない、と悲愴な決意を述べている。

10 **夏目漱石**（日本近代文学館蔵）



12 **悲母観音**（狩野芳崖筆）　狩野派の伝統技法に西洋画の技法を取り入れた作品。フェノロサや岡倉天心から期待された芳崖の代表作。（縦195.8cm、横86.1cm。東京藝術大学蔵）

13 **竜虎図**（橋本雅邦筆）　1895（明治28）年の内国勧業博覧会に出品した雅邦の代表的な屏風絵。竜にむかって眼を怒らして吼える虎をえがいた部分。六曲一双。（左隻、部分、静嘉堂文庫美術館蔵）

15 **湖畔**（黒田清輝筆）　1897（明治30）年第2回白馬会に出品。清輝はパリに学び、明るい色調で「外光派」の指導者となった。モデルは清輝の夫人。（縦69.0cm、横84.7cm。東京国立博物館蔵）

14 **黒き猫**（菱田春草筆）　柏の幹にすわり、何かに緊張している黒猫をえがく。（部分、永青文庫蔵）

17 **鮭**（高橋由一筆）　幕末から洋画を学んで西洋画の開拓者となった由一は、工部美術学校教師として来日した外国人と交流して腕を磨いた。（縦140.0cm、横46.5cm。東京藝術大学蔵）

16 **海の幸**（青木繁筆）　1904（明治37）年白馬会に出品。房州布良で得たモチーフで、大漁の獲物をかつぐ漁師の群れをリズミカルな構図、力強いデッサンと褐色の色調でえがく。（縦70.2cm、横182.0cm。石橋財団アーティゾン美術館蔵）

につとめ、日本画を復興した。岡倉天心はその後、日本美術院をつくり、新しい日本画の創造につとめた12～14。

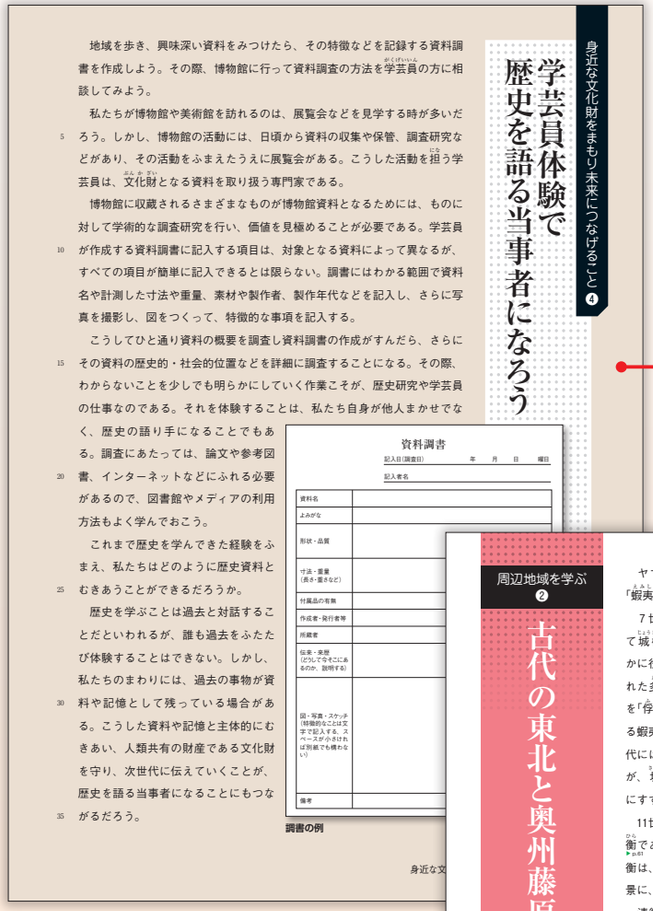
西洋画は、まず明治初期に工部美術学校で外国人教師が教えていたが17、明治中期に、フランスに留学し印象派の画風をもたらした黒田清輝15らの活動によってさかんとなった16。彫刻の分野では、

文化史は、特集ページとせずに、**本文と関連付けて**レイアウトしました。
代表的な文化財の写真を大きく、豊富に掲載し、解説を付しました。

図版を比較したり、情報を読みとったりしながら、思考力を高める基礎を身につけます。
共通テスト対策にも、役立ちます。

様々な観点を提供する特集ページ

生徒の興味や関心を引きだす**特集ページ**を設け、主体的に学習に取り組めるよう工夫しています。



身近な文化財をまもり未来につなげること ④

学芸員体験で歴史を語る当事者になろう

地域を歩き、興味深い資料をみつけたら、その特徴などを記録する資料調書を作成しよう。その際、博物館に行って資料調査の方法を学芸員の方に相談してみよう。

私たちが博物館や美術館を訪れるのは、展覧会などを見学する時が多いだろう。しかし、博物館の活動には、日頃から資料の収集や保管、調査研究などがあり、その活動をふまえたうえに展覧会がある。こうした活動を担う学芸員は、文化財となる資料を取り扱う専門家である。

博物館に収蔵されるさまざまなものが博物館資料となるためには、ものに対して学術的な調査研究を行い、価値を見極めることが必要である。学芸員が作成する資料調書に記入する項目は、対象となる資料によって異なるが、すべての項目が簡単に記入できるとは限らない。調書にはわかる範囲で資料名や計測した寸法や重量、素材や製作者、製作年代などを記入し、さらに写真を撮影し、図をつくって、特徴的な事項を記入する。

こうしてひと通り資料の概要を調査し資料調書の作成がすんだら、さらにその資料の歴史的・社会的位置などを詳細に調査することになる。その際、わからないことを少しでも明らかにしていく作業こそが、歴史研究や学芸員の仕事なのである。それを体験することは、私たち自身が他人まかせでなく、歴史の語り手になることでもある。調査にあたっては、論文や参考図書、インターネットなどにふれる必要があるので、図書館やメディアの利用方法もよく学んでおこう。

これまで歴史を学んできた経験をふまえ、私たちはどのように歴史資料とむきあうことができるだろうか。

歴史を学ぶことは過去と対話することだといわれるが、誰も過去をふたたび体験することはできない。しかし、私たちのまわりには、過去の事物が資料や記憶として残っている場合がある。こうした資料や記憶と主体的にむきあい、人類共有の財産である文化財を守り、次世代に伝えていくことが、歴史を語る当事者になることにもつながるだろう。

資料調書

記入日(調査日)　年　月　日　曜日

記入者名

資料名	
よみがな	
形状・品質	
寸法・重量(長さ・重さなど)	
付属品の有無	
作成者・発行者等	
所蔵者	
伝来・来歴(どうして今そこにあるのか、説明する)	
図・写真・スケッチ(特徴的なことは文字で記入する。スペースが小さければ別紙でも構わない)	
備考	

調書の例

身近な文

文化財

「身近な文化財をまもり未来につなげること」では、**文化財**について、様々な観点から、文化財保護への理解を深めます。

周辺地域を学ぶ ②

古代の東北と奥州藤原氏

ヤマト政権の支配がおよばない東北地方の人びとは、中央の政権から「蝦夷」とよばれ、異民族のようにあつかわれることもあった。

7世紀なかば以降、中央政府はたびたび東北地方に軍を送り、根拠地として城柵を設け、支配を浸透させていった。城柵は、政府を中心に外郭のなかに役所群・倉庫群をおくもので、8世紀には、陸奥国の国府としてつくられた多賀城のもとで、各地域の行政の拠点となった。政府は帰順する蝦夷を「俘囚」とよんで優遇し、その一部を諸国に移して組織する一方、反抗する蝦夷は武力でおさえつけたので、しばしば戦いがおこった。桓武天皇の時代には、北上川中流域の族長阿弓流為が政府軍を大敗させる事件がおこったが、坂上田村麻呂の活躍もあり、中央政府による東北地方の支配はしだいにすすんだ。

11世紀末、東北地方に独自の支配権をもって勢力をのばしたのが藤原清衡であった。後三年合戦後、陸奥・出羽の「俘囚の長」の地位を継承した清衡は、金や馬などの奥州の特産品や北方との交易によってえた経済力を背景に、朝廷や摂関家と良好な関係を結び、その地位を認めさせた。

清衡は白河関から津軽外ヶ浜までを支配下におき、その中間にあたる平泉に居館をかまえ、壮大な中尊寺をたてた。平泉には仏教美術や建築などの都の文化がもたらされ、中国産のすぐれた陶磁器や経典、東海地方産のやきものなども集まってきた。中尊寺金色堂内陣の螺鈿の装飾には、南島産の夜光貝がふんだんに使われている。

藤原清衡によって確立された奥州藤原氏の政治権力は、清衡の子基衡、孫の秀衡と3代100年にわたって継承されたが、12世紀末、4代目泰衡のとき、源頼朝に攻めほろぼされた。

中尊寺金色堂内陣(岩手県)

奥州藤原氏の勢力圏

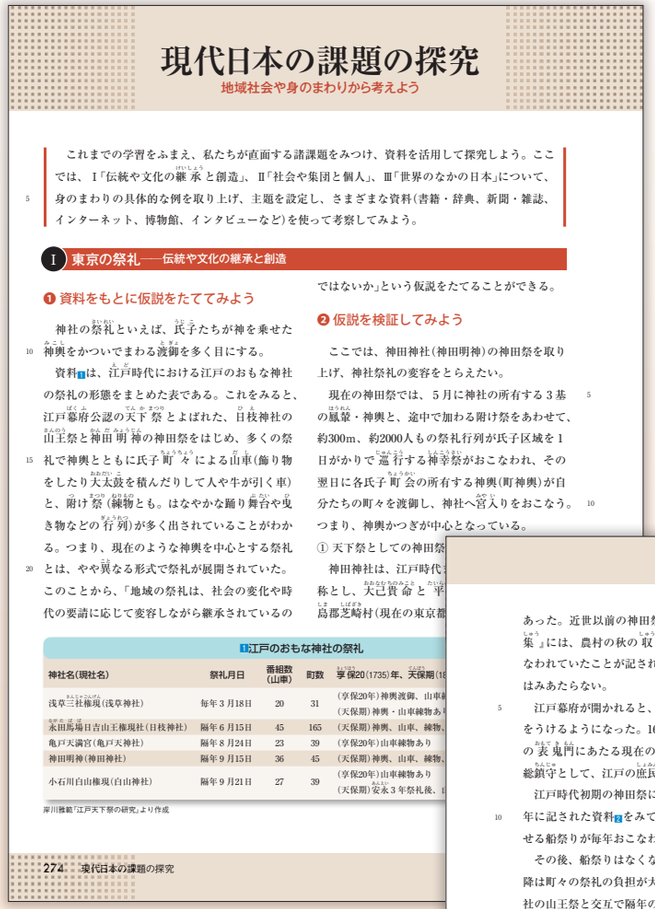
58　周辺地域を学ぶ

周辺地域

「周辺地域を学ぶ」では、「古代の南九州―隼人―」「古代の東北と奥州藤原氏」「琉球王国」「アイヌと和人」の特色ある4地域を取り上げ、**列島の多様性**に目を向けます。

現代日本の課題の探究

日本史探究のまとめでおこなう「現代日本の課題の探究」の例として、生徒にとって**身近な例を主題に取り上げ**、「伝統や文化の継承と創造」などの課題を扱います。



現代日本の課題の探究

地域社会や身のまわりから考えよう

これまでの学習をふまえ、私たちが直面する諸課題をみつけ、資料を活用して探究しよう。ここでは、Ⅰ「伝統や文化の継承と創造」、Ⅱ「社会や集団と個人」、Ⅲ「世界のなかの日本」について、身のまわりの具体的な例を取り上げ、主題を設定し、さまざまな資料(書籍・辞典、新聞・雑誌、インターネット、博物館、インタビューなど)を使って考察してみよう。

Ⅰ 東京の祭礼――伝統や文化の継承と創造

❶ 資料をもとに仮説をたててみよう

神社の祭礼といえば、氏子たちが神を乗せた神輿をかついでまわる渡御を多く目にする。

資料1は、江戸時代における江戸のおもな神社の祭礼の形態をまとめた表である。これをみると、江戸幕府公認の天下祭とよばれた、日枝神社の山王祭と神田明神の神田祭をはじめ、多くの祭礼で神輿とともに氏子町々による山車(飾り物をしたり大太鼓を積んだりして人や牛が引く車)と、附け祭(練物とも。はなやかな踊り舞台や曳き物などの行列)が多く出されていることがわかる。つまり、現在のような神輿を中心とする祭礼とは、やや異なる形式で祭礼が展開されていた。このことから、「地域の祭礼は、社会の変化や時代の要請に応じて変容しながら継承されているのではないか」という仮説をたてることができる。

❷ 仮説を検証してみよう

ここでは、神田神社(神田明神)の神田祭を取り上げ、神社祭礼の変容をとらえたい。

現在の神田祭では、5月に神社の所有する3基の鳳輦・神輿と、途中で加わる附け祭をあわせて、約300m、約2000人もの祭礼行列が氏子区域を1日がかりで巡行する神幸祭がおこなわれ、その翌日に各氏子町会の所有する神輿(町神輿)が自分たちの町々を渡御し、神社へ宮入りをおこなう。つまり、神輿かつぎが中心となっている。

① 天下祭としての神田祭

神田神社は、江戸時代に[illegible]称とし、大己貴命と[illegible]島郡芝崎村(現在の東京都[illegible]

1 江戸のおもな神社の祭礼

神社名(現社名)	祭礼月日	番組数(山車)	町数	享保20(1735)年、天保期(18[illegible]
浅草三社権現(浅草神社)	毎年3月18日	20	31	(享保20年)神興渡御、山車[illegible] (天保期)神興・山車練物あ[illegible]
永田馬場日吉山王権現社(日枝神社)	隔年6月15日	45	165	(天保期)神興、山車、練物[illegible]
亀戸天満宮(亀戸天神社)	隔年8月24日	23	39	(享保20年)山車練物あり
神田明神(神田神社)	隔年9月15日	36	45	(天保期)神興、山車、練物[illegible]
小石川白山権現(白山神社)	隔年9月21日	27	39	(享保20年)山車練物あり (天保期)安永3年祭礼後、[illegible]

岸川雅範「江戸天下祭の研究」より作成

274　現代日本の課題の探究

あった。近世以前の神田祭について記した『落穂集』には、農村の秋の収穫祭に近い祭礼がおこなわれていたことが記されており、祭礼行列などはみあたらない。

江戸幕府が開かれると、神田明神は幕府の保護をうけるようになった。1616(元和2)年に江戸城の表鬼門にあたる現在の湯島へ移され、江戸の総鎮守として、江戸の庶民からも崇敬された。

江戸時代初期の神田祭について、1793(寛政5)年に記された資料2をみてみると、神輿を船に乗せる船祭りが毎年おこなわれていたことがわかる。

その後、船祭りはなくなり、1681(天和元)年以降は町々の祭礼の負担が大きいことから、日枝神社の山王祭と交互で隔年の開催となった。

1688(元禄元)年には祭礼行列がはじめて江戸城内に入ることとなった。神輿をはじめ、資料3のような氏子町々より出された山車や、資料4のような附け祭、幕府が一部費用を負担した出し物行列や余興など、大規模な祭礼行列を、将軍から奥女中までが上覧所から見物した。

以後180年ものあいだ、三大改革による倹約を目的とした行列の規制、幕府や町々の財政状況などにより、姿をかえながら、ほぼ2年に1度、定期的におこなわれてきた。1867(慶応3)年は神輿のみの行列で、翌年に幕府は滅亡し、天下祭としての神田祭は終わった。

② 神田祭の近代化

明治時代を迎え、神田祭は東京の氏神祭礼へと変化していくことになる。まず、1868(明治元)年、神田明神は神田神社に社名を改めた。そして、かつて朝敵だった平将門を祭神からはずすべきであるという議論がおこり、将門は別殿に移される

2 近世初期の神田祭

祭礼は徳川家康が関東に入府されたころまでは、毎年船祭りであった。竹橋から船に神輿を乗せて、小船町の神田屋庄右衛門という者の家の前から神輿が陸に上り、練り歩いた。

(大田南畝『異本武江後砂』「神田神社神山縁書」、一部要約)

3 氏子町々の山車のようす(歌川芳員「神田祭出しづくし」、1859(安政6)年、江戸東京博物館蔵)

4 附け祭(変き物)　大江山鼠陣の鬼の首。(『神田明神祭礼図巻』、部分、江戸時代後期、神田神社蔵)

地域社会や身のまわりから考えよう　275

トータルサポート

2023年春までに刊行予定の『高校日本史』関連教材です。
授業準備からテスト・評価まで、豊富な教材で日本史探究を
トータルサポートいたします。

紙教材
指導書付属データ集
デジタル教材
採用特典

約10,000点の地歴コンテンツを配信
Webの社会科準備室
山川＆二宮ICT
ライブラリ

授業準備・授業

指導者

授業準備に
教師用指導書
授業実践編
➡p.58

指導者用指導書 授業実践編 付属データ集 ➡p.32

地図・図表
JPEG

授業用スライド
PPT

白地図集
JPEG

高校日本史ノート
Word、PDF

教科書本文・注・
史料テキスト
Word

授業準備に
教師用指導書
研究編
➡p.31

採用特典
高校日本史
ノート
Word、PDF

地図アプリやQ&Aも
指導者用
デジタル教科書
➡p.90

テスト・評価

準拠テスト例
Word

準拠テスト対応
ルーブリック
（評価規準表）

年間指導計画
評価規準例
Excel

定番のサポート教材

用語解説の決定版
日本史用語集
（現行課程版）
※新課程版は23年12月
刊行予定

スマホでも簡単検索
日本史用語集
アプリ付き
（現行課程版）

充実した史資料
ビジュアル版
日本史図録

知識の確認
一問一答日本史
（第３版）
※新課程版は24年春
刊行予定

採用特典
一問一答日本史
（第３版）
電子版

予習・授業

学習者

授業をノートで整理
高校日本史
ノート
➡p.62

指導書付属データ集
授業用
スライド対応
ワークシート
Word

文具機能も充実
学習者用
デジタル教科書
➡p.92

テスト対策・復習

試験によくでる
新よくでる
一問一答日本史
※新課程版は24年秋
刊行予定

スマホでも一問一答
新よくでる
一問一答日本史
アプリ版

教師用指導書　授業実践編　日探706準拠

B5判・300頁（予定）・2色刷・付属データ集DVD-ROM付

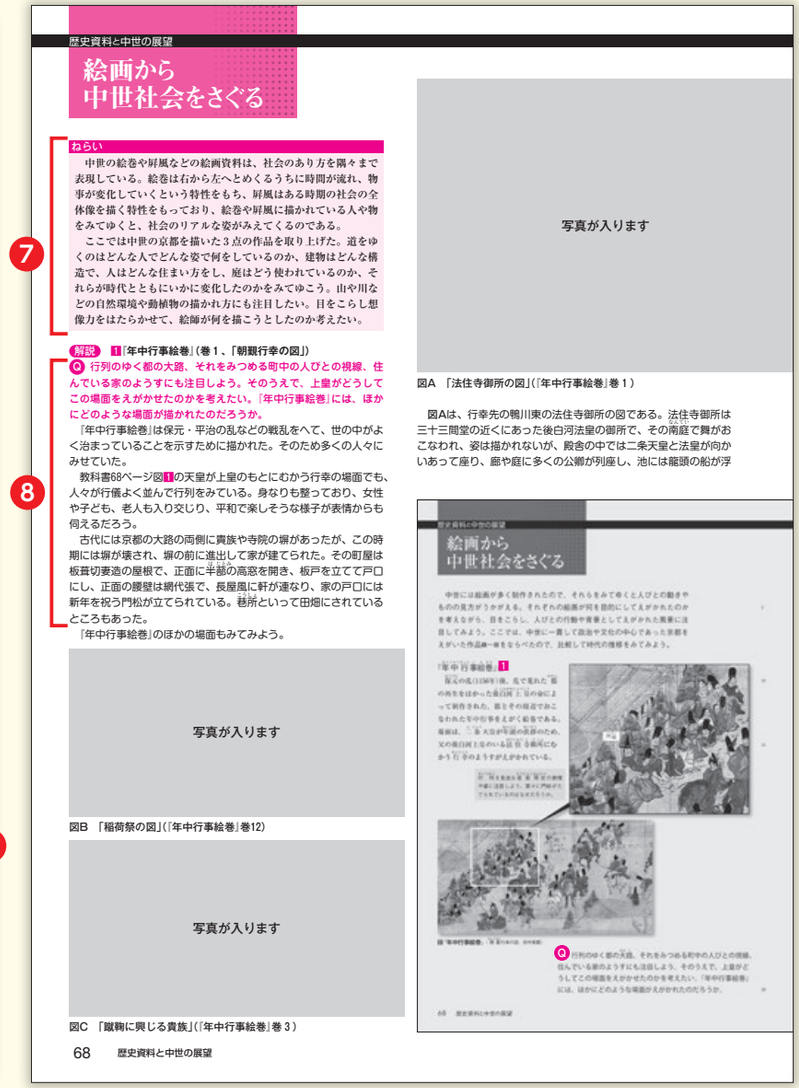
『高校日本史』を使った授業実践にご活用いただける材料を盛り込みました。

＊教師用指導書研究編（日本史探究教科書共通）もあわせてご検討ください ➜p.31 。

❶**学習の目標**　**小見出しごと**に、学習の柱となるポイントをまとめて示しました。
❷**解説**　特におさえておきたい重要な記述を解説しています。板書例・本文との対応は英字で示しています。
❸**史料・図版**　教科書に掲載の史料・図版について、**授業に役立つ解説**しています。
❹**問いの解答例**　教科書の**「読みとき」「Q」「章のまとめ」**の問いの解答例を示しています。その他にも、適宜、発問例と解答例をプラスしています。
❺**板書例**　流れを簡潔にまとめた板書例を示しました。授業プリントの作成などにもご活用いただけます。
❻**教科書画像**　教科書を縮小して入れました。赤い英数字で解説や問いの解答例、板書例との対応も示しました。

＊**歴史資料と各時代の展望**のページは、充実した解説を付し、生徒が資料を活用した考察・表現をしやすい授業が展開できるよう工夫しました。
❼**ねらい**　取り上げた資料を扱う「ねらい」を示しました。
❽**問いの解答例・解説**　資料を詳しく解説し、問いの解答例や、考察・表現のアプローチを示しています。その他にも、適宜、発問例と解答例をプラスしています。

第15章 恐慌と第二次世界大戦
1 恐慌の時代
金融恐慌
学習の目標
解説 A第一次世界大戦後の日本経済
解説 B金融恐慌の発生
解説 C金融恐慌への対応
板書例
金融恐慌
⑴背景　第一次世界大戦後の日本経済　A
1920年　戦後恐慌
1923年　関東大震災→震災恐慌→震災手形の不良債権化
⑵金融恐慌の発生　B
きっかけ：片岡蔵相(憲政会・第１次若槻内閣)の失言
経過：銀行への取付け騒ぎ発生→銀行の休業相次ぐ(金融恐慌)
第１次若槻内閣：台湾銀行救済案
→枢密院：これを認めず→内閣総辞職
⑶恐慌への対応と鎮静化　C
①田中義一内閣(立憲政友会)の成立
高橋是清蔵相：モラトリアム(支払猶予令)の実施
日本銀行の非常貸出
②恐慌後の経済
５大銀行の台頭…財閥の中心
内外政策の転換
⑴普通選挙と政府の対応　A
1928年　第１回普通選挙　日本共産党活動公然化
1929年　三・一五事件…共産党員大量検挙
→治安維持法改正…最高刑を死刑へ　B
⑵積極外交の展開　C
中国：北伐の開始(蔣介石)→1927年　国民政府樹立(南京)
日本：田中義一内閣…東方会議の開催
北方軍閥の張作霖支援
山東出兵…日本人居留民の保護
1928年　張作霖爆殺事件…関東軍による陰謀
→田中内閣総辞職
内外政策の転換
学習の目標
解説 A第１回普通選挙と政府の対応
解説 B治安維持法改正
解説 C積極外交
図版 3張作霖爆殺事件


歴史資料と中世の展望
絵画から中世社会をさぐる
ねらい
解説 1「年中行事絵巻」(巻１、「朝覲行幸の図」)
図A 「法住寺御所の図」(「年中行事絵巻」巻１)
図B 「稲荷祭の図」(「年中行事絵巻」巻12)
図C 「蹴鞠に興じる貴族」(「年中行事絵巻」巻３)

高校日本史

関連教材

※紙面は制作中のものです。

教師用指導書 授業実践編　付属データ集 日探706準拠

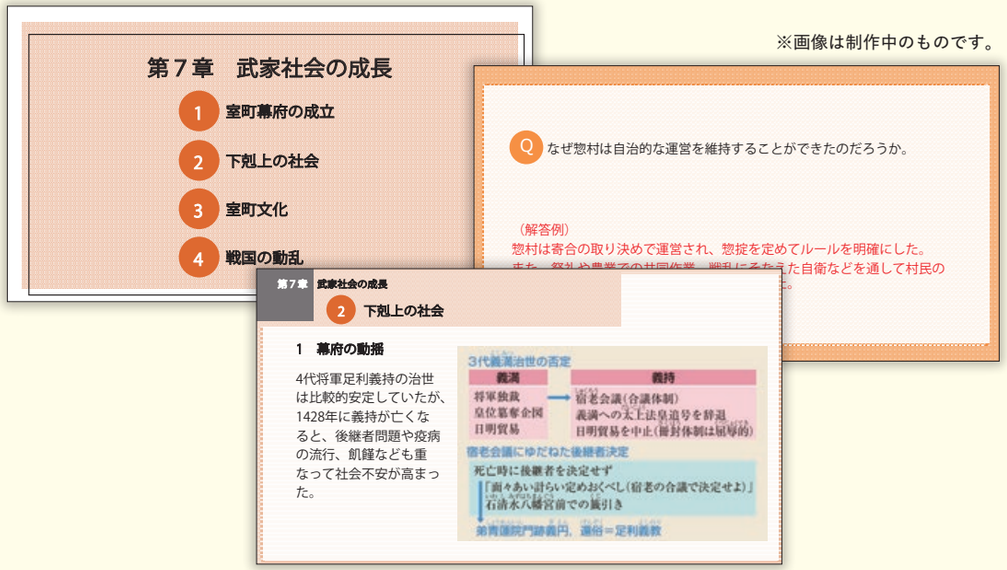
『教師用指導書 授業実践編』にはデータ集DVD-ROMが付属します。
授業準備やテスト問題の作成に、ぜひご活用ください。

付属データ集DVD-ROM　収録予定コンテンツ一覧

教科書データ	①教科書紙面	PDF	教科書全ページの紙面データ
	②教科書本文・史料テキスト	Word	本文・注・史料のテキストデータ
	③教科書掲載地図・図表	JPEG	カラー・モノクロ2種の画像データ
	④指導書紙面	PDF	指導書全ページの紙面データ
	⑤年間指導計画・評価規準例	Excel	カリキュラムにあわせて加工が可能
教科書準拠教材	⑥授業用スライド	PowerPoint	教科書の節ごとに構成 問いの解答例も収録
	⑦授業用スライド対応プリント	Word	スライドに対応したワークシート
	⑧準拠テスト例	Word	小問ごとに観点別評価を明記 テストに対応したルーブリック(評価規準表)付き
	⑨準拠ノート	Word、PDF	『高校日本史ノート』の紙面データ
	⑩白地図集	JPEG	プリント用、黒板用2種の画像データ

⑥授業用スライド(PowerPoint)

- 教科書の節ごとに構成されています。１スライド１メッセージを意識し、要点を理解しやすく工夫しています。
- 授業スタイルにあわせてアレンジが可能です。
- スライドに対応したワークシート(Word)もご用意しています。



※画像は制作中のものです。

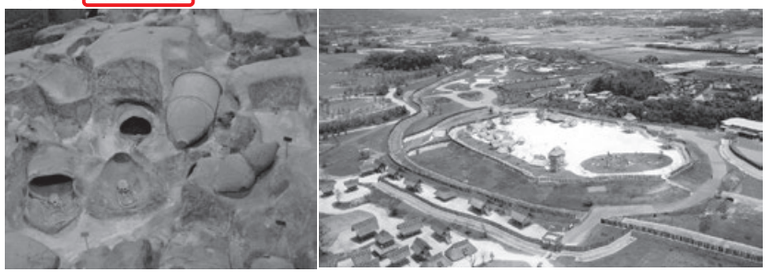
⑧準拠テスト例(Word)

〈１節ごとにA4約５枚収録予定〉

- 教科書の節ごとに構成されています。
- 小問ごとに観点別評価を明記しています。
- さまざまなパターンの出題形式を用意しています。

問１．レポート内の［　X　］・［　Y　］に入る文章の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
【思考・判断・表現】
ア　読み取り内容だけでなく、銅鐸が存在したということは水稲耕作にともなう戦いの準備につながり、人々にとって安定した定住生活が実現していたことも推測できる。
イ　読み取り内容だけでなく、銅鐸が存在したということは収穫を祈願し、収穫に感謝する際の祭りの道具が当時存在したこともうかがえる。
ウ　日本列島の広範囲において水田跡や関連施設の遺跡が見つかっていることから、食料採集文化から食料生産文化への移行がうかがえる。
エ　紫雲出山遺跡や唐古・鍵遺跡のような水田跡の遺跡が見つかっているが、北海道や南西諸島では遺跡が見つかっておらず、水稲耕作が受容されていなかったといえる。
2　X－ア　Y－ウ　②　X－ア　Y－エ　③　X－イ　Y－ウ　④　X－イ　Y－エ

問２．レポートも参考にして、資料 X・Y に関連する社会変化の説明文として正しいものをそれぞれ選びなさい。【知識・技能】



①　墓制の変化は集団の中に身分がうまれ、各地に有力者が存在したことを示す。
②　墓制に変化があらわれたことから集団内の身分差がない社会が継続されたことを示す。
③　集落を異国の外敵からまもるために海に面した集落が増えていった。

問題ごとに【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】のいずれに相当するのかを示しています。

※画像は制作中のものです。

- 準拠テスト例に対応した「ルーブリック(評価規準表)」を収録しました。
  A・B・Cの具体的な規準を例示しています。

例）第１章　日本文化のあけぼの

	A（十分満足）	B（おおむね満足）	C（不足している）
知識・技能	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立から日本列島の歴史的環境とその文化や原始社会の特色の歴史的特質を十分に理解している。 原始・古代の歴史的特質を示す複数の資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立の歴史的特質を理解している。 原始・古代の歴史的特質を示す資料から情報を読み取る技能を身に付けている。	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立の歴史的特質に関する理解が不足している。 原始・古代の歴史的特質を示す資料から情報を読み取る技能が十分に身に付いていない。
思考力・判断力・表現力	日本列島の変化や原始社会の変化、中国王朝との関係等の諸事象について背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題（問い）を設定し、複数の資料を比較したり関連付けたりして読み解き、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、表現している。	日本列島の変化や原始社会の変化、中国王朝との関係等の諸事象について主題（問い）を設定して、資料を読み解き原始・古代の特色について考察し、表現している。	日本列島の変化や原始社会の変化、中国王朝との関係等の諸事象について、主題（問い）の設定や資料の読み解きが不十分で、適切な考察にもとづき表現できていない。
主体的に学習に取り組む態度	原始・古代の日本と東アジアについて自ら関心をもって積極的に学習に取り組ん	原始・古代の日本と東アジアについて自ら関心をもって学習に取り組んでいる。	原始・古代の日本と東アジアについて自ら関心をもって学習に取り組まず、問い

高校日本史

高校日本史ノート

日探706準拠

B5判・160頁（予定）・2色刷

使いやすい見開き構成

- 左ページは、重要語句の穴埋めです。教科書本文にそって、歴史の流れと基本的な事項を習得できます。→❶
- 右ページは、教科書に掲載されている「読みとき」や、資料を用いた問いに取り組みます。→❷

ノートをご採用いただきますと、解答入りのWord・PDFデータをサービスでご提供いたします。

第8章

近世の幕開け

1　天下人の登場

教 p.108〜111

Check

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑬
⑭

近世への転換

a　16世紀なかば、ヨーロッパ人は、アジアの交易ルートに参入して、日本に（　①　）や（　②　）を伝え、増産された日本の銀を求めた。

銀の交易と鉄砲伝来

a　税の銀納化がすすんだ中国の明に、（　③　）などの**日本産の銀**が大量に流れこみ、日本には中国産の（　④　）などがもたらされた。

b　ポルトガルやスペイン、カトリック教会などヨーロッパを中心に、世界の諸地域が広く交流する（　⑤　）が始まった。

c　1543年、ポルトガル人が**種子島**に漂着し、彼らがもたらした（　①　）は**堺**などで製造が始まり、戦国大名に急速に広まった。

キリスト教と南蛮貿易

a　1549年、**イエズス会**の宣教師（　⑥　）が、鹿児島に来航し、（　②　）を伝えた。

b　（　⑦　）貿易の利益を得るため、（　②　）に入信する（　⑧　）大名があらわれ、家臣や領民にも（　②　）が広まった。

織田信長の政権

a　（　⑨　）と（　⑩　）の政権をあわせて**織豊政権**とよぶ。

b　（　⑨　）は、1560年の**桶狭間の戦い**で**今川義元**を破ると、徳川家康と同盟を結び、**足利義昭**とともに京都にのぼり、幕府を再興させた。

c　領国内の関所で通行料の徴収を禁じ、商業都市**堺**の支配に乗り出した。

d　1571年、比叡山延暦寺を焼討ちし、1573年には足利義昭を京都から追放して、1575年、**長篠の戦い**で（　①　）を多用し武田氏を破った。

e　1576年、近江の琵琶湖畔に（　⑪　）を築き始め、その城下町を**楽市**として商業税を免除し、普請や伝馬の負担も免除して繁栄をはかった。

f　1582年、重臣の**明智光秀**にそむかれて**本能寺の変**でほろびた。

豊臣秀吉の全国統一

a　1582年、（　⑩　）は光秀を討ち、柴田勝家も破って、1583年、本願寺の跡地に（　⑫　）を築き始めた。

b　1587年、九州を支配下におき、1590年、関東の北条氏を攻めほろぼし、東北の大名を服属させ、全国の領主を支配下におさめた。

c　（　⑬　）につき、（　⑭　）の姓を与えた**後陽成天皇**を**聚楽第**へ招いて諸大名に政権への忠誠を誓わせるなど、天皇の権威を利用した。

読みとき

戦国大名と天下人の印章

戦国時代には大名が印章をもちいるようになった。①の虎の印判状は「領民の財産と生命を守ってゆく」という意味。②はイエズス会を示すIHSと洗礼名フランシスコからとったとされる。③は有名な織田信長の「天下布武」の印。この場合の「天下」は京都周辺をさす。④⑤は秀吉と家康が外交に使ったが、④は「豊臣」と大きく2文字だけ、⑤は「源家康忠恕」とある。「忠恕」は真心・思いやりを意味する。

それぞれの印文から、彼らのどのような政治姿勢を読みとることができるだろうか。考えたり、話しあったりしてみよう。（印章は実寸の3分の1）

①小田原北条氏（禄寿応穏）　②大友宗麟（IHS FRCO）　③織田信長（天下布武）　④豊臣秀吉（豊臣）　⑤徳川家康（源家康忠恕）

・その他の大名の印章も調べてみよう。

❶教科書にそって、内容をわかりやすくまとめています。Check欄に**重要語句**を記入することで、基礎用語の定着をはかります。

❷左ページで習得した知識をもとに、資料を用いた問いに取り組みます。**思考力・表現力**が身につきます。

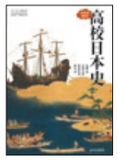
重要語句は、穴埋めと**赤字**の2段階で整理しているので、視覚的にも重要度を確認できます。

自由に使えるノート欄を設けています。

※紙面は制作中のものです。

年間指導計画・評価規準例 （※３単位、年間105時間）

※小社HPに全体のExcelファイルを用意しています。ダウンロードしてご利用ください。



学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

使用教科書・副教材

教科書：『高校日本史』
副教材：『高校日本史ノート』
『山川ビジュアル版日本史図録』

節	章	節	配当時 月	配当時 授業時数	配当時 授業時	学習内容とねらい
第Ⅰ部 原始・古代	第1章 日本文化のあけぼのの	1 文化の始まり	4月	4	1 2	①氷河期にアジア大陸から現在の日本列島に人類が渡ってきて、その後渡来した人びとなどと混血をくり返し日本人が形成されたことを考察する。 ②遺跡・遺物など考古学上の知見から、旧石器文化から縄文文化の時代の人びとの暮らしを考察する。
		2 農耕の開始			3 4	①中国大陸から農耕とそれを支える文化要素が渡来し、日本に本格的な農耕文化が形成されたことを考察する。 ②農耕の発展によって私有財産と身分の差が生まれ、集落間の対立抗争からより広域を支配する権力が形成されたことを、遺跡・遺物の発掘や中国の文献から考察する。 ③狩猟社会から農耕社会への変化に着目して、時代を通観する問いを表現する。
	歴史資料と原始・古代の展望	①古代社会と海外との交流		2	5	①中国の歴史書の記事を通して読み取れる情報をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権(倭国)と中国・朝鮮半島諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。 ②古代社会の東アジアとの交流は、ヤマト政権や律令国家の展開に向けてどのように変化していったか、仮説を表現して展望する。
		②木簡から古代国家を探る			6	①遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を基本とする律令制下での中央・地方と関係や役所の動きについて、多面的・多角的に考察する。 ②古代の中央・地方をめぐる租税の物流や地方における漢字文化の広がりについて、仮説を表現して展望する。
	第2章 古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開		4	7 8	①ヤマト政権の成立と発展、中国大陸・朝鮮半島との関係について、各種金石文や文献から考察する。 ②古墳文化の特徴を前期・中期・後期のそれぞれについて考察するとともに、その時代の様子を古墳文化の様々な要素から考察する。 ③古墳時代の人びとの生活や信仰、渡来人のもたらした文化について考察する。
		2 飛鳥の朝廷	5月		9 10	①ヤマト政権の権力争いや大陸文化との関係の変化に着目し、推古朝の政治や外交について考察する。 ②飛鳥文化には中国大陸・朝鮮半島との交流の影響がみられることを理解する。
	第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道		6	11 12	①大化の改新や律令国家が成立するまでの政治過程について、東アジアの変動を踏まえて考察する。 ②律令国家の仕組みや、律令制が日本の歴史に与えた影響について理解する。
		2 平城京の時代			13 14	①日本と東アジアとの関係について、使節や留学生・僧の往来に着目して考察する。 ②奈良時代の政治の流れを理解し、その背景について考察する。
		3 律令国家の文化			15	①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②律令国家の繁栄を背景に成立した天平文化について、国家鎮護を目的とした国家仏教や唐の影響を強くうけた美術や絵画の特色に着目して考察する。
		4 律令国家の変容			16	①桓武・嵯峨天皇による律令制度の建て直しと、その後の政治制度の変質について考察する。 ②密教の広まりや、神仏習合などの仏教の日本化が進んだこと、さらに弘仁・貞観文化の特色について考察する。
	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治		4	17	①９～10世紀にかけての藤原北家の勢力拡大や、律令制支配の衰退と地方支配の仕組みの変質が中世的な世界を生み出していくことについて考察する。 ②東アジアの変動が、日本の対外関係に与えた影響を考察する。
		2 国風文化			18	①国風文化の成立について、東アジア社会の変動と関連させて考察するとともに、国風文化が日本の伝統文化に与えた影響について考察する。 ②浄土信仰という仏教の新しい動きについて、その社会的な背景とともに考察する。
		3 荘園の発達と武士団の成長	6月		19 20	①寄進地系荘園の成立など土地制度が変化したことについて考察する。 ②棟梁を中心とした大武士団が成立していく過程や、次第に政治的な力を持つようになったことについて考察する。
第Ⅱ部 中世	第5章 院政と武士の躍進	1 院政の始まり		3	21	①外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ②院政がどのように成立し、展開したのか、古代から中世への歴史の転換と関連づけて考察する。
		2 院政と平氏政権			22 23	①院の信任を得て台頭した平氏が、保元・平治の乱を通じて勢力を拡大し、政権を獲得した過程を考察し、また、その政権基盤や特色などについて考察する。 ②院政期に、どのような文化が形成され、広まったかについて考察する。 ③古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。
	歴史資料と中世の展望	絵画から中世社会をさぐる		2	24 25	①政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。

科目全体の評価の観点(指導要領の目標)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の規準 知識・技能【評価の方法】定期考査／提出課題／発問評価	思考・判断・表現【評価の方法】定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	主体的に学習に取り組む態度【評価の方法】提出課題／授業態度／発表・レポート提出
日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変化を、自然環境の変化や大陸からの影響に着目して理解している。	遺物や遺構など考古学上の知見から、旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。	黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化・縄文文化の特色を明らかにしようとしている。
水稲耕作や金属器の伝来が日本列島の社会に与えた影響を理解し、発掘調査成果から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	「クニ」の形成から邪馬台国などの小国の連合について、遺跡・遺物や「魏志」倭人伝などの文献資料から多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。	日本列島における農耕社会の特色とともに、国家形成につながる社会の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。
中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	中国の歴史書の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	日本列島における小国およびヤマト政権と中国・朝鮮半島などとの交流について考察することを通じて、古代の対外交流の実態を明らかにしようとしている。
木簡の記録をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけ、歴史資料や遺構の保存・保全の努力が図られていることを理解している。	木簡の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。	木簡を資料として活用し、律令国家における漢字文化の広がりについて主体的に考察しようとしている。
中国大陸・朝鮮半島との関係に着目し、渡来人のもたらしたものが現在の日本文化の基層にあることを理解している。	諸資料を収集して分析し、ヤマト政権の発展や古墳文化の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成と連合について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。
推古朝の政治や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。	仏教の受容や遣隋使・遣唐使の派遣などの大陸との交流について、諸資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。	中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や飛鳥文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響や、律令制の形成を中心に大化の改新以降の政治過程を理解している。	律令体制について、政治や地方の動向なども踏まえて多角的に考察し、表現している。	隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。
平城京における律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。	文献資料をもとに、諸勢力の対立と土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。	平城京における政治史の流れに着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。
隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。	盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。	隋・唐などの中国王朝から受容した文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。
平安初期の政治とその後の律令体制の変容について、蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて理解している。	桓武天皇や嵯峨天皇の政策に着目して、律令制の変容について考察し、表現している。	東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。
藤原北家の発展過程や地方支配の変化を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。	地方支配の変化に着目し、奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特質とその後の展開について考察し、根拠を示して表現している。	唐の衰退による東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。
それまで吸収してきた中国文化をふまえて国風文化が形成されたことを理解する。浄土信仰が広まった背景について、諸資料から当時の人々の心のありようを読み取る技能を身につけている。	国風文化の形成について、国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえて考察し、かなの成立などが、後の日本文化におよぼした影響について考察し、表現している。	摂関時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。
武士団の仕組みや武士の反乱、成長などに着目して、律令体制や地方社会の変容を理解している。	土地制度の変化について、史料を読み取りながら考察し、根拠を示して表現している。	国司や地方支配の在り方の変化、武士の出現など、地方の諸勢力の成長が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
貴族政治や土地支配の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。	武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。	中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。
院政期における武士の影響力の拡大や平氏政権の展開、文化が庶民や地方に広まったことなどについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武家政権の成立について理解している。	武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。	古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。
3つの絵画を比較して、様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、歴史資料の保存・保全の努力が図られていることを理解している。	複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。	中世の京都を描いた絵画資料から得られる情報をもとに、中世社会の特色について主体的に課題を見出そうとしている。

日本史探究

指導者用デジタル教科書（教材）

日探705準拠　日探706準拠

- 電子黒板やプロジェクターでご利用いただく、指導者用のデジタル教科書（教材）です。学習者用と共通の専用ビューアは直感的に使いやすく、授業に便利な機能も充実しています。
- 学習者用の基本機能に加え、「地図・グラフアプリ」「めくり紙アプリ」「Q&Aアプリ」など指導者用独自の、授業に便利な機能が付加されます。

※画像は『詳説日本史』のサンプルです。制作中のため、変更の可能性があります。

おもな機能

- 基本的な機能は、「学習者用」と共通です。

検索	検索	用語を入力して掲載ページを検索・移動します。	道具	道具	タイマー、ふせん、ポインター、リンク貼り付けなどが使用できます。
ペン・マーカー	ペン マーカー	色、透明度、太さの設定が変更できます。	記録	記録	書き込みをした内容の保存、読み込みができます。
図形・スタンプ	図形 スタンプ	図形は色、透明度、太さが選べます。スタンプは初期登録の素材の他、画像データを読み込んで貼ることができます。	表示設定	表示設定	全画面表示への切替えや、紙面上のクリックポイントの表示などの設定ができます。
消す	消す	消しゴムでの部分消去や全消去、「元に戻す／やり直す」操作ができます。	ズーム	ズーム	紙面の拡大表示ができます。
▶	リンク	教科書紙面の2次元コードは動画や文書のアイコンとなっており、動画視聴Webサイトや関連コンテンツへとリンクします。※オンライン環境が必要です。			

指導者用デジタル教科書（教材）　供給媒体

〔インストール版〕（学校内Webサーバーまたはスタンドアロン）

DVD-ROM媒体にて納品いたします。収録されているデジタル教科書のデータを学校・教育委員会等に設置されているWebサーバーにアップロードして各利用者端末からアクセスしてご利用いただくか、各利用者端末に直接インストールしてご利用ください。端末インストール（スタンドアロン）はWindows PCのみ対応しています。
【同一の学校建物内の指導者用端末に限りインストール数の制限なし】

〔クラウド版〕

オンライン環境にて、各利用者端末から当社指定のクラウドサーバーへアクセスしてご利用ください。各端末での個別のインストール作業は不要です。
【校内フリーライセンス】

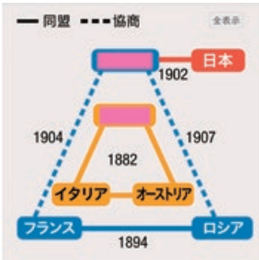
指導者用デジタル教科書（教材）の独自機能

●地図・グラフアプリ

アプリアイコンがついている地図・グラフは、凡例（領域・矢印など）やデータ系列ごとに表示／非表示の切替えができます。必要に応じて、特に説明したい要素だけを表示することができます。

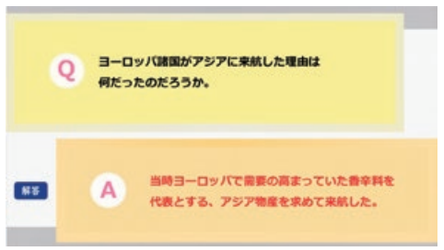
●めくり紙アプリ

図版の特定の文字を隠す「めくり紙」が設定されているアプリです。めくり紙の部分をクリック／タッチすると隠れている文字が表示されます。
「全表示」ボタンで、すべてのめくり紙を同時に外すことができます。



●Q&Aアプリ

紙面の発問をクリックすることで、問いかけに対する解答例を表示することができます。
（解答例の表示／非表示の切替が可能です）



学習者用デジタル教科書

日探705準拠　日探706準拠

- 指導者用と共通の専用ビューアは直感的に使いやすく、学習に便利な機能も充実しています。
- 教科書紙面掲載の2次元コードコンテンツは外部リンク機能として利用でき、関連するコンテンツが閲覧できます。（※オンライン環境が必要です）
- 文具機能も充実しています。書き込んだ情報は、ユーザーごとに保存ができます。

※画像は『詳説日本史』のサンプルです。制作中のため、変更の可能性があります。

おもな機能

- 基本的な機能は、「指導者用」と共通です。

検索	検索	用語を入力して掲載ページを検索・移動します。	道具	道具	タイマー、ふせん、ポインター、リンク貼り付けなどが使用できます。
ペン・マーカー	ペン マーカー	色、透明度、太さの設定が変更できます。	記録	記録	書き込みをした内容の保存、読み込みができます。
図形・スタンプ	図形 スタンプ	図形は色、透明度、太さが選べます。スタンプは初期登録の素材の他、画像データを読み込んで貼ることができます。	表示設定	表示設定	全画面表示への切替えや、紙面上のクリックポイントの表示などの設定ができます。
消す	消す	消しゴムでの部分消去や全消去、「元に戻す／やり直す」操作ができます。	ズーム	ズーム	紙面の拡大表示ができます。
	リンク	教科書紙面の2次元コードは動画や文書のアイコンとなっており、動画視聴Webサイトや関連コンテンツへとリンクします。※オンライン環境が必要です。			

学習者用デジタル教科書（教材）　供給媒体

〔インストール版〕（学校内Webサーバーまたはスタンドアロン）

DVD-ROM媒体にて納品いたします。収録されているデジタル教科書のデータを学校・教育委員会等に設置されているWebサーバーにアップロードし、各利用者端末からアクセスしてご利用いただくか、各利用者端末に直接インストールしてご利用ください。端末インストール(スタンドアロン)はWindows PCのみ対応しています。
【インストール可能数＝ユーザー数（教科書を利用する生徒数）】

〔クラウド版〕

オンライン環境にて、各利用者端末から当社指定のクラウドサーバーへアクセスしてご利用ください。各端末での個別のインストール作業は不要です。
【１ユーザー１ライセンス】

指導者用／学習者用デジタル教科書　商品概要

	指導者用デジタル教科書（教材）	学習者用デジタル教科書
ライセンス形態	**学校内フリーライセンス** ご購入いただくことで、学校内の指導者用端末で何台でもご利用が可能です。ライセンス有効期間は4年間となります。	**1ユーザー1ライセンス** 必要な人数分のライセンスをご購入いただき、学習者用端末でご利用ください。紙の教科書のご利用期間中はライセンスが有効となります。
利用者端末動作環境	**動作保証環境** ● iPad OS※　ブラウザ：Safari ● Chrome OS※　ブラウザ：Google Chrome ● Windows 8.1/10/11　ブラウザ：Microsoft Edge･Google Chrome ※iPad OS・Chrome OSはクラウド版、または学校内Webサーバー環境のみご利用可能。インストール版（DVD版）の端末インストールはご利用いただけません。	
基盤システム	デジタル教科書の提供・表示ビューアの基盤となるシステムとして「みらいスクールプラットフォーム」(https://www.mirai-school.jp/platform/)を採用しています。専用のビューアはMicrosoft Edge、Google Chrome等のブラウザで動作します。	

※紙の教科書をご採用いただいた場合に限り、対応する「指導者用デジタル教科書」「学習者用デジタル教科書」のライセンスをご購入いただくことが可能です。
※本資料のデジタル教科書の画面イメージ・記載内容は開発中の情報を含むため、製品版において変更になる場合があります。

Microsoft、Windows、Word、Excel、PowerPointならびにすべてのMicrosoftの商標ロゴは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationおよびその関連会社の登録商標または商標です。

日本史探究　著作者一覧

（2022年３月現在・五十音順）

詳説日本史 日探705

詳しい内容と豊富な史資料
信頼の教科書

★各時代・各分野をバランスよく記述、充実した内容。
★探究活動に取り組みやすい大きな図版、豊富な史資料。
★時代の特色をつかむ多様な問いかけ。

高校日本史 日探706

豊富な材料で楽しく学べる
生徒が読んでわかる教科書

★要点をおさえた、わかりやすい教科書。
★興味・関心を高める工夫と、豊富な史資料。

會田　康範（あいだやすのり）
学習院高等科教諭
日本史教育
- 詳説日本史
- 高校日本史

大津　透（おおつとおる）
東京大学教授
日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

桜井　英治（さくらいえいじ）
東京大学教授
日本中世史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 中学歴史

老川　慶喜（おいかわよしのぶ）
立教大学名誉教授
日本近代・現代史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合707

五味　文彦（ごみふみひこ）
東京大学名誉教授
日本中世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

佐藤　信（さとうまこと）
東京大学名誉教授
日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

大熊　俊之（おおくまとしゆき）
埼玉県立不動岡高等学校教諭
日本史教育
- 高校日本史

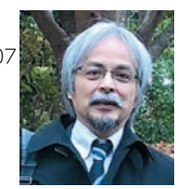
早乙女　雅博（さおとめまさひろ）
東京大学名誉教授
考古学
- 詳説日本史
- 高校日本史

設楽　博己（したらひろみ）
東京大学名誉教授
考古学
- 詳説日本史
- 高校日本史

太田尾　智之（おおたおともゆき）
東京都立国立高等学校教諭
日本史教育
- 詳説日本史

坂上　康俊（さかうえやすとし）
九州大学名誉教授
日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

鈴木　淳（すずきじゅん）
東京大学教授
日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合707



高埜　利彦（たかのとしひこ）
学習院大学名誉教授
日本近世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

沼尻　晃伸（ぬまじりあきのぶ）
立教大学教授
日本近代・現代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

村　和明（むらかずあき）
東京大学准教授
日本近世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

高橋　典幸（たかはしのりゆき）
東京大学教授
日本中世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

野﨑　雅秀（のざきまさひで）
東京大学教育学部附属中等教育学校教諭
日本史教育
- 詳説日本史
- 歴史総合707

山口　輝臣（やまぐちてるおみ）
東京大学教授
日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

多田　万里子（ただまりこ）
埼玉県立熊谷西高等学校教諭
日本史教育
- 高校日本史

牧原　成征（まきはらしげゆき）
東京大学准教授
日本近世史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合707

湯川　文彦（ゆかわふみひこ）
お茶の水女子大学准教授
日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

豊田　基裕（とよだもとひろ）
東京都立大江戸高等学校教諭
日本史教育
- 高校日本史

三枝　暁子（みえだあきこ）
東京大学准教授
日本中世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

吉田　伸之（よしだのぶゆき）
東京大学名誉教授
日本近世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

中家　健（なかいえたけし）
東京都立小石川中等教育学校教諭
日本史教育
- 詳説日本史
- 歴史総合707

三谷　芳幸（みたによしゆき）
筑波大学准教授
日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

渡邉　宏明（わたなべひろあき）
海城中学高等学校教諭
日本史教育、日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 歴史総合709
- 中学歴史

詳説日本史 日探705

詳しい内容と豊富な史資料
信頼の教科書

- 各時代・各分野をバランスよく記述、充実した内容。
- 探究活動に取り組みやすい大きな図版、豊富な史資料。
- 時代の特色をつかむ多様な問いかけ。

B5変型版(230mm×174mm)　**398頁**

●図版(写真)	363点	●地図	46点	●グラフ・図	147点 (グラフ45+系図18+図50+表34)
●文字史料	87点	●二次元コード	23点		

高校日本史 日探706

豊富な材料で楽しく学べる
生徒が読んでわかる教科書

- 要点をおさえた、わかりやすい教科書。
- 興味・関心を高める工夫と、豊富な史資料。

B5判(257mm×182mm)　**302頁**

●図版(写真)	519点	●地図	63点	●グラフ・図	144点 (グラフ39+系図14+図63+表28)
●文字史料	74点	●二次元コード	69点		

小社ホームページでもご案内いたしております。
日本史探究教科書の紹介動画もございますので、
ぜひご覧ください。

山川HP
日本史探究
特設サイト

山川出版社
〒101-0047　東京都千代田区内神田1-13-13
TEL 03-3293-8131　FAX 03-3292-6469
https://www.yamakawa.co.jp/